

「レポート力」アップのための情報探索入門 2014

目次

はじめに	4
第1章 レポート作成その前に ～テーマに関する基礎知識を手に入れよう～	5
1. レポートと情報探索	
1.1 レポートとは？	5
1.2 レポートの構成	5
1.3 レポートの作成手順	6
1.4 良いレポートとは？	6
2. 基礎知識と用語の調べ方	
2.1 事前調査の手順	7
2.2 辞典・事典の特徴	8
2.3 ウェブ版百科事典の特徴	10
2.4 インターネットの特徴	14
3. 確実なスタートへ	
3.1 スタートの準備	16
3.2 効率的な情報探索	16
3.3 テーマの具体化	17
3.4 高みを目指して	17
◆実習問題	18
第2章 テーマを具体化しよう	19
1. テーマ設定	
1.1 テーマの具体化	20
1.2 テーマ設定の仕方	20
2. キーワードの選択	
2.1 キーワードの確認	22
2.2 キーワードの選択に有効なツール	23
3. 資料を探す	
3.1 資料の種類	25
3.2 直接探す：ブラウジングと参考文献	26
3.3 ツールで探す：ツール選択	27
3.4 ツールで探す：図書・雑誌を OPAC で探す	28
◆実習問題	34
第3章 もっと素材を集めよう（1） 雑誌論文	37
1. レポートに必要な情報	
1.1 レポート作成の手順	37
1.2 さまざまな情報原	37
2. 雑誌論文とは	
2.1 研究と論文	38
2.2 2種類の雑誌	38

2.3	論文の種類と中身	39
2.4	論文活用のメリット	39
3.	論文を探す手順	
3.1	「論文情報の検索」と「所在の検索」	40
3.2	論文検索の流れ	40
3.3	OPAC（蔵書検索）のできること、できないこと	41
4.	文献情報データベースを使ってみよう	42
5.	論文を読むには	
5.1	まず「電子ジャーナル」で読んでみよう	44
5.2	電子ジャーナルがないときは？---冊子体を探そう！	48
5.3	図書館に冊子体もないときは？---論文のコピーを取り寄せよう！	49
6.	論文を選ぶ	
6.1	検索語の選び方	52
6.2	参考文献リストを使った検索	52
6.3	論文の選び方	52
7.	もっと便利に	
7.1	その他のツール（データベース・ツールインデックス）	53
7.2	どこからでもDBやEJを使えるリモートアクセス	53
◆	実習問題	54

第4章 もっと素材を集めよう（2）新聞・統計資料 56

1.	新聞資料	
1.1	新聞とは	56
1.2	新聞活用のメリット	57
1.3	新聞の特徴と注意点	58
2.	新聞記事の探し方	
2.1	新聞記事を探す手順	59
2.2	新聞記事検索の特徴と注意点	59
2.3	東北大学で利用できる新聞記事データベース	62
2.4	新聞記事を探してみよう	62
3.	統計資料	
3.1	統計資料とは	64
3.2	統計活用のメリット	64
3.3	統計の特徴と注意点	64
4.	統計資料の探し方	
4.1	統計を探す手順	65
4.2	統計を探してみよう	66
5.	レポートで使うコツ	67
◆	実習問題	70

第5章 自分なりの着眼点をみつけよう ～レポートの土台作り～ 71

1.	レポートに必要な要素	
1.1	レポートの土台	71
2.	扱う問題と着眼点	
2.1	「テーマ」から「扱う問題」へ	72

2.2	着眼点はオリジナリティ	72
2.3	仮説を立てたら必ず検証	73
2.4	扱う問題と着眼点を見つけるまで ～はぎのすけの場合～	73
2.5	これまでのまとめ	74

第6章 論理的なレポートを書くために 75

1.	アウトラインの組み立て方	
1.1	レポートの構成の再確認	75
1.2	扱う問題と結論が対応しているか	76
1.3	結論までの論理の流れを整理する	77
1.4	アウトラインから実際の文章へ	78
2.	わかりやすい文章表現とは	
2.1	学生のレポートでよくある問題点	78
2.2	文章のまとまりの構成を意識する	79
2.3	文章のまとまり同士の接続	81
2.4	初歩的な文章作法のチェック	82
2.5	推敲することが大切	83
◆	実習問題	84

第7章 集めた素材を活用しよう ～事実や意見に対する自分の意見をまとめる～ 87

1.	文献から集めた素材を活用しよう	
1.1	レポートの論述の基本形式	87
1.2	素材活用のために「引用」というテクニックを覚えよう	88
2.	引用とは ～信頼性と説得力を高めるために～	
2.1	引用の目的と効果	88
2.2	引用文献と参考文献の違い	88
3.	正しい引用とは ～レポートや論文の基本ルール～	
3.1	引用の条件	89
3.2	引用文献の示し方	89
3.3	引用文の作成方法	90
4.	引用文献・参考文献リストの書き方	
4.1	文献リスト作成のタイミング	92
4.2	文献リストに必要な要素と記述方法	92
◆	実習問題	96

第8章 よりよいレポートを目指して ～客観的に見直そう～ 98

1.	レポートを提出する前に	
1.1	客観的にチェックしてみよう	98
1.2	レポートの評価ポイント	98
◆	レポート作成チェックリスト	99

付録 103

◆	実習問題 解答	103
◆	レポート作成例	113

はじめに

本テキストは、東北大学の学生が、必要な情報を収集し、それらの情報を利用してレポートを作成するための基礎的な知識と技能を習得することを目的としています。

内容は、本学の全学教育科目で1年生向けに開講している「『レポート力』アップのための情報探索入門」の授業の一部で配付した資料に若干の修正を加えたものでありますが、今年度は開講曜日の変更に伴い授業回数が増えており、例年よりさらに情報収集やレポート作成法の内容が充実したものとなっています。

学生の皆様には、本テキストで今後の学習生活に役立つ情報探索能力を養っていただくと共に、教員の皆様にも授業の中でご活用いただければ幸いです。

平成 26 年 3 月
東北大学附属図書館
図書館情報教育支援 WG

参考

『東北大学生のための情報探索の基礎知識』シリーズ
http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/index.php?cat_id=3

東北大学全学教育科目授業
「レポート力」アップのための情報探索入門
http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/index.php?cat_id=5

第1章 レポート作成その前に ～テーマに関する基礎知識を手に入れよう～

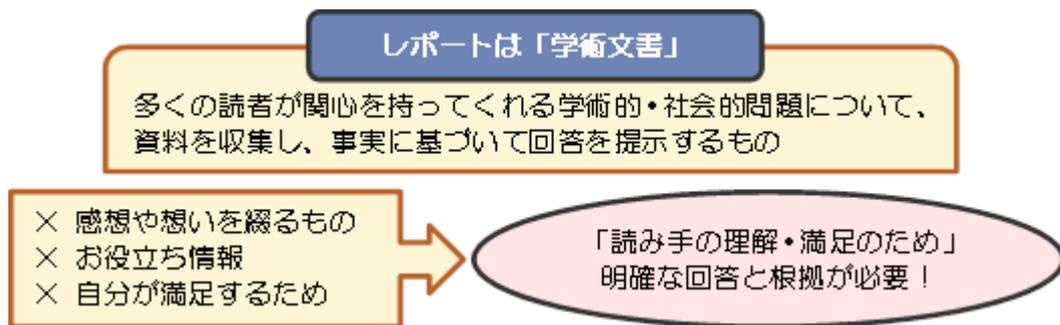
■ 本章の目的

良いレポートを作成するためには、事前の準備が大切です。この章では、その準備としてレポートの作成手順と、その手順における情報探索の必要性を学習し、レポート作成のスタートであるテーマ設定に向けて基礎知識や用語の調べ方をマスターしましょう。

1. レポートと情報探索

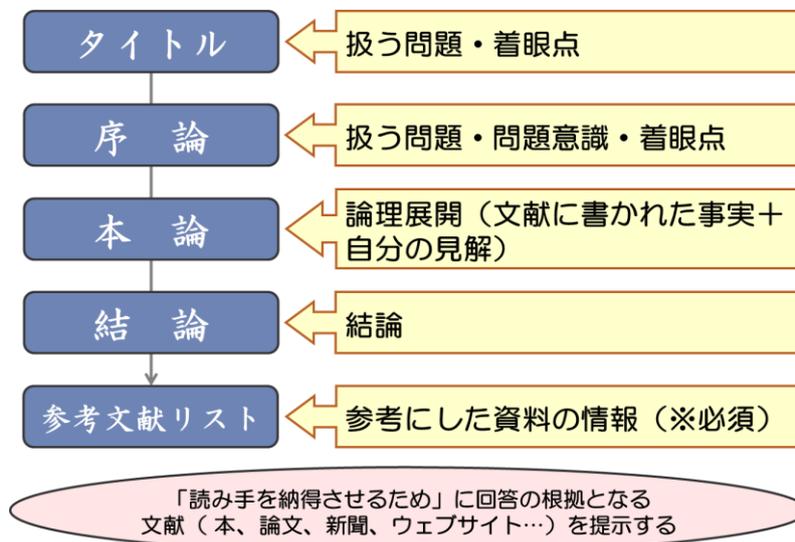
1.1 レポートとは？

まずはレポートの定義と目的を確認しましょう。レポートの作成にあたっては、そもそもレポートとは何か？何のために作成するのか？を常に意識することが重要です。



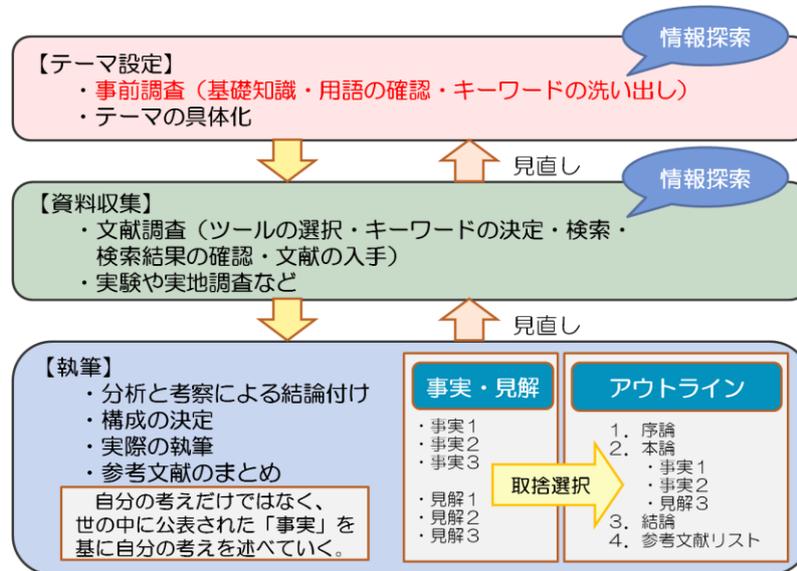
1.2 レポートの構成

レポートの基本的な構成は以下の通りです。レポートの読み手を意識し、読み手を納得させるために、参考文献リストは必ず記載しましょう。参考文献リストがないと、レポートの信頼性や説得力は大きく損なわれてしまいます。注意してください。



1.3 レポートの作成手順

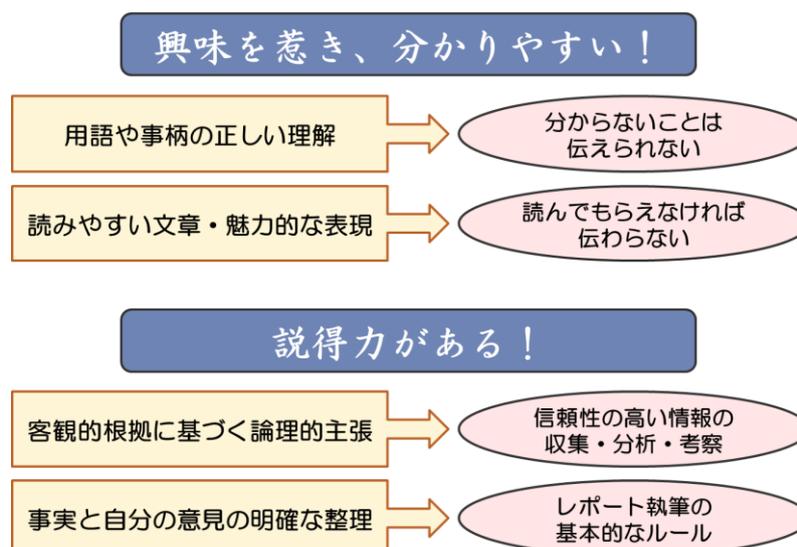
レポートの主な作成手順は以下の通りです。いきなり執筆はせず、テーマを吟味し、資料を読み込んで十分に考察しましょう。良いレポートを作成するためには、テーマ設定やその回答の根拠となる資料の収集の際に、丁寧な情報探索を行うことが重要です。



なお、この手順は、一方通行ではありません。随時試行錯誤を繰り返し、各段階を行き来することで、レポートの質を高めることができます。

1.4 良いレポートとは？

良いレポートの条件は、大きく分けて以下の2つです。読み手を意識することが、重要なポイントになります。

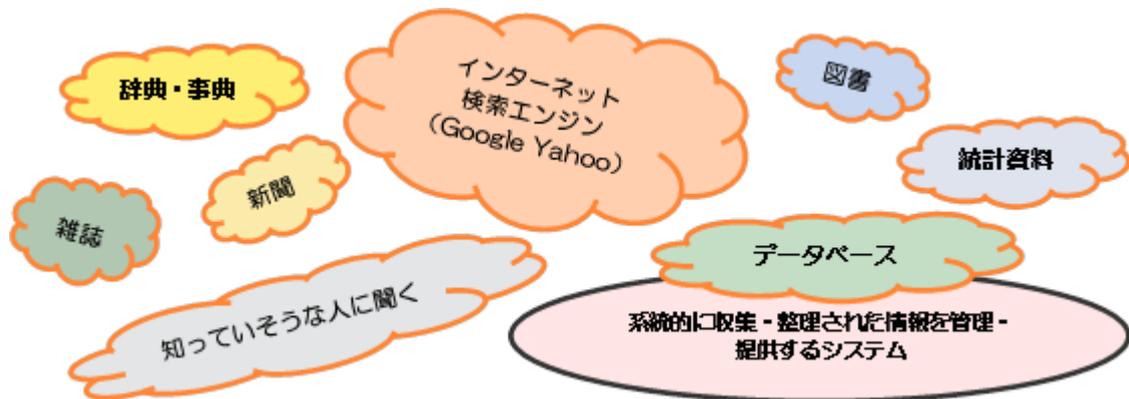


読み手に読んでもらい、あなたの主張が読み手に確実に伝わってこそ、良いレポートといえます。そのために必要な知識の習得、読み手への配慮、明確な根拠の収集、ルールの遵守は、怠らないようにしてください。

2. 基礎知識と用語の調べ方

2.1 事前調査の手順

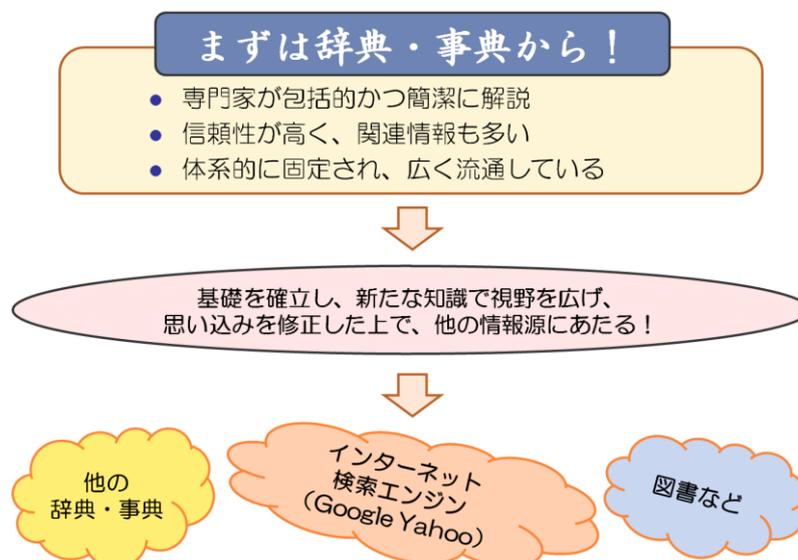
何かを調べるとき、その手段・調べる道具（ツール）は様々あります。



以下は、代表的なツールの特徴をまとめた表です。どれか1つが優れているわけではなく、それぞれに長所・短所がありますので、特徴を良く理解し、状況に応じて使い分ける必要があります。

ツール 特徴	辞典・事典 (冊子体)	ウェブ版 百科事典	ウィキペディア	インターネット
信頼性	高い	高い	様々	様々
更新頻度	低い	定期的	様々	様々
分野	学術的	学術的	様々	様々
過去の参照	可能	不可	可能	一部可能
利便性	購入 図書館蔵書	有料 (学内は無料)	無料	無料

レポートを作成するにあたっては、最初に自分の基礎知識を信頼性の高い学術的な情報で補強する必要があります。まずは辞典・事典を使いましょう。



2.2 辞典・事典の特徴

辞典・事典を使いこなすために、その特徴について理解しましょう。ここでは以下の3つ観点から解説していきます。



なお、「辞典」も「事典」も同じく「じてん」と読みますが、実は意味は異なります。純粋な言葉の意味を調べたいのか、事柄の背景や現状を調べたいのかなど、目的によって使用する「じてん」は異なりますので、注意してみてください。



(1)豊富な内容・高い専門性

以下は、主な辞典・事典を表にまとめたものです。ありとあらゆる分野について幅広い知識を集約した「百科事典」や、人名や地名、あるいは特定の分野に特化し高い専門性を有する「人名事典」「地名事典」「専門事典」のように様々な種類があり、インターネットでは探すことができない情報も数多く収録しています。

種類	例
百科事典	『日本大百科全書』 『ブリタニカ国際大百科事典』 『世界大百科事典』 『The Encyclopedia Americana』 『化石の百科事典』 『鉄道の百科事典』 『ストレス百科事典』 …
人名事典	明治期の政治家について調べる → 『図説明治人物事典』 Tim Cook氏の略歴を調べる → 『Who's who in America』 オリンピックの金メダリストを調べる → 『世界スポーツ人名事典』
地名事典	中国の地名を調べる → 『精選中国地名辞典』 平安時代の地名と語源について調べる → 『古代地名語源辞典』 ハナナの叩き売り発祥の地を調べる → 『日本全国 発祥の地事典』
専門事典	『相撲大事典』 『絶滅危惧の昆虫事典』 『まちづくり事典』 『エアロビクス事典』 『日本職人ことば事典』 『アニメ作品事典』 『ぜんぶわかる筋肉・関節の動きとしくみ事典』 …

分からないことやあやふやなことは、読み手に伝えることができません。すでに知っていることも、誤解や思い込みという可能性もあります。読み手に正確な情報を伝えるために、まずは興味のある辞典・事典を「読み込ん」で、揺るぎない基礎を築きましょう。

(2)情報への多角的なリンク

百科事典には、収録されている字句や事項をまとめて配列した「索引」があり、この「索引」を使うことでその非常に幅広い収録内容をより効率的に活用することができます。

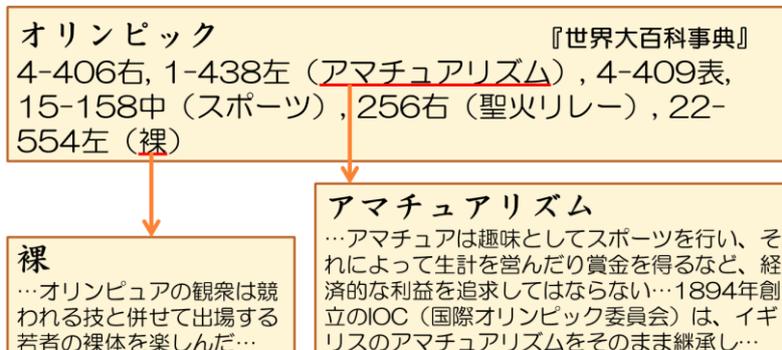


写真：日本大百科全書（小学館刊）

百科事典 = 本誌（数十冊） + 索引（数冊）

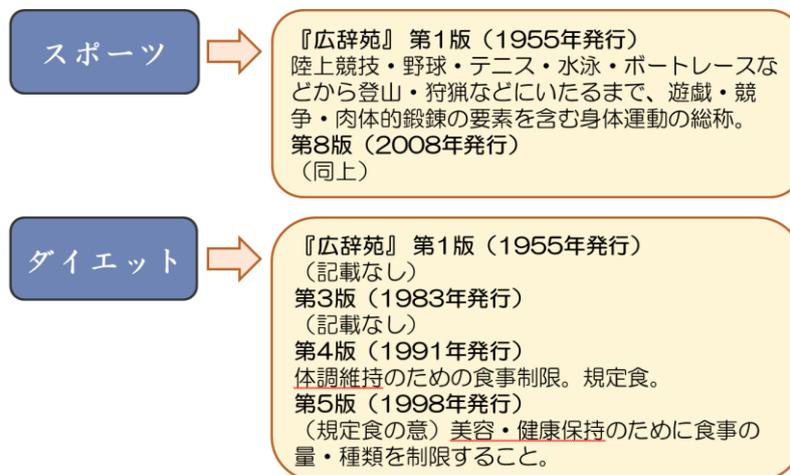
索引とは、百科事典の中の字句や事項をまとめて配列し、掲載ページを容易に探し出すためのもの。

以下は『世界大百科事典』の索引の例です。索引によって複数の事柄が結びついていることが分かります。索引を効果的に使うことで見出しだけでは知り得なかったキーワードの発見や、複数の観点を知ることにより事柄の多角的な理解が可能となりますので、是非手にとって知識を深めてみましょう。



(3)情報の蓄積

以下は国語辞典である『広辞苑』で「スポーツ」と「ダイエット」という言葉を参照した例です。「スポーツ」には変化がない一方、「ダイエット」については大きな変遷が見られます。辞典・事典は一度発行されると、冊子体であるが故にその情報がそのまま固定され蓄積されます。従って、発行年の違うものを比較することで、純粋な言葉の意味だけでなく時代背景の手がかりを得ることができます。



こうした古いものと新しいものの比較は、書店ではできない図書館での情報探索の特徴でもあります。是非足を運び、見比べてみましょう。

2.3 ウェブ版百科事典の特徴

これまで冊子体の辞典・事典の特徴を見てきましたが、ウェブ上で利用できる百科事典もいくつかあります。冊子体との主な違いは以下の通りですが、やはり良い点・悪い点がありますので、特徴を理解した上で使い分けることが大切です。

冊子体との違い

- 複数の辞典・事典を一括検索
- 全文検索機能や多彩なリンク機能
- 最新情報も掲載されやすい

ウェブ上で利用できる百科事典というと『ウィキペディア』を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。ここでは、ウェブ版百科事典の1つである『JapanKnowledge+』の使い方を解説しますが、まずは『ウィキペディア』との違いについて以下の3つの観点からそれぞれの特徴を見ていきましょう。

ウィキペディアとの違い

①作成者の
明示

②更新頻度

③情報源の
明示

(1) 作成者の明示

『JapanKnowledge+』に収録されている『日本大百科全書』では、それぞれの記事についてその分野の専門家が執筆を行い、その氏名が明記されています。これにより一定の情報質が保証され、責任の所在も明確になっています。

JapanKnowledge+ (例: 『日本大百科全書』)

についての細部にわたる指定が行われ、その内容は現在に至るも少しも変更されていない

[梶 龍雄]

誰が書いたのかが分かる

一方『ウィキペディア』では、執筆者の氏名は必ずしも明記されているわけではなく、誰が作成したのか一般的に明らかになっていないものがほとんどです。また、作成された記事も固定されず、後から誰でも自由に編集が可能となっています。これにより『ウィキペディア』の記事には、非公式な情報が掲載されていたり、複数の観点が入り乱れていたという特徴があり、興味深い情報が得られる可能性がある一方、『JapanKnowledge+』の『日本大百科全書』に比べると、情報の質と信頼性という意味においては、十分な注意が必要になってきます。

(2)更新頻度

『JapanKnowledge+』に収録されている『日本大百科全書』では、定期的に記事が更新され、ある程度新しい情報も随時盛り込まれていきます。

JapanKnowledge+ (例: 『日本大百科全書』)

JapanKnowledge ニッポニカ・アップデート 定期的 (月1回) 日本大百科全書(ニッポニカ)[2012年4月更新] 新規:13項目 / 改訂:1033項目	2012年4月26日 日本大百科全書(ニッポニカ)を更新しました! 『小倉百人一首』、石川県の名所・旧跡、食材、原子力、物理、工業などの写真・図版210点を新たに収録。 ■ 日本大百科全書(ニッポニカ) ■ ニッポニカ・プラス
--	---

一方『ウィキペディア』は、スポーツイベントの結果や発生直後の事件など、数時間あるいは数分単位で頻繁に更新される場合もあれば、作成後数年間更新がない記事も珍しくありません。情報の鮮度は項目ごとに異なりますので、注意を払う必要があります。

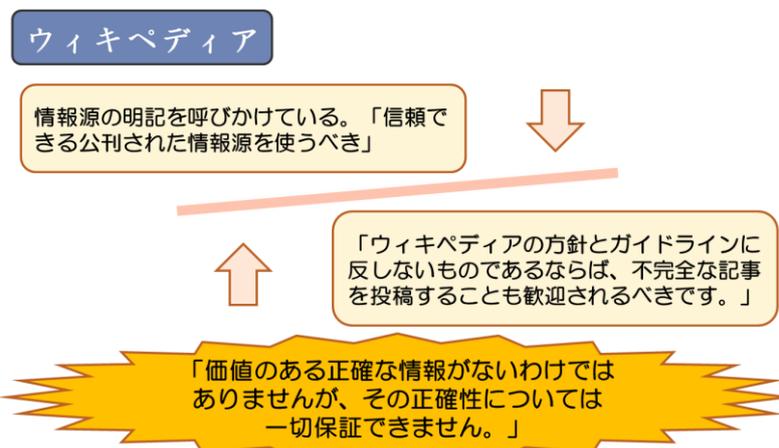
(3)情報源の明示

『JapanKnowledge+』に収録されている『日本大百科全書』では、執筆者が記事作成の参考にした文献情報が明示されており、関連する情報の収集や内容の再確認などを容易に行うことができます。

JapanKnowledge+ (例: 『日本大百科全書』)

底本がある ※底本: もととなる本。 参考文献の記載がある	参考文献・音響映像資料: ■ 『ノーベル賞文学全集』26巻・別巻1(1972・主婦の友社) ■ 中村誠太郎・小沼通二編『ノーベル賞講演物理学』全12巻(1980・講談社) ■ H・ズッカーマン著、金子務監訳『科学エリート』(1980・玉川大学出版部) ■ 科学朝日編集部編『ノーベル賞の光と影』(1981・朝日新聞社) ■ 清川徳二編『ノーベル賞名鑑』(1999・名鑑社)
コンテンツ情報 底本名 日本大百科全書 / 小学館 書籍版刊行日 第1巻～第18巻:1994年1月1日 第19巻～第25巻:1994年1月20日	

一方『ウィキペディア』は、情報源の明示についてはあえて曖昧な立場を表明しており、出所が不明瞭な情報も掲載されています。その情報は、情報探索の1つの手がかりとしては有用であっても、レポートを作成する上では、読み手に正確な情報を伝えるために必ず他の情報源での確認が必要になります。



(4) 『JapanKnowledge+』の使い方

『JapanKnowledge+』へのアクセスは、東北大学附属図書館のホームページ左側にある「データベース・ツールインデックス」から行います。



以下は、『JapanKnowledge+』に収録されている辞典・事典類の一覧です。これらを一度の検索で横断的に検索が可能で、不要なものは検索対象から外すことも可能です。



キーワードを入力して検索を行い、結果の一覧から見出しをクリックすると、詳細な内容を確認できます。詳細画面では、関連項目や文献情報も利用可能です。

The screenshot shows the JapanKnowledge+ website with a search bar containing 'スポーツ'. Below the search bar, there are search results from various dictionaries. A red box highlights the search bar and the search button. Another red box highlights the first search result: '1. スポーツ(日本大百科全書(ニッポカ)見出し自体)'. A red arrow points from this result to a detailed view of the word 'スポーツ'. In this detailed view, a red box highlights the '関連項目' (Related items) section, which lists '1. アマチュアリズム'. A red arrow points from this section to a separate box containing a list of related literature and audio-visual materials, such as '1. スポーツ憲章' and '佐藤和兄弟スポーツ概論—スポーツの認識入門』(1963・明玄書房)'. A text box at the bottom of the screenshot states: '関連するデータや項目、参考にした図書などの文献情報も確認することができます。' (You can also check related data, items, and literature information such as books used as references.)

「Knowledge Searcher」という機能を使うと、選択したテキストで自動的に再検索が行われ、その結果が表示されます。解説の中に分からない言葉が出てきた際は、この機能を使ってその都度意味を確認するようにしましょう。

The screenshot shows the 'Knowledge Searcher' feature. A red box highlights the 'Knowledge Searcherを使用する' checkbox, which is checked. A red arrow points from this checkbox to a text box that says: 'テキストを選択するだけで、ジャパンナレッジの検索結果が表示されます。' (Simply by selecting text, the search results from JapanKnowledge+ are displayed.) The background shows a search result for '野見宿禰' (No-noji) with a red box highlighting the text '野見宿禰(のみのすね)の事績(日本書紀)の記述などによ...'. A red arrow points from this text to a search bar containing '野見宿禰'.

なお、『JapanKnowledge+』では、複数の辞典・事典を収録しているため、表記のゆれが存在します。思うような結果が得られない場合は、キーワードを再確認しましょう。

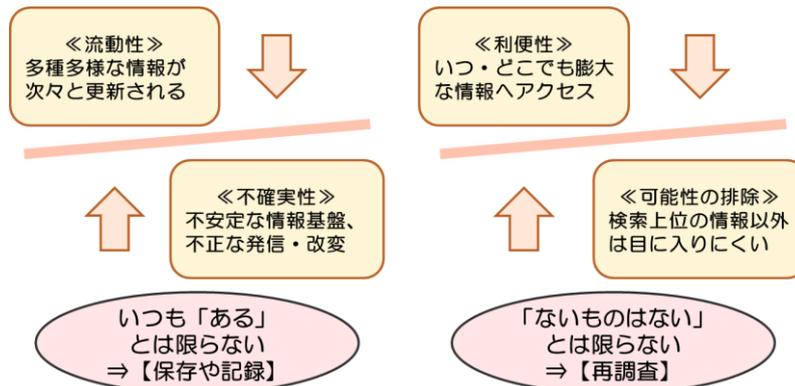


2.4 インターネットの特徴

インターネットは、何かを調べるツールとしては有用ですが、レポートを作成するにあたっては注意すべき特徴がありますので、以下の3つの観点から見ていきましょう。

(1) インターネット情報の性質を知る

インターネットの情報は、流動性が高いために失われやすく、利便性が高いために安易な判断が下されやすい性質があります。

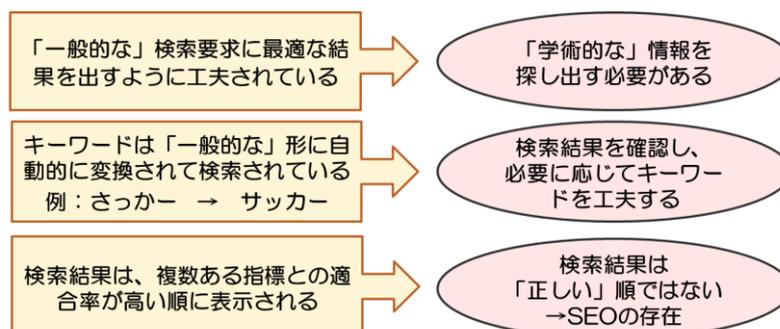


従って、能動的に情報収集に関わる姿勢が必要になってきます。完全ではありませんが、以下のようなアーカイブサイトなども活用し、必要な情報を集めましょう。

WARP http://warp.da.ndl.go.jp/
国立国会図書館が行っているインターネット資料収集保存事業のサイトです。国、自治体、国公立大学などの公的機関のウェブサイトや、学会、各種イベントの実行委員会などのウェブサイトが収集・保存されていて、閲覧することができます。
The Internet Archive http://archive.org/
アメリカの非営利団体がすべての知識への普遍的なアクセスを目標として運営しているサイトで、インターネットで公開されている全世界のウェブ情報を収集・保存しています。「Wayback Machine」にURLを入力すると、1996年以降に収集されたウェブページを日付ごとに見ることが出来ます。
Google キャッシュ
検索結果一覧に表示される「キャッシュ」リンクから、Googleが最後にインデックスに登録した時点で表示されていたウェブページを閲覧することができます。
IIPC http://www.netpreserve.org/resources/member-archives/
ウェブアーカイブの国際連携を目的とした組織である、国際インターネット保存コンソーシアム (International Internet Preservation Consortium) のサイトです。世界各国で提供されているアーカイブサイトが紹介されています。

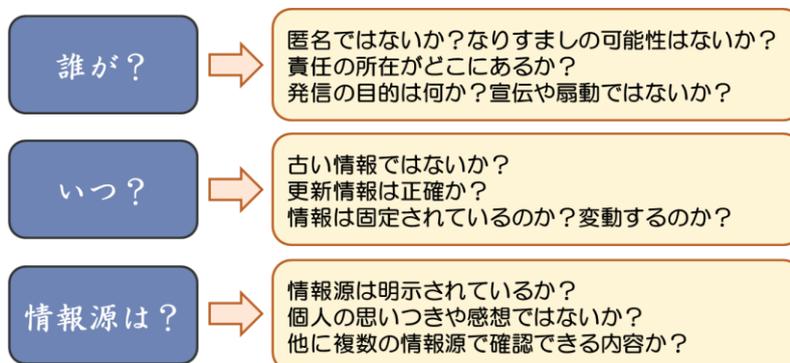
(2) 検索エンジンの使い方を知る

何気なく使っている検索エンジンですが、検索結果はアルゴリズムによって選ばれています。そのことを「意識」した上で、情報探索を行いましょ。



(3)情報を見極める目を養う

インターネットには、言語や国境の壁を越えて多種多様な情報が混在しており、その真偽を見極めるために、様々な角度から情報を吟味する必要があります。残念ながら確実な方法はありませんが、質の高い情報に数多くふれるなどして、自らの力を養いましょう。



情報の信頼性を判断する 1 つの基準として、以下のようなドメイン名から判断する方法があります。これも確実ではありませんが、覚えておくとよいでしょう。

用途	種類	登録対象
企業・商業	.com .co.jp	世界中の誰でも登録可能。 日本で登記された外国会社を含む会社、信用金庫、信用組合。
ネット関連	.net .ne.jp	世界中の誰でも登録可能。 日本でネットワークサービスを提供している企業及び個人。
組織・法人	.org .or.jp	非営利組織用。世界中の誰でも登録可能。 財団法人、社団法人、公的な国際機関の日本支部など。
教育機関	.edu .ed.jp .ac.jp	アメリカ教育省公認の認定機関から認可された教育機関のみ。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校など。 国立大学法人、高等専門学校、大学共同利用機関法人など。
政府機関	.gov .go.jp	アメリカの連邦政府機関や関連組織のみ。 日本の政府機関、省庁所轄研究所、独立行政法人、特殊法人のみ。

『Google』でのドメイン制約検索
例：「サッカー site:go.jp」→日本の政府機関に限定

信頼できる機関等によって作成されたリンク集を活用するのも、1つの手段です。安易に信用するのは危険な場合もありますが、効率的に情報探索を行うことができますので、活用してみましょう。

データベース・ツールインデックス http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/newdb/ 東北大学附属図書館が契約しているデータベースや有用と判断したウェブサイトのリンク集です。現在185件の登録があり、分野別やタイプ別に一覧することができます。
JapanKnowledge+ ニッポニカURLセレクト http://www.jkn21.com/ 日本大百科全書の改訂チームが、実際に参照した有益なウェブサイトのデータベースです。収録数は3,000項目にものぼり、独自の紹介文が付与されています。
リサーチ・ナビ http://rnavi.ndl.go.jp/ 国立国会図書館が情報探索に有用であると判断した図書館資料、ウェブサイト、各種データベース、関係機関情報が、特定のテーマ、資料群別に紹介されています。
Dnavi http://dnavi.ndl.go.jp/ 国立国会図書館がウェブ上で公開されている国内のデータベースの情報を集めて作成したデータベースです。登録数は約1万7,000件で、タイトル、作成者、分類、内容説明等で検索することができます。

3. 確実なスタートへ

3.1 スタートの準備

レポートを作成するにあたって、まずは「良い」レポートを書くことを明確に意識しましょう。そのために読んでもらう読み手の存在を意識し、読み手の理解や満足のために丁寧な情報探索を行い、その結果を参考文献リストに明示しましょう。

「良い」レポートにするために

- 読者を意識したレポート作成と情報探索
- 信頼性のある情報の収集と明示

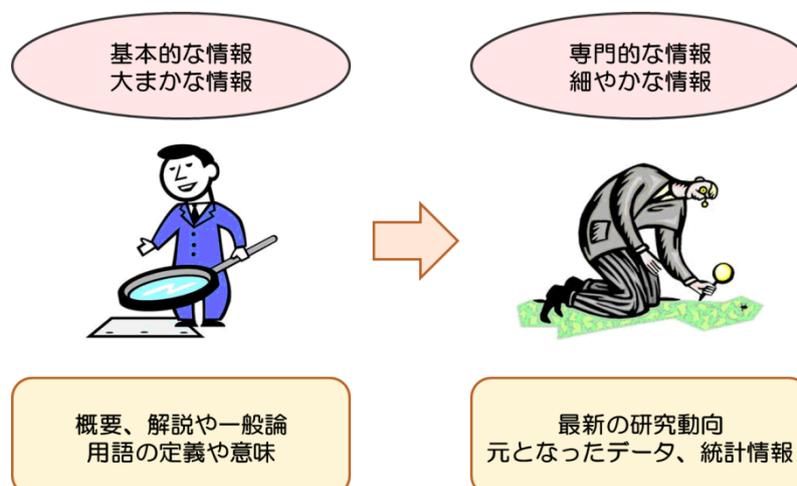
読み手の理解や満足につながる丁寧な情報探索を行うために、まずは自らの基礎知識を固めましょう。辞典・事典、ウェブ版百科事典、インターネットなど、事柄を調べるツールはたくさんありますので、それぞれの特徴を理解し、適切に使い分けましょう。

事柄を調べるために

- ツールの特徴の正しい理解
- 必要に応じた使い分け

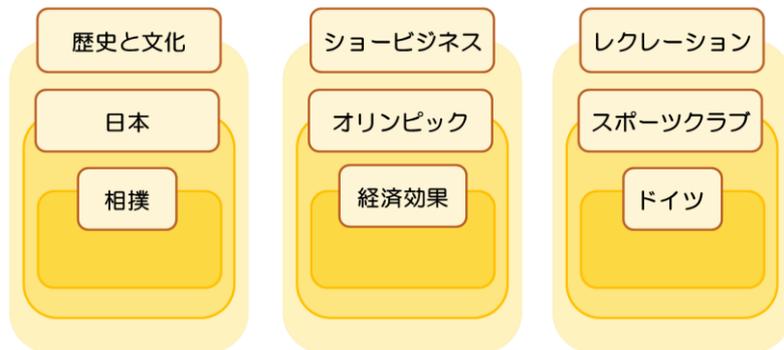
3.2 効率的な情報探索

次の章から図書や雑誌論文など、さらに具体的な情報探索の方法について解説していきますが、効率的に情報探索を行うために、「大から小へ」という基本を押さえておきましょう。基本的な知識が不足していると、的を射た精度の高い情報になかなか辿り着くことができません。まずは、基本的な情報を丁寧に収集し、基盤を固めることが重要です。



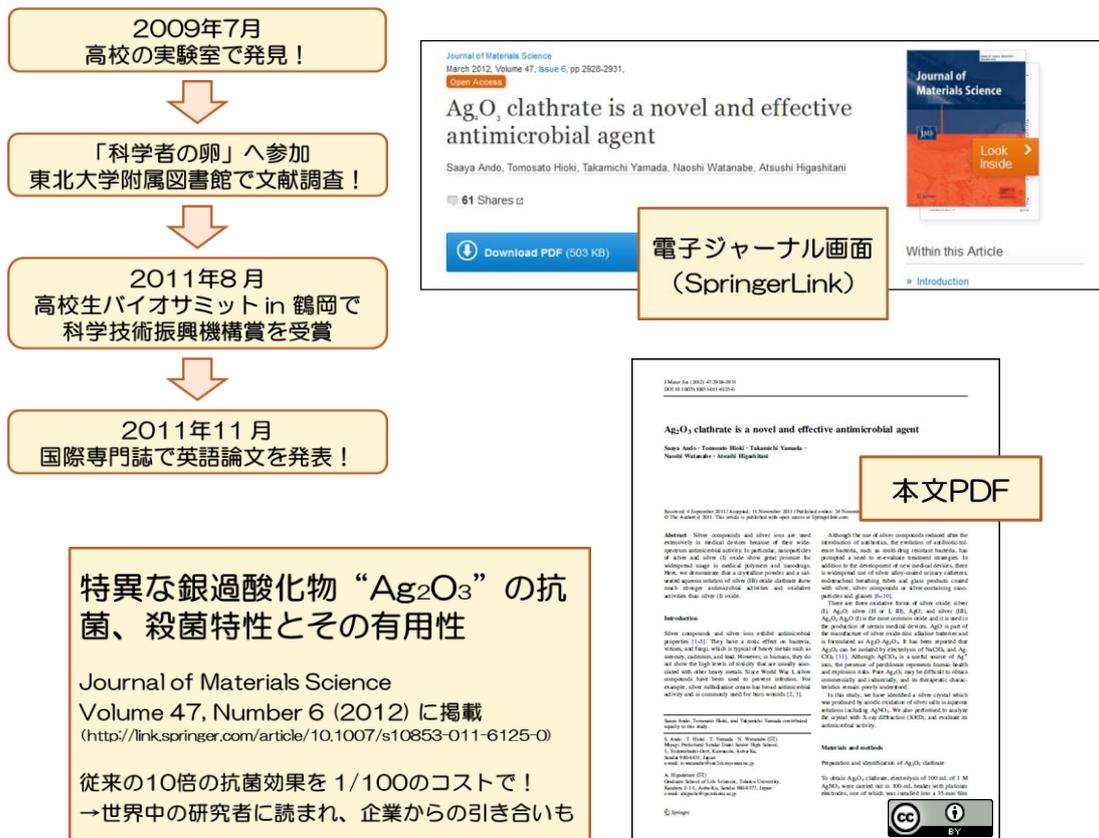
3.3 テーマの具体化

良いレポート作成のために、情報探索と同時にテーマの絞り込みも必要です。以下は、スポーツの例ですが、定義や概要を確認したら、1つの側面に注目し具体化しましょう。



3.4 高みを目指して

以下は、「高校生」が作成し国際専門誌で発表した英語論文です。世界への道は皆さんにも拓かれています。ただ単位を取るためだけでなく、より高いレベルを目指してレポート作成に取り組んでください。



参考文献

- 1) 酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007.
- 2) 酒井聡樹. 平成 25 年度東北大学全学教育科目『レポート力』アップのための情報探索入門 第 2~4 週配付資料. 「レポート作成法①~③」.

第1章 実習問題

事柄

問題 1. レポートの執筆を念頭に置きながら、自分の「関心のあるテーマ」について記入してください。また、テーマに関する適切な「キーワード」を考え、記入してください。次に、そのテーマに関連する基礎知識を調べてください。

■ 関心のあるテーマ：

■ キーワード：

■ 調べて分かった（面白いと思った）こと

◇ 『JapanKnowledge+』から

内容	掲載コンテンツ名

◇ ネット情報から

内容	サイト名／作成者名／更新日
	URL :
	URL :
	URL :

◇ 辞典・事典類（冊子体）から

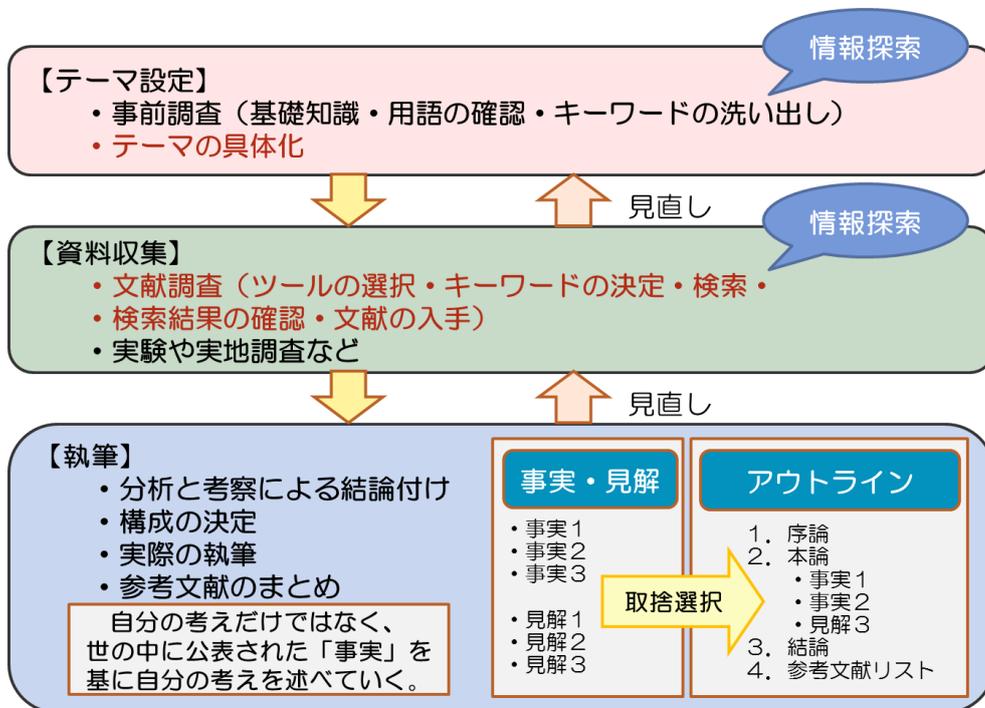
内容	書名／出版社名等	所在	請求記号

第2章 テーマを具体化しよう

■ 本章の目的

第1章では、レポートの作成手順や事典の特徴、インターネットでの検索について学びました。レポート作成ではそうして集めた情報をもとにして、テーマを絞り込み、さらに資料にあたって考察を組み立てていきます。この章ではテーマの設定に向けて、資料の探し方や体系、検索の仕方について学びます。

レポート作成の手順



(第1章 1.3 レポートの作成手順 より)

1. テーマ設定

1.1 テーマの具体化

第1章では「事前調査」のための情報源の特徴について学びました。事前調査の段階では対象が広くても良いのですが、このままでは何を書けばいいのかわかりません。論点のはっきりしたレポートを書くために、テーマを設定します。テーマを設定することで、「どのような問題に取り組むのか、なにを目的とするのか・なにを対象とするのか・どんな手法で行うのか」といった事を明確にしていきます。

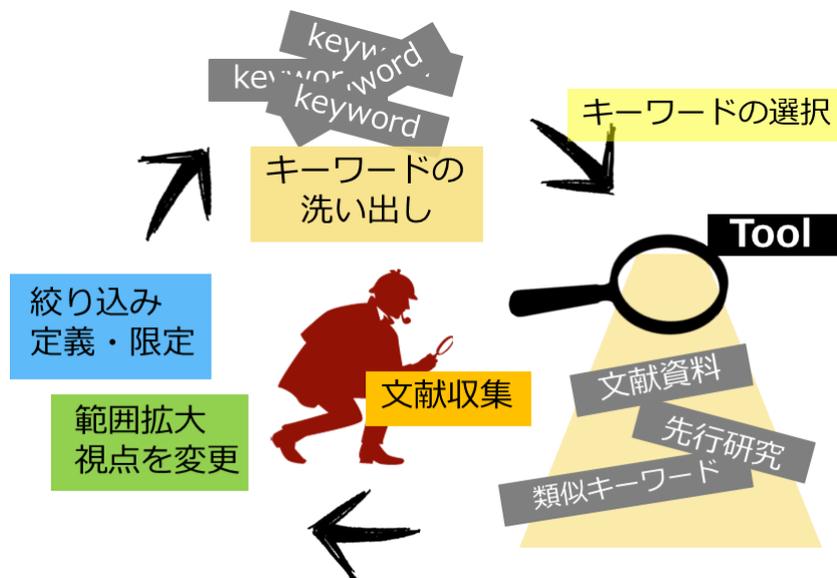
1.2 テーマ設定の仕方

テーマを設定する前に、テーマの条件をおさらいしましょう。

1. 学術的問題である
2. あなたが面白いと思う問題である
3. 部分的にせよ解答できる問題である

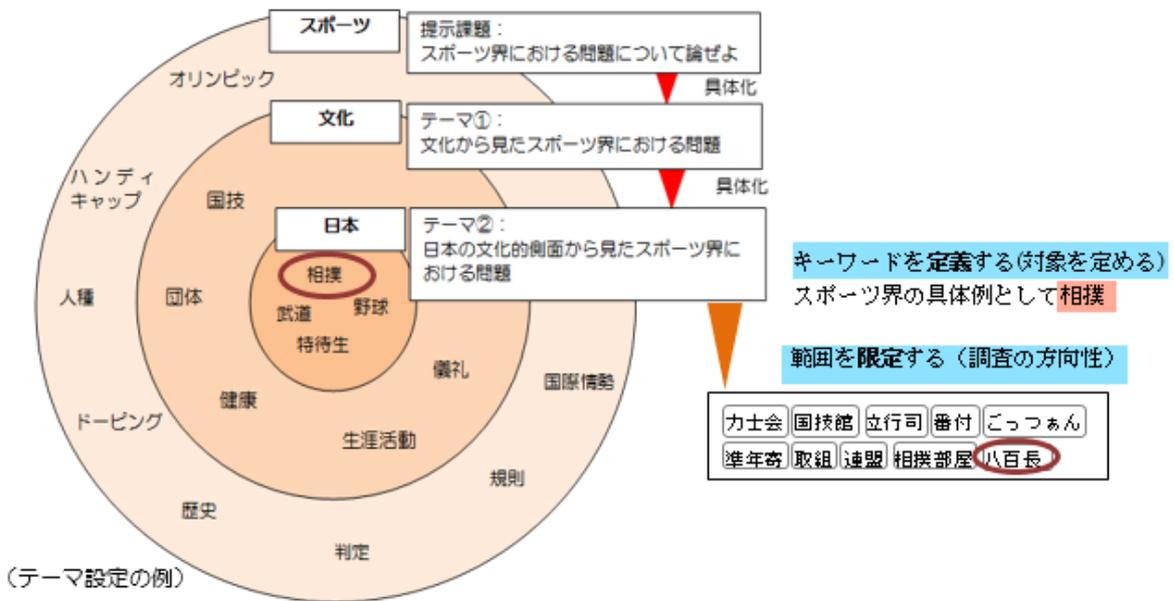
(酒井聡樹,これからレポート・卒論を書く若者のために,初版,東京,2007,P27.)

上記を踏まえて、どのような問題に設定するのか、あるいはどのような「切り口」にするのかを考えてみましょう。以下はテーマ設定の流れの一例です。



- ① キーワードの洗い出し
大まかなキーワードをいくつか挙げる。(レポートによっては、キーワードが提示されている場合もあります。)
- ② 情報・文献収集
最初のキーワードを元に文献資料や先行研究などの情報を集め、キーワードの絞り込みを行う。
- ③ 定義・範囲限定
ある程度キーワードが絞り込めてきたら、キーワードの定義を決め、さらにその中で範囲を限定する。

例として、「スポーツ界における問題について論ぜよ」という課題が出された場合のテーマ設定の流れを見てみましょう。



- ① 一口にスポーツといっても、上記の図のように、様々な切り口があった。用語の確認も兼ねて、JapanKnowledge+を使い、「スポーツ」という言葉を確認したところ、「日本体育協会スポーツ憲章」の引用にあった「文化の向上」という文字に目が止まった。
- ② 「文化」「スポーツ」というキーワードで情報を探してみた。まだまだ多くの視点があるので、もう少し絞り込みを行いたい。対象範囲を限定することにし、テーマを「日本の文化的側面から見たスポーツ界における課題」とした。
- ③ 「文化的側面」や「スポーツ界」といった言葉が、様々な意味を含んでいるため、この段階ではレポートが対象にする問題が伝わらない。「日本のスポーツ界」の具体例として、「相撲」を取り上げた (**キーワードの定義決め**)。さらに、相撲の中でもどの点にスポットをあてるかを考えた (**範囲の限定**)。

キーワードを絞り込んでいくことで、対象が具体的になっていき、テーマの形が見えてきます。実際には、資料にあたり読み込みを行いながらテーマ設定を行っていきます。そうすると、レポート作成にあたり必要となる知識や技術の見当もついてきます。

また、テーマ設定の際に重要なのは、絞り込んでいくだけでなく、再度範囲を広げてみたり、違った角度からテーマを狭めてみたりするといった見直しを行う事です。試行錯誤を経ることで、資料も自然と集まり、後の作業もスムーズに進むようになります。様々なツールを使って、参考になる情報を探してください。

2. キーワードの選択

2.1 キーワードの確認

キーワードの洗い出しの際は、興味のある事柄や、提示された課題に関する言葉を使う事になりますが、うまく情報が探し出せない場合は、キーワードの選び方を工夫する必要があります。まずはキーワードに関する、以下の3種類の用語を探してみましょう。

■ 同義語・類義語・関連語

形は異なっていますが、意味は同じ用語のことを**同義語**、意味がよく似ているものを**類義語**、関連性が強いものを**関連語**といいます。あるテーマについて網羅的な検索を行いたいときに使用します。



■ 複合語

2つ以上の用語が組み合わさって1つの用語になっているものを**複合語**といいます。複合語で検索すると、特定のテーマに絞り込むことができますが、必要に応じて複数の用語に切り分けて検索もれを防ぐ必要があります。



■ 上位語・下位語

用語には、概念のより広いものとより狭いものがあり、より広いものを**上位語**、より狭いものを**下位語**といいます。広いテーマで幅広い検索を行いたいときは上位語、特定のテーマに絞り込んだ検索を行いたいときは下位語を使って検索すると、適切な検索結果が得られます。



2.2 キーワードの選択に有効なツール

テーマを絞ろうとすると、なかなか参考となる資料が見つからない場合があります。その場合は類義語や関連語にキーワードを置き換えていきますが、自分で類義語が探せない場合は、以下のツールを使ってみましょう。もちろん、キーワード選びだけでなく資料を探すときにも有効なツールです。

ポイント：検索方法と範囲の違い

	データの範囲	検索方法
新書マップ	新書のみ	あいまい検索 連想検索
国立国会図書館 (NDL)サーチ	図書・雑誌記事・論文記事・新聞・児童書・ レファレンス資料・デジタル資料 ※大学図書館の資料を含める場合は「すべての 連携先を検索する」にチェックを入れる	一致検索 翻訳検索

(1) 新書マップ (<http://shinshomap.info/search.php>)

新書マップは、連想検索によってテーマごとに関連する新書をリストアップしてくれるサービスです。使い方もわかりやすく、視覚的に表現されているので、テーマ設定の最初の一步として、おすすめのツールです。

例えば「スポーツ界における問題について」等、**知りたい事柄をそのまま入力して検索すると**、「スポーツルール」「ハンディキャップ」など、関連するキーワードを提案してくれます。それぞれの語句を選択すれば、関連書籍のリストが表示されます。各図書館の詳細面を開けば、出版社のウェブサイトや、『Webcat Plus』へアクセスすることもできます。

テーマの設定・具体化の項目で述べた同義語・類義語・上位語・下位語をうまく見つけられない時にも参考にすると良いでしょう。検索対象は新書・選書に限られますが、これらの資料は比較的読みやすく、入門的な内容を知ることができるので、テーマ設定の際に読み込む資料にも向いています。

(2) 国立国会図書館サーチ (NDL サーチ) (<http://iss.ndl.go.jp/>)

図書だけでなく、雑誌記事、レファレンス事例なども一括して検索できます。検索した言葉に関連する語が表示されるので、資料を探す時はもちろんのこと、関連語がうまく見つけられない時にも参照してみましょう。

新書マップとは違い、あいまいな言葉では検索できません。ある程度大きな概念で検索してから、関連語などを参考に絞り込んでいくと良いでしょう。



ポイント：他にもある！連想検索ツール

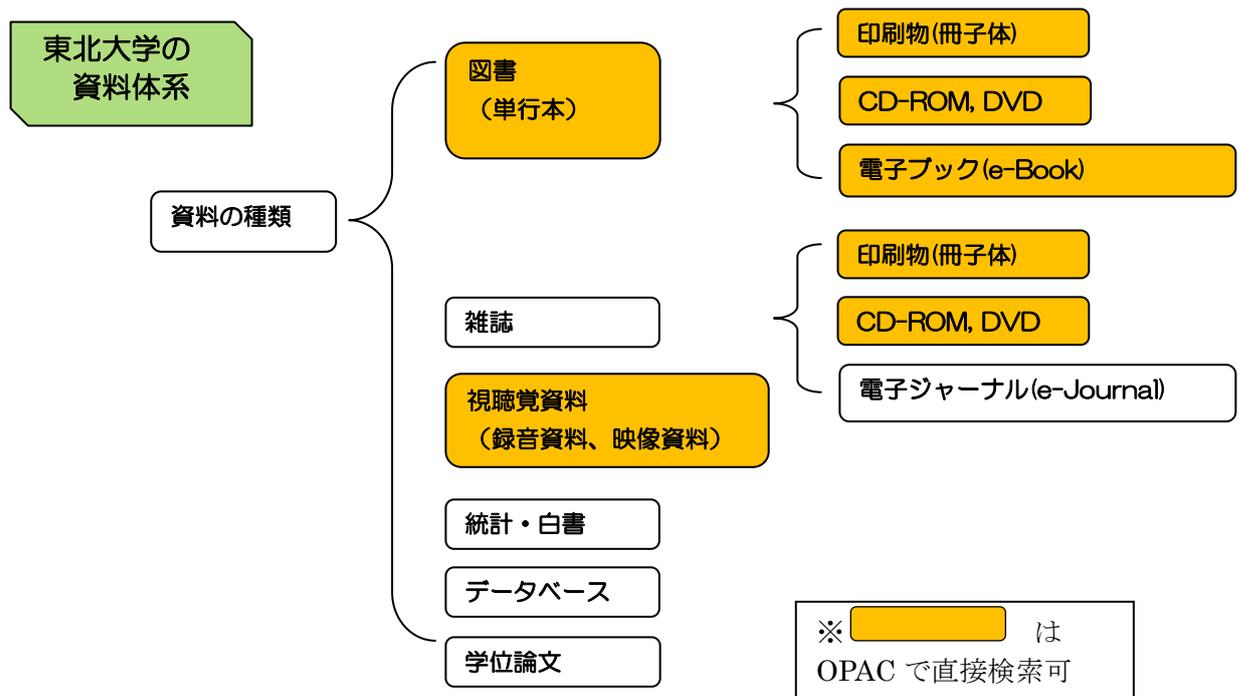
新書マップで表示された検索結果ページで本の情報をクリックすると、他の連想検索サービスへアクセスできます。図書の検索が主な機能ですが、キーワード探しにも役立ててみましょう。

- Webcat Plus (<http://webcatplus.nii.ac.jp/>)
国立情報学研究所 (NII) が提供する無料の情報サービス。江戸時代から現代までの図書を対象に、連想検索・一致検索ができる。連想検索では、言葉・人物・行為といった形で連想ワードが表示される。
- 想-IMAGINE book search (<http://imagine.bookmap.info/index.jsp>)
「新書マップ」を提供する連想出版が運営する図書検索サービス。Web で公開されている図書データベースのいくつかを対象として、連想検索が行える。

3. 資料を探す

3.1 資料の種類

下調べを終え、実際に資料を探すことになったら、まずは東北大学の資料を探しましょう。図書館、あるいは大学内で使える資料には様々な種類があります。大きく分けても図書、雑誌、視聴覚資料、電子ジャーナル、電子ブック等々です。



ポイント: 図書と雑誌の違い

	刊行形態	内容
図書	<ul style="list-style-type: none"> 単発的に出版 	<ul style="list-style-type: none"> 体系的でまとまりをもつ 一連のテーマに関して記述
雑誌	<ul style="list-style-type: none"> 同一タイトルで継続的に、終期を予定せずに刊行 巻号がついている 	<ul style="list-style-type: none"> 分量の少ない論文・記事を複数収録 速報的・先端的

3.2 直接探す：ブラウジングと参考文献

文献の探し方には「ブラウジング」、「参考文献リスト」、「ツールでの検索」といった方法があります。今回は主にツールでの検索について説明をしますが、それぞれの手段の利点を把握しておけば、必要な資料を手に入れやすくなります。

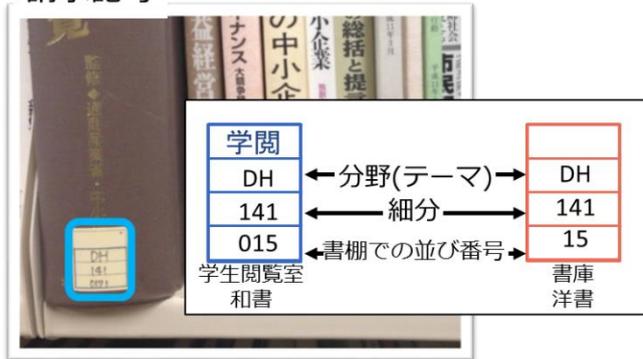
(1) ブラウジング(Browsing)

ブラウジングとは、「書架を漫然と眺め、気になった本があったら読む行為」を指します。図書館の資料は分類（学問の分野・テーマ）順に並んでいるので、テーマに関連する資料を見つけやすいのが特徴です。またデータの検索では見つけれなかった、思いがけない本との出会いがあるのもブラウジングの利点です。

附属図書館本館では国立国会図書館分類(NDLC)にそって図書分野わけを行っています。まずは館内案内図で自分が興味を持ったテーマの本がどのあたりにあるか確認しましょう。

また視点を変えて他の分野の棚を見てみると掘り出しものの資料が見つかることもあります。例えば、同じ「スポーツ」がテーマでも内容によって以下のように分類が異なります。

請求記号



ポイント：同じテーマでも分類が違う

- スポーツ…FS11:KD961
- スポーツ（行政）…A591
- スポーツ用品…DL731:PS41

※章の最後に分類の補足説明を載せています。

並び順



(2) 参考文献リスト

ブラウジングと合わせて利用したいものが「参考文献リスト」です。図書や論文の章末や最後を見ると、執筆にあたって引用・参考にした資料のリストが載っています。この参考文献を参照することで、その分野の基礎的・中心的な文献リストを得ることができます。



[参考文献],[注],[参考],[reference]…図書・論文・雑誌記事・ウェブページなど、次の資料への手掛かりがいっぱい！

ポイント： 参考文献の記述形式

レポートや論文には、引用した文献のリストを書くことになっています。一般的な形式は次の通りです。

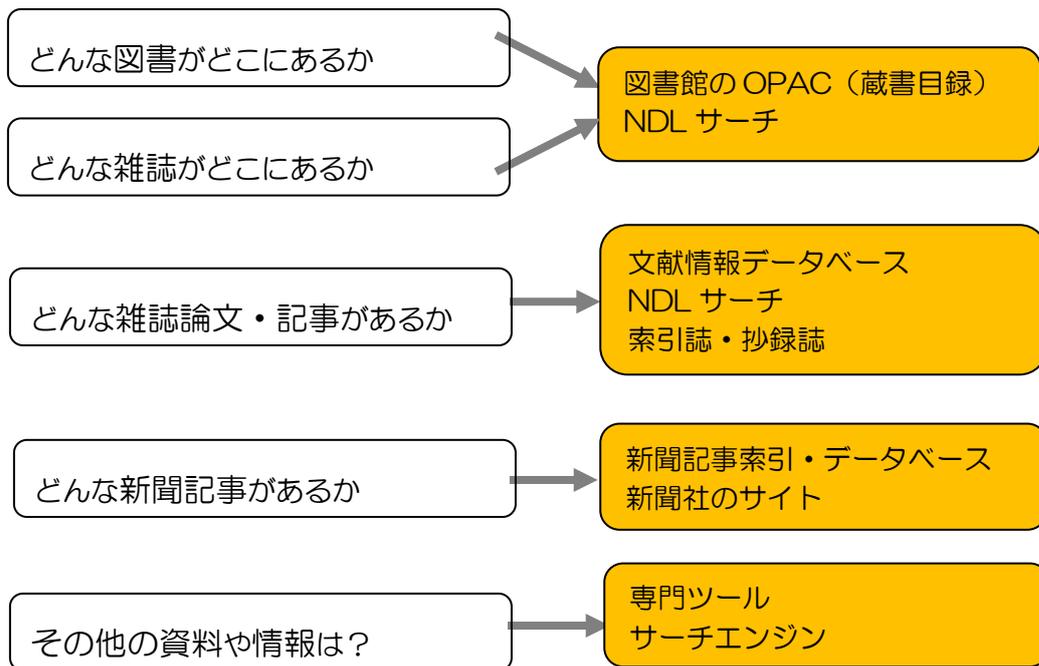
- 図書 著者名. 書名. 版表示. 出版地, 出版年, ページ数.
- 雑誌 著者名. 論文タイトル. 雑誌名. 出版年, 巻数, 号数, ページ.

詳しくは、次回以降の章で取り上げます。

3.3 ツールで探す：ツール選択

どんな資料でも探せる万能のツールはありません。目的にあったツールを使うためには、欲しい情報が収録されている資料の**種類**や**内容**、**分野**、**年代**の範囲などを確認する必要があります。

最初は幅広い種類で探すことのできる全般的なツールを選び、その結果をもとに、次第に専門的なツールを使ってみるとよいでしょう。さらに、複数のツールを使って情報を補完すると、より信頼のできる結果を得ることができます。



3.4 ツールで探す：図書・雑誌をOPACで探す

東北大学附属図書館 OPAC (URL : <http://www.library.tohoku.ac.jp/opac/>)

OPACとは、Online Public Access Catalogの略です。東北大学が所蔵する資料のうち、図書約250万冊・雑誌約6万5千種が検索できます。加えて、全国の大学図書館の所蔵状況も調べることができます。My Libraryと合わせて使うことで、より便利になります。

検索範囲は検索画面上部のタブで指定します。
東北大学の蔵書を検索するときは「学内」、他大学・研究機関の蔵書を検索ときは「学外」を選択します。

学内/学外
検索の指定

検索対象
の指定

所蔵場所
の指定

論理演算

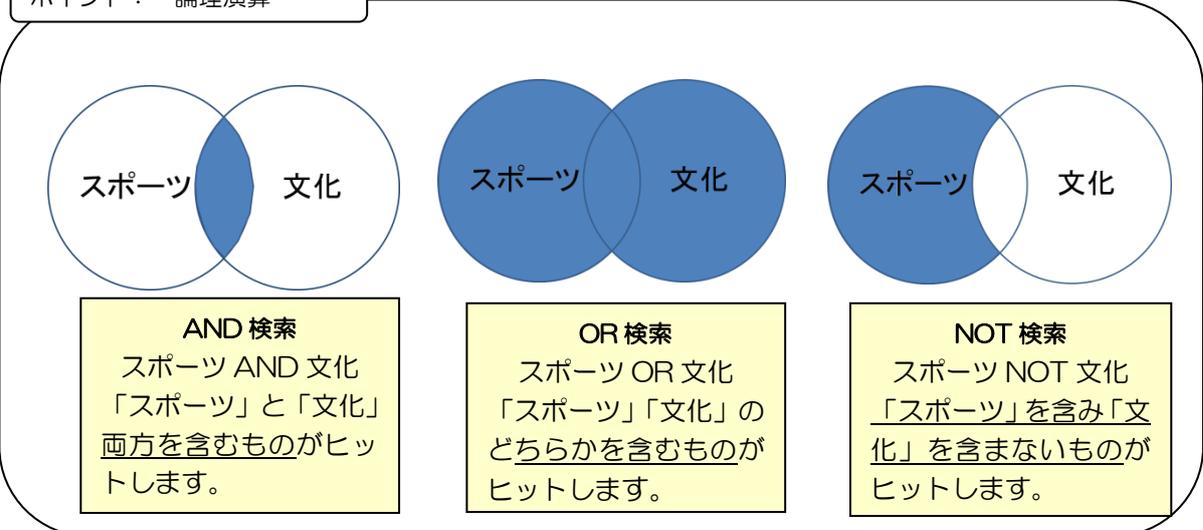
検索語の種類
の指定
(書名/著者名/出版社など)

一覧表示の並び順と件数の指定

絞込み条件の
指定

検索

ポイント： 論理演算



検索のコツ

OPAC で資料を検索するには、検索語入力欄にタイトルや著者名を入力します。普段みなさんが使っているサーチエンジンとは異なった検索の規則があります。この規則を覚えると、より効率良く検索ができるようになります。

■基本の探し方

・タイトルや著者名を、先頭の文字からすべて入力する。

1文字でも異なると正確に検索できないので注意！

例) 「電気回路を中心とした線形システム論」

・キーワードとなる単語を区切って入力すると、単語間の AND 検索をします。

タイトルが不明確な場合などに利用すると便利です。

例) 「電気 回路 中心 線形」で検索

■トランケーション記号

・「*」を末尾につけると前方一致検索をします。

例) 「電気回路を*」

→ 「電気回路を」で始まるタイトルがヒット

「偶然*」

→ 「偶然」「偶然性」「偶然的」などの語を含むタイトルがヒット

「jour* app* phys*」

→ 「Journal of applied physics」などがヒット

「sociolo*」

→ 「sociology」「sociologist」などを含むタイトルがヒット

■検索語の字体、アクセント記号は気にしなくてよい

・漢字は旧字体でも新字体でもよい。

例) 「西沢」 = 「西澤」

・アルファベットは大文字・小文字のどちらでもよい。

例) 「INFORMATION」 = 「information」

・ウムラウトなどの綴り字記号、アクセント記号はつけなくてもよい。

例) 「Wörterbuch」 = 「Worтерbuch」

■論文のタイトル・著者名、雑誌の巻号・年次では検索できない。

・「OPAC」は図書のタイトル・著者名や、雑誌のタイトルから検索するツールです。掲載されている論文のタイトルや著者名では検索できません。

何かについての論文を探す場合は専用のツールを利用します。

・また「OPAC」では雑誌の巻号、出版年からも検索できません。

まずタイトルで雑誌を検索し、「所蔵一覧」から探している巻号があるか確認します。

ポイント： アスタリスク(*)は便利！

OPAC 学内検索の「全ての項目から」の場合は「*」を入力しなくてもヒットしますが、学外検索では資料に設定されているキーワードと検索した語が1文字でも異なると正確な検索結果が得られません。もれない検索のために「*」を語尾につけましょう。資料名が長い場合の入力省略にも、とても便利です！

「physic」で検索 → 「physics」はヒットしない（学内検索の場合はヒットするものもある。）

「physic*」で検索 → 「physic」「physics」「physical」などがヒットする

「悩みも迷いも*」 → 「悩みも迷いも若者の特技だと思えば気にすることないですよ。…」がヒット

OPAC の検索結果（図書の場合）

検索結果の
絞り込み
(所蔵館、
資料区分、
出版者、
著者、件名、
シリーズ名)

検索結果一覧画面

検索結果の並び替え
デフォルトは書名の昇順

書名をクリックすると、
詳細が表示される。

次の書誌 ▶

検索結果詳細画面

シリーズ資料一覧画面へ
(シリーズがある場合)

書誌情報
(書名、著者名、
出版者など)

学外の所蔵
を調べる/
他の検索サ
イトへ

各リンクか
ら再検索へ

所蔵情報

ポイント： 配架場所・請求記号を確認する

請求記号はその本がどこにあるかを示すもので、本の背表紙に貼られています。図書館の資料を探すときは配架場所を確認し、請求記号をメモしておきましょう。請求記号の1段目は図書のテーマを表しているので、同じ記号の本を見ていくと目当ての図書以外にも良い本が見つかるかもしれません。

ポイント： 取り寄せ・ILL サービス

図書館では、他キャンパスの資料を最寄りの図書館まで搬送して提供するサービスを行っています(資料搬送サービス)。また東北大学に所蔵していない資料でも、他の大学図書館に所蔵がある場合は資料の借り受けや複写を申し込むこともできます (ILL サービス)。

30

OPAC の検索結果（雑誌の場合）

雑誌の所蔵一覧画面では全学の所蔵の概要が一覧できます。特定の巻・号を探す場合には、まず配架場所と所蔵巻号を確認します。

雑誌は刊行途中でタイトルが変わったり、複数の雑誌に分かれたり1つに統合されたりというタイトル変遷があります。探している巻号が見つからない時は変遷注記の情報を確認してください。

OPAC は、電子ジャーナルを直接検索することはできません。ただし、冊子も電子も両方利用できる場合は、冊子の詳細画面に電子ジャーナルへのリンクが用意してあります。

<雑誌>
The International journal of the history of sport

メール送信

☐ 詳細を非表示

巻次年月次	Vol. 4, no. 1 (May 1987)-
出版者	London : F. Cass
出版年	1987-
大きさ	v. : ill. ; 22 cm
一般注記	Title from cover Chiefly in English; includes some text in French Frequency: 3 times a year, -v. 15 (1998); quarterly, Vol. 16 (1999)- ; 14 times a year, Vol. 25 (2008)-; 16 times a year, Vol. 26 (2009)-
変遷注記	継続前誌:The British journal of sports history
件名	LCSH:Sports -- History -- Periodicals <input type="text" value="全ての件名で検索"/>
本文言語	英語,フランス語
コード類	書誌ID=ZZ30019816 ISSN=09523367 NCID=AA1066785X Webcat Plus
URL1	電子ジャーナル [学内限定]
URL2	E-Journal Information [on-campus only]

雑誌名変遷情報

電子ジャーナルへのリンク

所蔵情報

配架場所	所蔵巻号	年次	請求記号	コメント
川内地区	19-24	2002-2007		

所蔵巻号と、詳しい配架場所の確認

目あての年次をプルダウンで選択

年がわからない時は「全て表示」を選ぶ

配架場所	所蔵巻号	年次	請求記号	コメント
川内地区	19-24	2002-2007		

① 年次から西暦を選択すると、その年に出版された雑誌が確認できます。

年次: 2007年 ▼

配架場所	巻号	年次/刊行日	受入日	資料番号	請求記号	状態	コメント
教育図書室	24(7-12)	2007		00105032306			
教育図書室	24(1-6)	2007		00105032291			

雑誌を検索するときには、以下の点を確認しましょう。

■ 必要な巻号があるかどうか

所蔵一覧画面の「所蔵巻号」では詳細までわからない場合がありますので、ここで再度確認してください。

例) 「 1, 21 - 41 」

「1巻と、21巻から41巻までを所蔵している」という意味です。

例) 「 1-20, 21(1-4,6-12), 22-41 + 」

()内は号を表します。この場合は、21巻5号がないことになります。

また、末尾の「+」は、それ以降の最新号も継続購入しているという意味です。

■ どこにあるか

所蔵一覧画面の「配架場所」がキャンパスまでしかわからない場合や、図書館という表示があっても、実際は別の場所や研究室にある場合があります。この画面の「配架場所」で正確な場所を確認する必要があります。

■ 「状態」欄に記載事項がないか

「製本中」なら、一時的に館内にないため利用できません。

「欠号」なら、巻号が表示されていても現物はありません。

雑誌固有の情報

■ 巻次年月次

その雑誌の刊行情報で、いつ刊行が開始され、いつ終了したのかがわかります。この情報は雑誌そのものの情報であり、図書館で実際に所蔵している巻号とは異なります。実際の所蔵巻号は、所蔵情報で確認します。

■ 変遷注記

雑誌には、刊行途中でタイトルが変わったり、複数の雑誌に分かれたり、1つの雑誌に統合されたりというタイトル変遷があります。そういった関係の雑誌は変遷注記に示されており、それぞれの雑誌書誌にリンクしています。探している巻号が見つからない時は、巻次年月次と変遷注記の情報を確認してください。

ポイント： 資料番号を確認しよう

雑誌には製本雑誌と製本していない雑誌があります。資料番号のあるものが製本雑誌です。製本しているものとそうでないもので配架場所が違うことがあるので、資料番号があるのかも確認しましょう。年次が最近のものはOPACの配架場所ではなく新着雑誌コーナーにあることが多いので注意してください。

補足資料 1 : 国立国会図書館分類表(NDLC) (大要)

- A 政治・法律・行政 Politics. Law. Administration
- B 議会資料 Parliamentary publications
- C 法令資料 Legal materials
- D 経済・産業 Economics. Industries
- E 社会・労働 Social affairs. Labor
- F 教育 Education
- G 歴史・地理 History. Geography
- H 哲学・宗教 Philosophy. Religion
- K 芸術・言語・文学 The Arts. Language. Literature
- M～S 科学技術 Science and technology
- U 学術一般・ジャーナリズム・図書館・書誌
Learning in general. Journalism. Libraries. Bibliographies

出典：国立国会図書館分類表（国立国会図書館）
<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/ndl_ndlc.html>

補足資料 2 : 日本十進分類法(NDC) (1次区分)

- 0類. 総記
- 1類. 哲学
- 2類. 歴史
- 3類. 社会科学
- 4類. 自然科学
- 5類. 技術
- 6類. 産業
- 7類. 芸術
- 8類. 言語
- 9類. 文学

第2章 実習問題

OPAC を使い、以下の問いに教えてください。

例題

例題1. 次の資料について、東北大図書館本館内の配架場所と請求記号を調べる。

樋口という著者が執筆した「憲法」という書名の図書で、東北大学内に所蔵があるもののうち、最新版のもの

解答. 本館内の配架場所 : _____
請求記号 : _____

ヒント!

プルダウンメニューから項目を指定します。
「全ての項目から」を「書名(完全形)」
に変えて『憲法』、著者名を『樋口*』として
みましょう。
*をつけるともれのない検索ができます。



例題2. 次の資料の配架場所と資料番号を調べる。

高瀬博文. カーボンナノチューブを用いたポリマーコンポジット. 粉体工学会誌. 2004, vol. 41, no. 11, p. 822-828.

解答. 配架場所 : _____
資料番号 : _____

ヒント!

- 雑誌は雑誌名から調べましょう。
資料番号は所蔵巻号をクリックし、年次をプルダウンで「全て表示」にすると表示されます。
- 例題2は講義で紹介した参考文献の記述形式が使用されています。
検索に必要な情報はどの部分でしょうか。

【参考文献の記述形式】

図書 著者名. 書名. 版表示. 出版地, 出版年, ページ数.

雑誌 著者名. 論文タイトル. 雑誌名. 出版年, 巻数, 号数, ページ.

OPAC では、論文名・論文著者名からの検索できません。これらの項目で検索したい時は、各データベースを使います。



図書

問題1. 生殖医療または生命倫理に関する図書を集めたい。OPAC の学内検索と学外検索の結果を比較する。それぞれ何件ヒットするか。

解答. 学内検索： _____ 件
学外検索： _____ 件

ヒント!

キーワードは「生殖医療」と「生命倫理」とし、論理演算 (OR) を利用して検索してみましょう。論理演算については 3.4 (p.28) を参考に!

問題2. 次の資料を検索し、東北大学内の配架場所と請求記号を調べる。

P. W. Atkins, R. S. Friedman, *Molecular quantum mechanics, 3rd. Ed.*, New York, Oxford Univ. Press, 1997, p. 262.

解答. 配架場所： _____
請求記号： _____

ヒント!

同じ書名の本がいくつかヒットした時は、著者名・版表示・出版年などをチェックしましょう。また、洋書の場合、単語が長いとタイプミスにより検索ができなくなってしまうことがあります。それを防止するには、前方一致の*が便利です。→『Mol* quant* mech*』

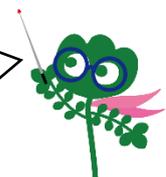
問題3. グローバル企業に関する図書を幅広く探したい。どのような検索方法が効果的か。

検索方法 (どのように検索したか)	キーワード (検索で用いた語)	ヒット 件数
例：検索条件＝全ての項目から 論理演算子＝OR	例：グローバル企業 多国籍企業	例：202

ヒント!

まずは「グローバル企業」を別の言葉で言い換えてみましょう。言葉を置き換えるヒントは「件名」にあります。この他にも広く探す方法があるので、考えてみましょう。

テーマを具体化するときも、この「件名」を使ってみましょう。



雑誌

問題4. 次の資料は東北大学で所蔵しているか。また他大学で所蔵している館はどこか。

雑誌『大学の図書館』の7巻5号

解答. 東北大学所蔵： あり or なし
所蔵している大学： _____

ヒント！

たとえば所蔵巻号が16(2-4)となっている場合、所蔵しているのは16巻の2,3,4号であり、16巻の1号を所蔵していないことを表しています。

問題5. 次の資料は東北大学で所蔵しているか。所蔵していない場合は、学外の所蔵館を1つ挙げよ。また、この文献の雑誌名は何か。電子ジャーナルの閲覧は可能か。

K. Barnham, J.L. Marques, J. Hassard and P. O' Brien, Quantum-dot concentrator and thermodynamic model for the global redshift. *Appl. Phys. Lett.*, **76** 9 (2000), pp. 1197-1199.

解答. 東北大学所蔵： あり or なし
所蔵している大学： _____
雑誌名： _____
電子ジャーナル： _____

ヒント！

英語論文の参考文献における雑誌名は省略形で書かれることが多くあります。雑誌略名のまま検索して、雑誌詳細画面の「その他表題」欄の略タイトルと同じかどうか確認します。略名のまま検索してヒットしなかったら、省略形の(ドット)のかわりに* (アスタリスク)を入れて検索しましょう。例：「Int. Econ. Rev」なら「Int* Econ* Rev*」。

第3章 もっと素材を集めよう(1) 雑誌論文

■ 本章の目的

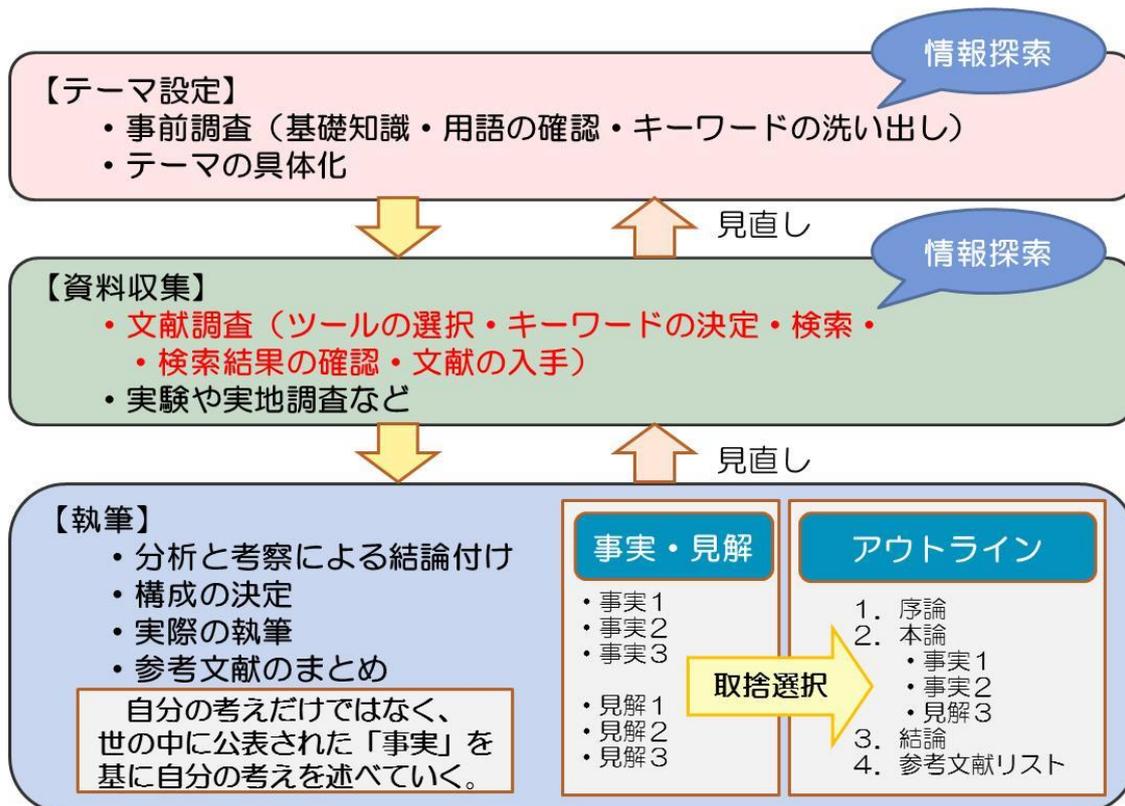
前章では、OPAC を使った図書の検索方法を中心学習しました。しかし、大学で提供している資料（情報源）は「図書」だけではありません。さまざまな種類の情報源があり、それぞれの探し方があります。これらを使いこなし、レポートを説得力のあるものにしましょう。今回は、もう一つの重要な資料（情報源）「論文」を紹介します。

1. レポートに必要な情報

1.1 レポート作成の手順

これまでも学んできたように、レポート作成にあたっては、その過程全般にわたって何度も情報収集、資料収集をする必要があります。現在の事実や、これまでの研究で明らかにされてきたことなどを下敷きに自分の考えを述べるのがレポートであり、学術的な情報がなければただの感想文になってしまいますので、その元となる情報収集は重要です。

収集の対象とする資料も、テーマや段階によって様々です。



（第1章 1.3 レポートの作成手順 より）

1.2 さまざまな情報源

レポートに使える情報源として、前章では図書について紹介しましたが、図書以外にも、以下の図のように課題やレポートに使うべき情報源があります。資料ごとに内容や形態による特性があり、探し方が異なりますので、必要とする情報源を使い分けましょう。



2. 雑誌論文とは

2.1 研究と論文

研究の成果は、論文として雑誌に掲載される形で発表されることが一般的です。同じ成果を得ていたとしても、先に発表された論文の方が研究としての優先権を持つため、週刊、月刊など短い周期で刊行され、速報性が高いという特性を持ちます。

2.2 2 種類の雑誌

大学で扱う雑誌は、大きく 2 つの種類に分けることができます。

(1) 学術雑誌 (Journal)

研究者の研究発表の場として機能するもので、多くの場合、掲載に際して査読と呼ばれる審査を受けます。どのような学術雑誌にどれだけ論文が掲載されたかは、研究者の実績として評価されます。

学術雑誌は、商業出版社や学協会が研究分野ごとに発行するものが主流ですが、そのほかに大学や研究機関が発行する研究紀要・研究報告類などがあります。

大学でいう雑誌とは主としてこの「学術雑誌」を指します。

例) 「Science」、「日本内科学会雑誌」、「東北大学医学部保健学科紀要」など

(2) 一般雑誌 (Magazine)

学術雑誌以外の、実用性・娯楽性が強い雑誌で、大学図書館の収集・保存の対象にならない場合もあります。しかし研究分野によっては重要な情報源となるため、これらを対象とした索引も作成されています。

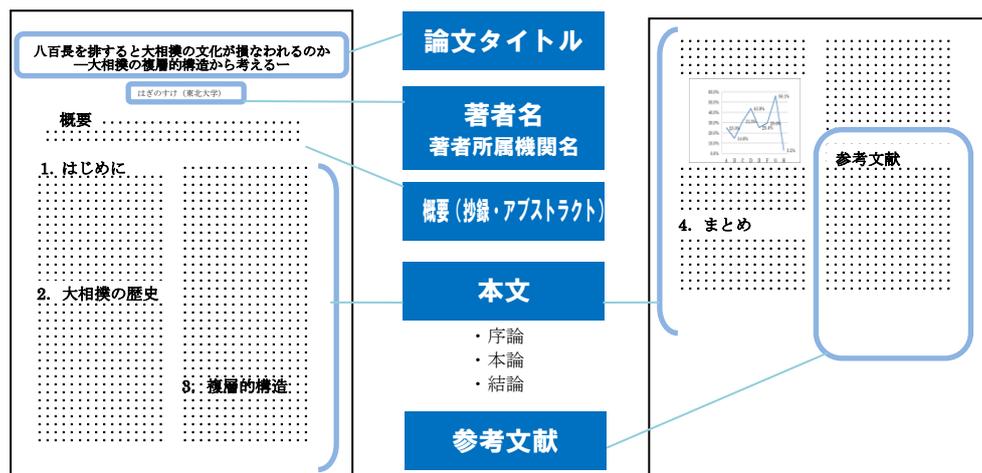
公共図書館では一般雑誌を数多く所蔵しており、国立国会図書館でも納本されたものすべてを保存しています。

例) 「an・an」、「週刊文春」、「NHK きょうの料理」、「本の雑誌」など

2.3 論文の種類と中身

学術雑誌に掲載される論文は、その内容・形式により、次のような種類に分けることができます。それぞれの雑誌の投稿規定で、その内容・形式について定義がなされている場合もあります。

一般論文：Original paper あるいは Full paper とも呼ばれ、研究成果について詳細に記されたものです。次のように、ある程度形式が決まっています。



レビュー：総説ともいいます。ある分野の特定のテーマについて幅広く、概説、あるいは研究動向・展望などがまとめられています。

速報：Letter あるいは Communication ともいい、最新の研究内容が簡略な形式の論文にまとめられたものです。同じ内容について、あらためて一般論文が書かれることもあります。

ノート：研究過程で判明した、新しい事実などについての短い論文です。

通常の学術雑誌は、これらの論文を取り混ぜて編集していますが、レビューのみの雑誌や、速報のみの雑誌も刊行されています。

2.4 論文活用のメリット

雑誌論文は図書より早い情報が掲載されるので、最新の研究の情報を知るのに有用です。正しく引用することで、レポートの客観性・信頼性をアップさせられます。また、どのような先行研究が行われているか、関連する文献の存在なども参考文献リストや引用を読むことで知ることができます。レポートを作成する際に構成・章立て・引用の方法のお手本とすることもできます。

3. 論文を探す手順

3.1 「論文情報の検索」と「所在の検索」

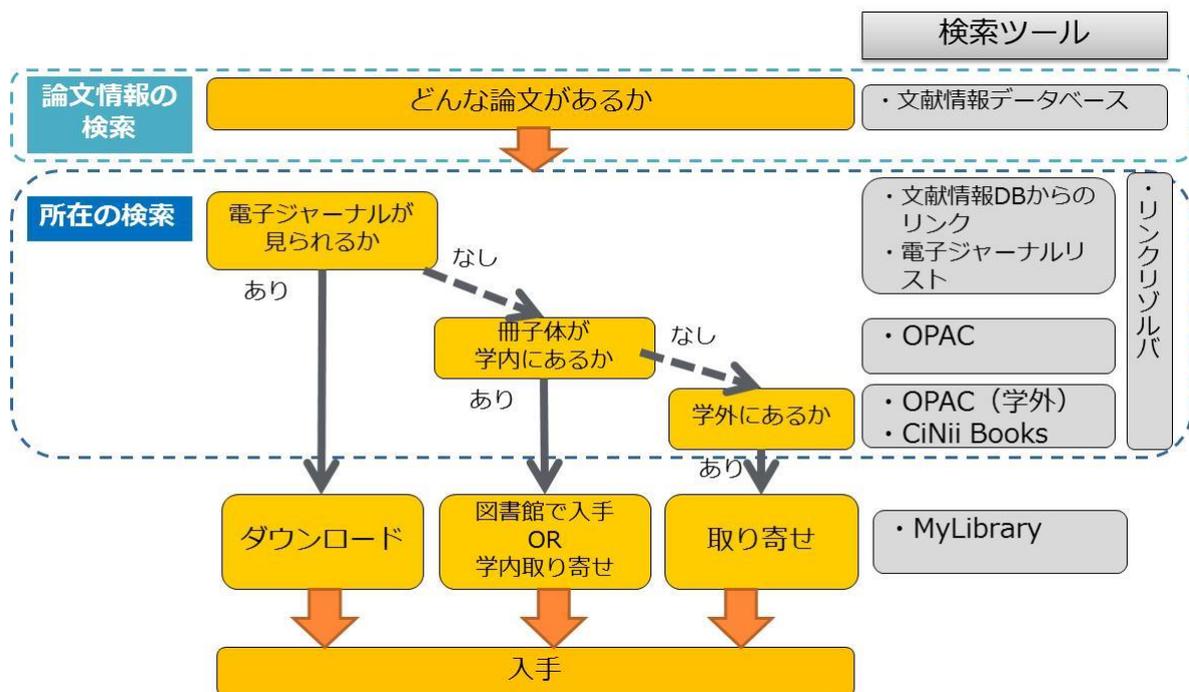
論文探しには2つのステップがあります。

最初に、世の中にどのような論文があるのか、どの雑誌のどの巻、どの号に掲載されているのかを探す検索（論文情報の検索）を行い、次に、具体的な特定の論文を入手するために、どこにあるのかを探す検索（所在の検索）が必要になります。



3.2 論文検索の流れ

論文の検索から入手までの流れは以下のようになります。



論文情報の検索

「どんな論文があるのか」「どのような雑誌の何巻(何号)に掲載されているのか」など、論文の情報を調べたい場合は、CiNii Articles（日本の論文を収録）やWeb of Science（英語の論文を収録）などの文献情報データベースや、参考文献リスト、索引誌、抄録誌などを使って調べます。

論文情報を探すツールは、かつては印刷された形態のものしかありませんでしたが、現在はデータベースが主流となり、ウェブで利用できるようになってきました。著者名、論文タイトルだけでなく、アブストラクト(抄録)中の単語や著者の所属機関名などから検索可能なものもあり、論文を探すための機能が豊富です。

データベース検索から得られるのは、著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、ページなどの基本的な文献情報です。論文本文は、それらの文献情報から、OPAC などを使って冊子体の雑誌を探すか、あるいは電子ジャーナルを利用して入手することになります。ツールによってはアブストラクトに加えて、電子ジャーナルへのリンクがあり、その場で本文を見られる場合があります。

所在の検索

論文の掲載されている雑誌名や巻号はわかっていて、所在を調べたい場合には、電子ジャーナルリスト（後述）や OPAC を使って調べます。

現在では、二次情報データベースのページから、OPAC や電子ジャーナルの該当するページ（その論文の本文や、掲載雑誌のページ）へ、リンクが設定されており、再度検索する必要がないこともあります。リンクは、データベース側で設定されていますが、リンクリゾルバ（後述）など、東北大学の学内向けに図書館が設定しているものもあります。

3.3 OPAC（蔵書検索）のできること、できないこと

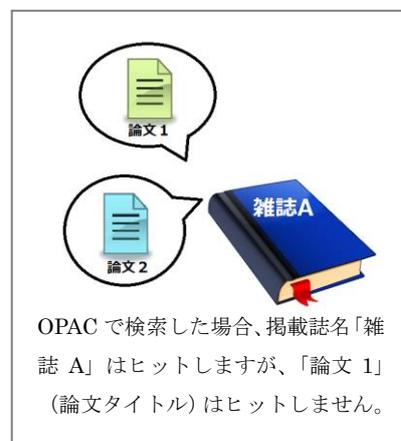
東北大学附属図書館の OPAC で雑誌論文を探す際には注意が必要です。

できること → 所在の検索

東北大および他の図書館で所蔵している雑誌（掲載誌）を探すことができます。探す際には雑誌名で検索します。

できないこと → 論文情報の検索

OPAC には、雑誌の中身情報、つまり掲載論文についての情報が登録されていないので、論文そのものを探すことができません。これから紹介するデータベースを使って検索します。



4. 文献情報データベースを使ってみよう

雑誌論文を探すとき、最初は収録範囲の広いデータベースから始めるとよいでしょう。広い分野で漏れの少ない文献収集ができます。ここでは代表的なデータベースを紹介しします。

※分野によってデータベースや探し方にも特徴があります。(詳しくは『情報探索の基礎知識 人文社会編』『情報探索の基礎知識 自然科学編』参照)

例：CiNii Articles（サイニィ アーティクルズ）の特徴と使い方

日本国内で発行された雑誌掲載論文について、ある程度網羅的に調べることができます。一部の論文は本文そのものが利用可能です。

項目	内容説明
分野	全般（日本国内の論文）
提供機関	国立情報学研究所
範囲	「雑誌記事索引」（学術雑誌、専門誌と一般総合誌）（国立国会図書館） 国内学協会等の学協会誌（国立情報学研究所） 国内大学等の研究紀要・機関リポジトリ（各大学） 「J-STAGE」（国内学協会誌）（科学技術振興機構） 国内主要理工系学協会誌の引用情報（国立情報学研究所）等
URL	http://ci.nii.ac.jp/
利用方法	検索・結果表示、一部本文までは学外からでも無料利用可能。学内からは有料本文の一部（定額アクセス）まで見られる。ユーザ登録（サイトライセンス個人ID）で学外からも定額利用可能。

論文検索 **著者検索** **全文検索** [大学図書館の本をさがす](#)

▼ **詳細検索**

タイトル
 著者名 著者所属 刊行物名
 ISSN 巻 号 ページ
 出版者 参考文献 出版年 年から 年まで

すべて CiNiiに本文あり CiNiiに本文あり、または連携サービスへのリンクあり

検索

CiNiiに本文収録刊行物ディレクトリ

キーワード

詳細検索
論文タイトル、著者名、著者所属、刊行物名等を細かく指定した検索が可能。また、直接本文へのリンクがあるものに絞って検索もできる。

「論文検索」と「全文検索」
 ・論文検索：収録全データの論文名、著者名、抄録などを検索
 ※論文の本文は対象外
 ・全文検索：PDFが収録されているデータの論文全文から検索
 ※PDF無しのデータは対象外

検索結果: 59件中 1-20 を表示

新しいウィンドウで開く 実行 すべて選択

20件ずつ表示 出版年:新しい順 表示

1 Moodleを活用した日本語教員養成向けeラーニングコンテンツの開発と授業改善:言語一般および言語と教育を中心に
篠崎 大司
This paper is a follow-up of the study by SHINOZAKI(2013) that treated the Development of E-learning Contents for Japanese Teacher Training and Analysis of Learners' Course Evaluations by Employing Mo...
日本語教育方法研究会誌 20(2), 72-73, 2013-09-21
Cinii PDF - 未公開 他のフルテキスト候補をみる

2 来日前の留学生のためのICTを活用した日本語学習教材の開発
榎屋 下 茂, 早瀬 節子, 藤 保江, 藤井 俊子, 久家 淳子, 早瀬 博範
佐賀大学全学教育振興紀要 1, 13-22, 2013-07
Cinii 外部リンク 他のフルテキスト候補をみる

3 インプット系授業に特化した融合型ブレンディッドラーニングモデルの構築と上級日本語文法eラーニングコンテンツの開発
篠崎 大司
The aim of this paper is to explain the construction of the Integrated Blended Learning Model specializing in classes for input. The proposition of the discussion is to divide Japanese classes into th...
日本語教育方法研究会誌 20(1), 12-13, 2013-03-09
Cinii PDF - オープンアクセス 他のフルテキスト候補をみる

4 聴覚障がい児童向け日本語文法学習支援eラーニング教材の開発 (ICTを活用した教育実践と授業改善/一般)

検索結果の並び替え

簡易情報。クリックで詳細画面へ

① 論題 ② 著者名

③入手方法 (論文へのリンク)

④掲載雑誌の情報 (雑誌名、巻号数、ページ)

③入手方法 (論文へのリンク)

Cinii PDF Cinii Link J-STAGE IR FullText Free JASI crossref CiLINK

上記アイコンのある場合、オンラインで全文が見られる可能性がある。

5. 論文を読むには

5.1 まず「電子ジャーナル」で読んでみよう

「雑誌」といえば、冊子体を思い浮かべる人も多いと思いますが、現在では、「電子ジャーナル」と呼ばれるインターネット上で読める雑誌も数多くあります。電子ジャーナルなら、研究室のパソコンからでも読むことができ、とても便利です。掲載雑誌名や巻号、ページなどの論文情報が得られたら、まず電子ジャーナルで論文が読めるかどうかを調べてみましょう。

電子ジャーナルとは

- ◇ウェブ上で提供される雑誌のこと。
- ◇オンラインジャーナルや E-ジャーナル、EJ と呼ばれ、PDF や HTML の形式で提供されている。

電子ジャーナルの特徴

- ◇ 図書館や研究室など、学内ネットワークに接続されたパソコンから利用できる。
- ◇ データベースからのリンクで容易に利用できる
- ◇ 無料で一般公開されているものもある
- ※ 利用できる年代は契約ごとに異なる
- ※ 古い雑誌や日本語の雑誌は電子ジャーナルになっていないものも多い

では、どうすれば電子ジャーナルが読めるのでしょうか。

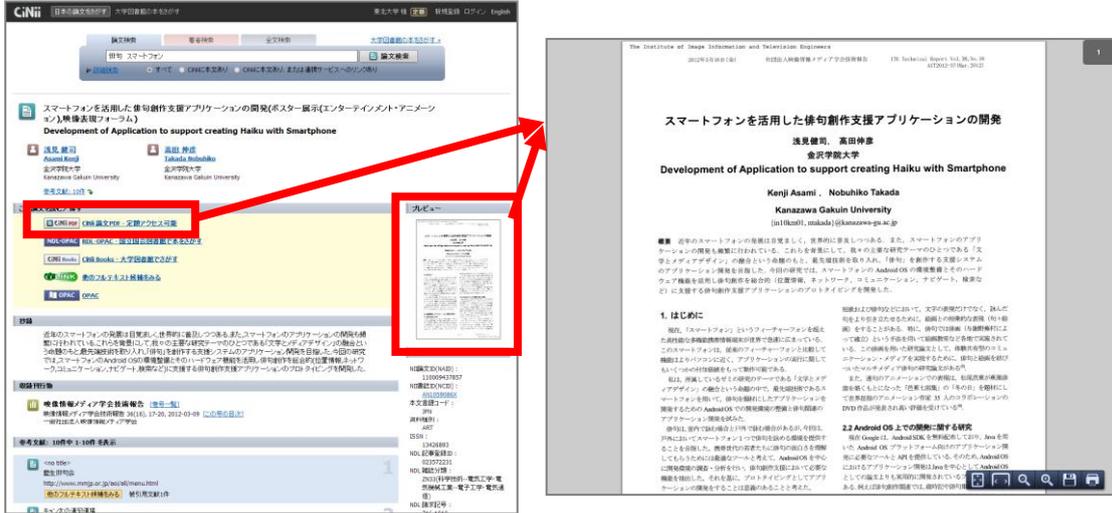
入り口としては、文献情報データベースに付いている本文へのリンクからアクセスする、OPAC からアクセスする、電子ジャーナルリストからアクセスするなどの方法があります。『CiNii Articles』など、本文へのリンクが付いているデータベースであれば、その場で論文本文を読むことができます。

電子ジャーナルはここから使える

- ◇ CiNii Articles などの文献情報データベース
 - ◇ OPAC のリンク
 - ◇ 電子ジャーナルリスト
- ※「電子ジャーナルリスト」は、東北大学で利用できる電子ジャーナルの一覧で簡単な検索機能もついている。検索するときは論文名ではなく雑誌名で！

■文献情報データベースからのリンク

○CiNii Articles から電子ジャーナルへのリンクの例



※CiNii Articles は文献情報データベースと電子ジャーナルの両方の機能を持つサービスです。「CiNii 論文 PDF」というボタンでは、リンク先の本文も CiNii が提供していますが、外部の電子ジャーナルサイトへのリンクもあります。

なお、電子ジャーナルは一部に無料のものもありますが、多くは有料です。しかし、大学がその雑誌を契約している場合、教員・学生を問わず利用者個人に料金請求が行われることなく、大学のネットワーク内からであれば手続きなしで利用することができます。

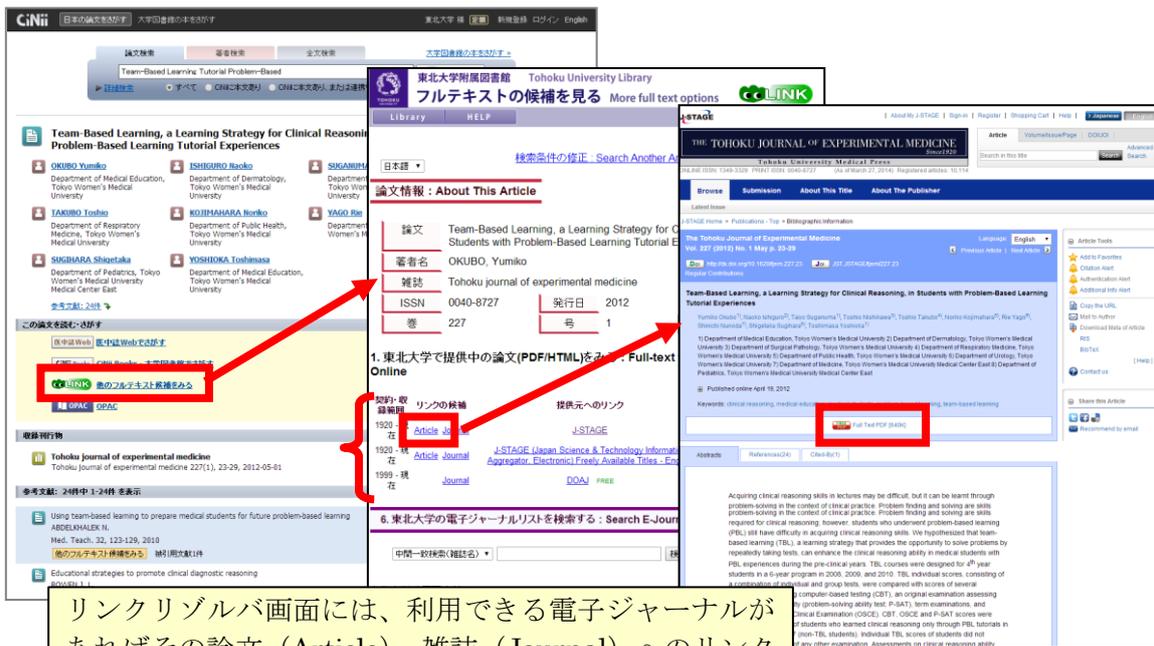
○CiNii Articles からリンクリゾルバ経由で電子ジャーナルにリンクされている例

本文へのリンクが見つからない時は、「リンクリゾルバ」をクリックしてみましょう。

リンクリゾルバ (Link Resolver) は、全世界の電子ジャーナルの情報と、東北大学が何を契約しているかという情報を元に、適切な本文へのリンクを表示します。



このアイコンがリンクリゾルバです。図書館キャラクターのはぎのすけが目印です。CiNii の検索結果一覧など一部の画面では「他のフルテキスト候補をみる」という文字列からリンクされています。



リンクリゾルバ画面には、利用できる電子ジャーナルがあればその論文 (Article)、雑誌 (Journal) へのリンクが表示されます。
 (電子ジャーナルがない場合には、冊子体を探すためのOPACなど代替手段へのリンクが表示されます。)

東北大学で利用できる雑誌をまとめて一覧できる、「電子ジャーナルリスト」もあります。電子ジャーナルリストには、東北大学で契約しているものの他に無料で公開されているものも含まれていて、簡単な検索機能もついています。探した論文が電子ジャーナルで読めるかどうか確かめるときは、まず電子ジャーナルリストを使うと便利でしょう。探すときは、論文名ではなく雑誌名で検索することがポイントです。

- 電子ジャーナルリストからのアクセス
 附属図書館ホームページから「電子ジャーナルリスト」の項目をクリックします。



検索窓に雑誌名を入れ検索します。

HOME お問い合わせ サイトマップ ENGLISH
 東北大学附属図書館 Tohoku University Library
 サイト内検索 (Google) 検索

関連ツール
 ●電子ジャーナルリスト
 ●データベース・ツールインデックス
 ●電子ブック
 電子リソースのおしらせ

電子ジャーナルリスト E-Journals List
 ■雑誌名(アルファベット順)リスト - BROWSE e-journals by title →HELP
 A / B / C / D / E / F / G / H / I / J / K / L / M / N / O / P / Q / R / S / T / U / V / W / X / Y / Z / 0-9 / Other
 あ / い / う / え / お / か / き / く / け / こ / さ / し / す / せ / そ / た / ち / つ / て / と / な / に / ぬ / ね / の / は / ひ / ふ / へ / ほ / ま / み / む / め / も / や / ゆ / よ / り / り / れ / ろ / わ

■雑誌タイトル/ISSNから検索 - Find e-journals by title or ISSN →HELP
 Title contains all words [検索窓] Search

■分野別リスト - BROWSE e-journals by subject →HELP
 -- Please select a subject category -- Search

■提供サイト一覧
 ■リモートアクセスについて

雑誌名を入力
 ※論文名では探せない

■OPACからのアクセス

OPAC で雑誌を検索すると検索結果に電子ジャーナルへのリンクが表示されることがあります。ただし、リンクが表示されるのは、東北大学が有料で契約しているものが中心であり、無料のものや東北大学が契約していないものはOPACでは表示されません。

<雑誌> [7 / 15] ◀ 前の書誌 ▶ 次の書誌 ▶

The lancet
 詳細を非表示

巻次年月次 Vol. 1, no. 1 (Oct. 1823)-v. 273, no. 6998 (Oct. 1957); 1957, no. 6999 (1957)-1989, no. 8678/8679 (1989); V. 335 (1960)-

出版者 London

一般注記 Publisher varies: The Lancet Limited from Vol. 240 (1941)

本文言語 英語

URL1 電子ジャーナル [学内限定]
 URL2 E-Journal Information [学内限定]

他の検索サイト
 Webcat Plus
 CINI
 Google
 Google Scholar

例えば、「The Lancet」という雑誌をOPACで検索した場合、電子ジャーナルも利用できる所以リンクが表示されます。

東北大学附属図書館 Tohoku University Library
 電子ジャーナルリスト E-Journal List

TOP HELP E-Books Databases OPAC Library

日本語

すべてのリソース Eジャーナルのみ Eブックのみ その他のリソース

1レコード 次の検索の結果: ISSN, ISBN検索 "01406736"

The Lancet (British edition) (0140-6736) 記事54冊
 from 1823 to 現在 in Elsevier ScienceDirect (記事54冊)
 from 1991/01/05 to 2006/12/31 in EBSCOhost (学内限定)
 from 1995/01/01 to 現在 in Elsevier ScienceDirect

SciVerse Elsevier ScienceDirect Scopus Applications
 Register | Login | Set My Alerts

Home | Browse | Search | My settings | My alerts | Help

Journal/Book title - This Journal/Book... Author: Volume: Issue: Page: Search

2012 Elsevier Research Summit
 Better Writing and Getting Published: Insights of Top Editors from The Lancet Journals
 June 8, 2012 | Beijing - June 9, 2012 | Shanghai

THE LANCET
 Copyright © 2012 Elsevier Ltd. All rights reserved.
 Sample issue Online | About this Journal | Submit your Article | Share this with your friends | The Lancet Interactive
 New Article Field | Join me on LinkedIn | Facebook | Twitter | YouTube | RSS | Add to my Favorites

Volume 371, Issue 9212, 1-12, 12 March 2012

1 | 12 March 2012, 2012
 Show printer | PDF (207K) | Related articles | Related reference work articles

2 | Social determinants of health and outcomes in New Zealand
 Page 1072
 Show printer | PDF (371K) | Related articles | Related reference work articles

3 | Thyroid disease—more research needed

Cell Symposia
 Angiogenesis, Metabolic Regulation, and Cancer Biology in association with VEGF

無料の電子ジャーナルの1つとして、「機関リポジトリ」という、各大学等の研究機関が研究・教育成果を保存・公開しているシステムがあります。東北大学でも機関リポジトリ「TOUR」を公開しており、東北大学に所属している教員などが書いた論文で、著者の了解を得られたものについては本文を公開しています。

電子ジャーナルを使う時の注意点

◇大量ダウンロードはしない

- 手動、ソフト使用にかかわらず。特に短時間で特定の号まるごとは禁止
- 表示だけでも「ダウンロード」と認識する

◇著作権を侵害しない

- 保存は個人で利用する場合のみ可能。データの改編、第三者への再配布は禁止。

➡ 大量ダウンロード=不正利用とみなされ、東北大学全体の利用が停止される場合があります。

5.2 電子ジャーナルがないときは？---冊子体を探そう！

自分が読みたい論文が電子ジャーナルで読めなかったら、次は論文が掲載されている雑誌が図書館にあるか調べます。

文献データベースに「リンクリゾルバ」のリンクがあれば、リンクリゾルバを通じて、雑誌名や巻号を再度入力することなく雑誌を探すことができます。

「東北大学の蔵書を探す」の下の「By Journal Title」をクリックすると、雑誌名でOPACを検索します。

リンクリゾルバには、利用出来る電子ジャーナルがない場合、他の検索サイト、OPAC、他大学からの取り寄せ（5.3参照）へのリンクが表示されます。

3. 東北大学の蔵書を探す： Search Tohoku University by OPAC

配架場所	所蔵巻号	年次	請求記号	コメント
川内地区	24-53.541-2*	1983-2013		
医学分館	24-53.541-2* (2013.3.1-2013.3.31)	1983-2008		

配架場所	巻号	年次/刊行日	受入日	資料番号	請求記号	状態	コメント
文心理	54(2)	2013	2013.9.2			研究室	
教育図書室	54(2)	2013	2013.8.19				
文心理	54(1)	2013	2013.3.1			研究室	
教育図書室	54(1)	2013	2013.3.4				

自分がよく行く図書館（室）にあれば、図書館に出かけて論文を読んだりコピーしたりできます。他のキャンパスになら目当ての雑誌があるのに・・・という場合は、他のキャンパスの図書館（室）へ行くか、近くの図書館（室）から論文のコピーを取り寄せることもできます。（5.3 参照）

リンクリゾルバでうまくいかない場合や、すでに巻号などがわかっている場合は、OPACで雑誌名を入力して検索してみましょう。ポイントは論文のタイトルではなく、雑誌名で検索する点です。

OPACで雑誌を検索するときのポイント

- ◇読みたい論文が掲載されている雑誌名で検索する
- ◇掲載されている巻号や年は入力しない
 - まず雑誌名だけで検索し、それから読みたい巻号や年代が所蔵されているか確認する
- ◇論文のタイトルや著者からは検索できないことに注意

5.3 図書館に冊子体もないときは？---論文のコピーを取り寄せよう！

電子ジャーナルも利用できなかったし、OPACで検索したら図書館に冊子体もなかった・・・そんな時は、他大学の図書館から論文のコピーを取り寄せることができます。取り寄せるときには図書館のWebサービス「MyLibrary」か、図書館のカウンターで申込みます。

これもOPACの検索と同じく、文献情報データベースにリンクリゾルバへのリンクがあれば、そこを通じて、雑誌名や巻号などを自分で入力せずとも「MyLibrary」から取り寄せを申し込むことができます。

「他大学からの文献の取り寄せ」の「申込み (Submit)」をクリックすると、東北大 ID によるログイン、利用条件の確認画面の後、論文情報 (雑誌名、巻号、ページ数、論文タイトルなど) が入ったフォームに移動できます。

手元に論文の情報 (雑誌名や巻号、ページ数、論文タイトル等) があり、リンクリゾルバ以外から申し込みたい場合は、東北大学附属図書館のウェブサイトや、OPAC にある MyLibrary へのリンクからログインして直接申し込むことも出来ます。



論文コピーの取り寄せ (文献複写申込)

- ◇申込みは「MyLibrary」またはカウンターで
- ◇他キャンパスの図書館 (室) や他大学の図書館から取り寄せ可能
- ◇料金：1 枚 35~60 円程度のコピー料金+郵送料
(学内の他キャンパスからだとも 1 枚 20 円、送料は無料)
- ◇日数：4~10 日
- ◇雑誌だけでなく、図書の一部のコピーも取り寄せ可能
※図書も雑誌も、一冊まるごとのコピー取り寄せは基本的に不可

★コピーをとるとき／取り寄せるときのルール

本や雑誌には「著作権」があります。これは本や論文を書いた著者の権利で、皆さんが他人の著作物である資料を図書館のコピー機でコピーするときや、他大学の図書館からコピーを取り寄せるときには、著作権法で許される範囲内で行わなくてはなりません。

図書館で資料をコピーするときの注意

- ◇調査研究目的に限り、1人1部まで
- ◇コピーできるのは資料の一部分（半分を超えない程度）
ただし、雑誌については発行後相当期間（次の号が発行されるまで、または3ヶ月程度）が経過すれば一論文全体がコピー可能となるが、最新号はコピーできない

- ※図書館でコピーするときは、必ず備え付けの申込書に記入するようにしてください。
- ※文献複写依頼をするときも、上記の条件を満たしていないと取り寄せできないので注意！

6. 論文を選ぶ

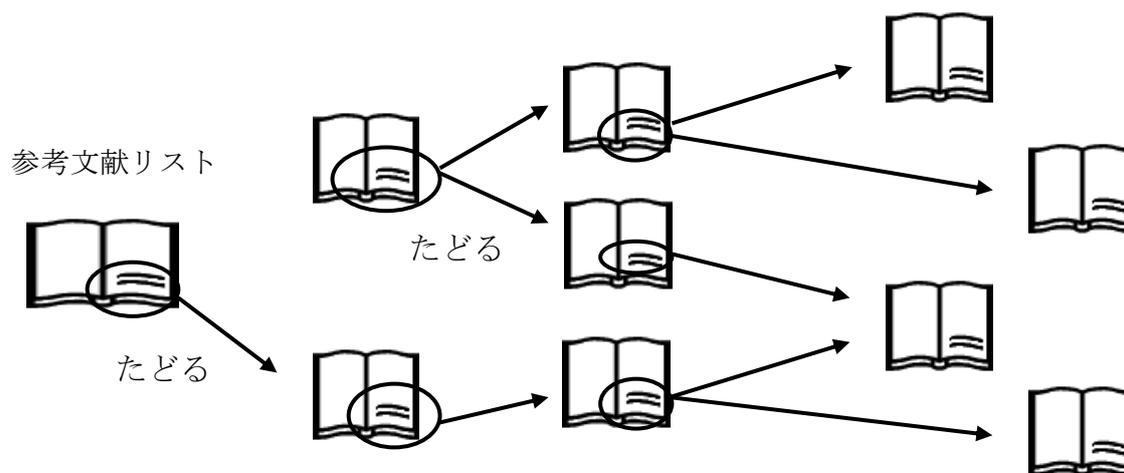
6.1 検索語の選び方

自分の決めたテーマで論文を検索してみて、検索結果はどうでしょうか。入力したキーワード（検索語）によってはヒットするものが少ないかもしれません。また、文献情報データベースではたくさんの論文が収録されているため、キーワードによっては膨大な量の論文がヒットすることもあります。

少なすぎたり多すぎたりする場合は、前回学んだように、検索語を変えて範囲を狭める、または広げるなどして再検索することが必要です。

6.2 参考文献リストを使った検索

論文の形式の部分（2.3）で触れたように、論文には多くの場合参考文献リストがついています。参考文献リストをみると、この論文がどのような論文やその他の資料を参考にして書かれたかを知ることができます。同じテーマの更に以前の論文のリストにもなりますので、参考文献の関係をたどっていくことも、参考文献の探し方として有効です。また、複数の論文で参照されている論文などがあれば、そのテーマにおいて重要な論文だと言えるでしょう。



論文本文の参考文献リストを見て検索するほか、『Web of Science』や『CiNii Articles』（一部の論文のみ）では、引用関係をデータベース上でもリンクさせているので、画面上でたどって探すことができます。

逆に、自分が現在書いているレポート、論文にも、参考文献リストを付ける必要があります。論文のタイトル、雑誌名、巻号、ページ数、出版年などは、参考したすべての論文や資料についてメモしておいてください。

6.3 論文の選び方

文献情報データベースなどでヒットした論文をすべて読むことは難しいかもしれません。どのように論文を選べばよいでしょうか。

電子ジャーナルがあるものなど、入手のしやすさで優先してしまいがちですが、それでは重要な論文を見逃してしまいます。

論文を選ぶ基準には以下のようなものがあります。

- 探しているテーマに合致しているか（抄録などから判断）
- 掲載された雑誌
- 査読を受けているか
- 著者はどのような人か
- 被引用数（Cited）
※ 他の論文から引用されている回数。『Web of Science』や『CiNii Articles』（一部の論文）では被引用数が表示されています。

7. もっと便利に

7.1 その他のツール（データベース・ツールインデックス）

CiNii Articles 以外にも様々なデータベースがあります。図書館ホームページの「データベース・ツールインデックス」は、東北大学で契約しているものを中心に、データベースを幅広く集めたリンク集です。研究分野やツールのタイプからデータベースを探すことができます。

7.2 どこからでもDBやEJを使えるリモートアクセス

文献情報データベースや電子ジャーナルは有料のものが多く、主な機能は、契約している大学内でしか使うことができません。

しかし、リモートアクセスの機能を使うことで自宅や外出先などの学外からでも学内と同じ条件でデータベースや電子ジャーナルを使うことができます。

サービスごとに学内であらかじめIDを設定しておく必要があります。

詳しくは以下のページをご覧ください。

- 『電子ジャーナル／データベース リモートアクセス』 東北大学附属図書館
(<http://tul.library.tohoku.ac.jp/jnl/ej-remoteaccess2.html>) 学内限定

第3章 実習問題

雑誌論文

問題1. CiNii Articles の検索でヒットした次の資料について、下記項目を調べて下さい。

入手方法については、一つだけでよい。たとえば、電子ジャーナルで入手出来る場合は冊子体の所在を確認する必要はない。

中山間地域に居住する高齢者の地域生活とQOL評価の関係：高齢者のQOL向上に向けた福祉のまちづくりに関する研究
Correlations between social life and QOL of elderly persons living in mountain villages: a study of the effects of rural planning on community development and the welfare improvements in terms of QOL of elderly persons

三宮 基裕
Sannomiya Motohiro
九州保健福祉大学社会福祉学部臨床福祉学科
Department of Clinical Welfare Service, School of Social Welfare, Kyushu University of Health and Welfare

井上 孝徳
Inoue Takanori
九州保健福祉大学社会福祉学部臨床福祉学科
Department of Clinical Welfare Service, School of Social Welfare, Kyushu University of Health and Welfare

川崎 順子
Kawasaki Yoshiko
九州保健福祉大学社会福祉学部スポーツ健康福祉学科
Department of Sports Health and Welfare, School of Social Welfare, Kyushu University of Health and Welfare

この論文を読む／探す

[CINii PDF](#) [CINii 論文PDF - オープンアクセス](#)

[NDL-OPAC](#) [NDL-OPAC - 国立国会図書館で本をさがす](#)

[LINK](#) [他のフルテキスト候補をみる](#)

[医中誌Web](#) [医中誌 Web](#)

[CiNii Books](#) [CINii Books - 大学図書館でさがす](#)

[OPAC](#) [OPAC](#)

抄録

This study examined the impact of rural planning on community development related to improvements in the level of QOL (Quality of Life) of elderly persons. In this report, we conducted a correlational analysis of social life and the QOL evaluation of elderly persons living in the mountainous villages. We interviewed elderly persons living in the mountainous villages regarding their conditions of their social life, and whether they were living alone. In general, elderly persons had low evaluations on QOL on health and use of facilities for travel. The elderly persons who had high QOL evaluations had outdoors activities and their families often visited their homes. In order to elevate the quality of life in these settings, it will be necessary to support activities outside the home and to build a system that facilitates for travel without constraint. This could be an effective method to increase periodic visits from their families, which would enhance the level of QOL for these persons.

収録刊行物

九州保健福祉大学研究紀要 【巻号一覧】
九州保健福祉大学研究紀要 12, 31-38, 2011-03 [この号の目次](#)
九州保健福祉大学

プレビュー

キーワード

[高齢者](#)
[生活の質](#)
[地域生活](#)
[福祉のまちづくり](#)
[中山間地域](#)

著者名	
論文タイトル	
雑誌名	
出版年	
巻号数・ページ	
入手方法	電子ジャーナル 有・無 学内所蔵（冊子）有・無（配架場所： ） 他大学所蔵 有・無 複写依頼をする 図書館で相談する

問題 2. CiNii Articles で以下の論文を探して、下記項目を調べて下さい。

1995 年よりも前に書かれた神戸市長田区のまちづくりに関する論文

著者名	
論文タイトル	
雑誌名	
出版年	
巻号数・ページ	
入手方法	電子ジャーナル 有・無 学内所蔵 (冊子) 有・無 (配架場所:) 他大学所蔵 有・無 複写依頼をする 図書館で相談する

問題 3. CiNii Articles で以下の論文を探して、下記項目を調べて下さい。

塩卓悟氏の書いた「宋代における肉食の普及状況」という論文

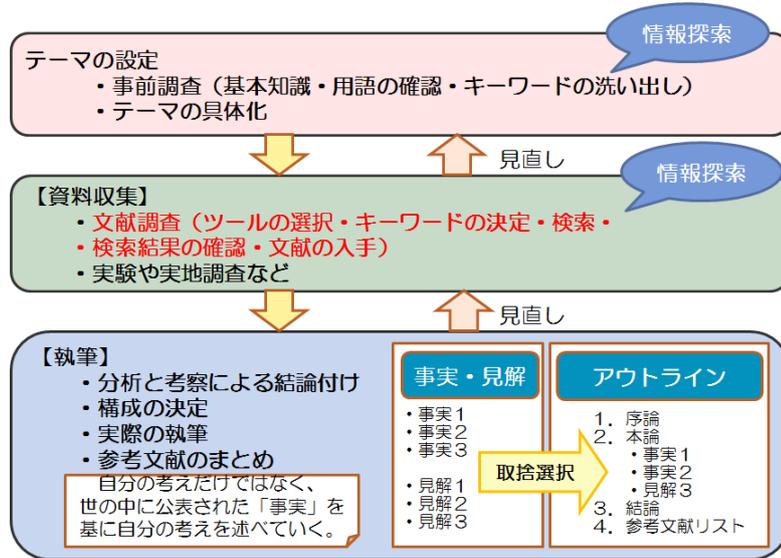
著者名	
論文タイトル	
雑誌名	
出版年	
巻号数・ページ	
入手方法	電子ジャーナル 有・無 学内所蔵 (冊子) 有・無 (配架場所:) 他大学所蔵 有・無 複写依頼をする 図書館で相談する

第4章 もっと素材を集めよう(2)新聞・統計資料

■ 本章の目的

ここでは、テーマに関する特定の出来事（新聞記事）や、客観的なデータ（統計）を集める方法を学習します。初めは難しく感じるかもしれませんが、探すコツや資料の特徴を理解できれば、幅広い情報から多角的な知識を得られるというメリットがあります。

レポート作成の手順



（第1章 1.3 レポートの作成手順 より）

1. 新聞資料

1.1 新聞とは

一般的に「新聞」といえば、毎朝届くものを想像しますね。日々世の中の出来事を伝える新聞は、その情報を蓄積することによって、ある出来事の実事確認や過去から現在までの世相、また、ある言葉の使われ方などを調べる有用なツールになります。

ここでは、新聞資料の特徴と、オンラインデータベースを使った記事の探し方について学びます。

新聞といっても、様々な発行形態や内容、収録メディアのものがあ、それぞれに特徴があります。新聞記事を探す場合は、まずその特徴を知っておくことが大切です。

(1)種類

新聞には、大きく分けると、日本全国に販売拠点を持つ「全国紙」と、特定地域で販売される「地方紙」の2種類の発行形態があります。

また、その内容によって、様々な分野の内容を偏りなく掲載している「一般紙」、特定の分野に特化した紙面で構成されている「専門紙」、ある組織や団体の広報用として発行される「機関紙」に分けられます。その他、外国語や点字の新聞など、様々なものがあります。

	全国紙	地方紙 (ブロック紙)
一般紙	朝日新聞、毎日新聞、 読売新聞、産経新聞など	河北新報、山形新聞、 石巻日日新聞など
専門紙	日本経済新聞、 日刊工業新聞など	中部経済新聞、 デイリースポーツなど
機関紙	(大学、政党、宗教団体等による新聞) 東北大学新聞、しんぶん赤旗、聖教新聞など	
他言語紙	The Japan Times、朝鮮日報、点字毎日など	

(2)形態

新聞本紙は紙質が悪いため保存に向いておらず、また、記事検索用の索引もありません。そのため新聞は、さまざまなメディアに変換して提供されています。

メディアの種類	特徴
 本紙 (原紙)	速報性が優先。メディアの保存や記事検索ともに不向き。
 冊子体 (縮刷版)	本紙を縮小して月単位で印刷した保存用の冊子体。記事索引がついているものもある。  
 マイクロフィルム	本紙を縮小撮影したもの。保存によいが、閲覧には専用機器が必要。検索には他のツールが必要。 
 CD・DVD	マイクロフィルム等 비해記事検索に優れるが、写真や広告など本紙全面は収録していないことが多い。
 オンラインデータベース	日々更新される。検索機能が充実しており、幅広い年代の記事を検索することが可能。学内のネットワーク内であればどこからでも利用できる。
 無料ウェブサイト	最も速報性が高いが、本紙紙面とは別記事である。過去の記事を参照できない場合も多い。

1.2 新聞活用のメリット

新聞はその時々ので出来事を日々発信し続けるメディアです。そのため、その出来事がどのような社会背景のもと起きたのか、また当時の人々にどのように受け止められたのかを知ることができます。また、ある人物や事柄についての記事を追うことで、より深く対象を理解することもできるでしょう。研究結果がどのように実用化され、また社会に影響を与えているのかを知るのにも役立ちます。特定業界の情報は「専門紙」を、地域の情報は「地方紙」を活用することで、図書等では扱われないような細かい情報も収集が可能になります。

1.3 新聞の特徴と注意点

新聞は他の資料とは異なる特徴を有し、非常に有用である一方で、その特徴故に利用する際に注意すべき点もあります。

時事性	過去から現在にかけての多様な社会情報を日々記録
	最近話題の出来事や過去の世相などの探索に有効な情報源
速報性	情報を広く報道するために印刷物として記録し、いち早く出版
	事実関係の信憑性→数日後の紙面確認、複数メディアによる検証
多様性	新聞社や記者により、問題への姿勢や事件の見解などに相違
	出版形態が様々で内容が異なる場合がある

ウェブの普及と情報環境の変化により、新聞の時事性や速報性の位置付けは変化しつつあります。事件などの情報は、新聞よりも、場合によってはテレビやラジオよりも早く、インターネットやソーシャルメディアを通じて知ることができます。そして、その情報は後日も検索可能な上、新聞のような休刊日もありません。かつて高い時事性と速報性を誇り、その事実は変わらない新聞ですが、情報環境が日々変化する現在、情報を利用する側が、その目的や状況に応じて使い分けていく柔軟性が必要となっています。

また、新聞の多様性の1つの例として、ウェブ上の記事と本紙の記事の違いがあります。多くの新聞社は、ウェブ上で速報記事を提供しています。新たな事実が判明次第、記事が追加されるので、速報性に非常に優れています。これらの記事を基に本紙の記事が作成されますが、詳細な解説が追加されていたり、文章表現や画像が異なっていたりしますので、区別して利用する必要があります。

ウェブの記事	本紙の記事
 <p>ウェブの記事のスクリーンショット。朝日新聞デジタルの「東京は安全」汚染水問題、釈明に追われる招致委の記事。写真付きの記事で、招致委員の発言が引用されている。</p>	 <p>本紙の記事のスクリーンショット。朝日新聞の「汚染水事故釈明に懸命」の記事。写真付きの記事で、招致委員の発言が引用されている。ウェブ版よりも詳細な解説や引用がある。</p>

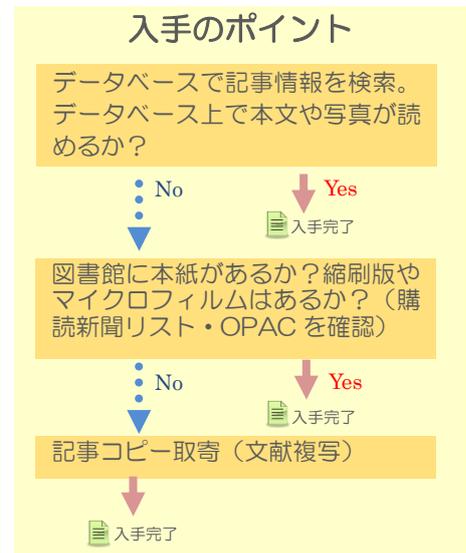
左：朝日新聞社。“朝日新聞デジタル”。<http://www.asahi.com/olympics/articles/TKY201309050019.html>。(参照 2013-9-5)。

右：朝日新聞。2013年9月5日、朝刊、37ページ。開蔵II for Library。(参照 2013-9-6)。

2. 新聞記事の探し方

2.1 新聞記事を探す手順

新聞記事を検索・入手するには、まず新聞を特定することが必要です。検索対象が定まったら、目的にあったツールで検索を行います。主要な新聞については、記事のデータベース化が進んでおり、検索と同時に記事を入手することができますが、データベースで利用できない記事や主要紙以外の新聞は、縮刷版などを OPAC で探して利用します。



2.2 新聞記事検索の特徴と注意点

以下は、主要紙について本館の所蔵状況と本学で利用できるデータベースをまとめたものです。形態によって所蔵している（利用できる）範囲が異なるため、必要な記事の年代や特徴（写真の有無など）に応じて使い分ける必要がありますので、注意してください。

形態/新聞名	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞	河北新報	日本経済新聞
本紙	過去3年分	過去3年分	過去3年分	過去3年分	過去3年分
縮刷版	1930-最新	1950-最新	1959-最新	-	1949-最新
マイクロフィルム	1984-2001 (宮城版)	1872-1966 1956-2001 (宮城版)	1956-2001 (宮城版)	1954-2013	-
CD-ROM	『CD-HIASK』 1985-2001 『戦後50年朝日新聞 見出しデータベース 1945-1995	-	『明治の読書新聞』 『大正の読書新聞』 『昭和の読書新聞』	-	『日経全文記事 データベース』 1990-2008
オンラインデータベース	『聞蔵Ⅱビジュアル』 1879-最新	『毎日 News バック』 1872-最新	『ヨミダス歴史館』 1874-最新	『KD』 1991-最新	『日経テレコン21』 1876-1961, 1981-最新
無料ウェブサイト	朝日新聞デジタル	ニュースサイト 「毎日新聞」	YOMIURI ONLINE	KOLNET	日本経済新聞 電子版

検索ツールの多様性

- ◇新聞社ごとにデータベースが分かれている場合が多い
- ◇オンラインデータベース、無料ウェブサイト、CD・DVD、冊子体

創刊号から検索可能となっているものもあり、オンラインデータベースには非常に多くの記事が収録されていますが、収録されているすべての記事を同じように利用できるわけではありません。注意が必要です。

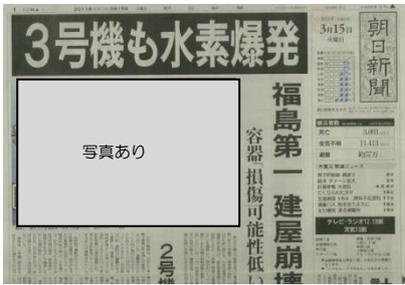
<p align="center">オンラインデータベース① 【切り抜き画像】</p>	<p align="center">オンラインデータベース② 【テキストのみ】</p>												
<p>新しい記事は、テキストだけでなく、新聞に掲載されたとおりの切り抜き画像を見られます。</p>	<p>古い記事は、テキストのみ利用できます。写真や図があっても表示されませんので、必要に応じて縮刷版を参照しましょう。</p>												
	<table border="1" data-bbox="813 645 1308 974"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>発行日</th> <th>朝夕刊</th> <th>面名</th> <th>ページ</th> <th>文字数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00298</td> <td>1984年08月06日</td> <td>夕刊</td> <td>スポーツ</td> <td>005</td> <td>00664文字</td> </tr> </tbody> </table> <p>初の女子マラソン(ロス五輪・第9日)</p> <p>【ロサンゼルス支局五日】第二十三回のオリンピックで、初めて取り入れられた女子マラソンは、大会第九日の五日午前八時六分(日本時間六日午前零時六分)、サンタモニカ市短大をスタート、ジョン・ベノイト(米)が、独走で初の五輪マラソン女王の座についた。</p> <p>高湿、スモッグの影響が心配されたため早朝のスタートとなったが、ベノイトは2時間24分52秒の歴代三位、二位のグレテ・ワイツ(ルルウェー)とともに、女子だけが走ったマラソンでのこれまでの“世界最高”を更新した。全体的にも出場五十人中四十四人が完走し、九位までが2時間30分を切るという、予想以上の好成績だった。戦前十三回大会までの五輪での男子マラソン記録は、一九三六年のベルリン大会で孫基禎(当時日本)が出した2時間29分19秒だが、この日八位までの女性がこの記録を上回った。</p> <p>日本の佐々木七恵(スビー食品)は十九位、増田明美(川鉄千葉)は脱水症状と「前夜眠れなかった」精神的不安のせいか無念の棄権となった。</p> <p>陸上女子百メートルではエベリン・アシュフォード(米)が、男子四百メートル障害ではエド</p>	No.	発行日	朝夕刊	面名	ページ	文字数	00298	1984年08月06日	夕刊	スポーツ	005	00664文字
No.	発行日	朝夕刊	面名	ページ	文字数								
00298	1984年08月06日	夕刊	スポーツ	005	00664文字								
<p align="center">オンラインデータベース③ 【紙面全体画像】</p>	<p align="center">※無料ウェブサイト</p>												
<p>さらに古い記事は、紙面全体から自分でどこに記事が載っているかを探します。</p>	<p>ウェブサイトにより表示形式は様々ですが、オンラインデータベースには収録されていないものもあります。また、時間の経過により閲覧できなくなるページもあります。</p>												
													

① ③：開蔵Ⅱビジュアル for Library (①2013年9月8日 ②1984年8月6日 ③1935年2月6日)

右下：朝日新聞デジタル <http://www.asahi.com/sports/update/0907/TKY201309070323.html?ref=reca> (参照 2013-10-10)

オンラインデータベースには、ウェブサイトの記事ではなく、実際に発行された本紙の記事が収録されていますが、本紙の地域差を考慮する必要があります。

大量に発行され全国各地に配達される全国紙は、途中で記事の差し替えが起こることがあります。また、夕刊の有無にも地域差があり、そのため、同一出版日でも地域により記事内容が異なる場合があります。検索ツールの収録記事は、原則として最終版を基にしていて、図書館などで実際に目にした本紙の記事とは異なる記事が収録されている可能性がありますので、注意してください（版の表示は新聞本紙上部に記載されています）。

例：2011年3月15日 朝日新聞朝刊 1ページ		
本紙（宮城・第12版）	本紙（東京・第14版）※最終版	オンラインデータベース（東京・第14版）
 <p>写真あり</p> <p>写真「爆発し、煙を上げる福島第一原発3号機」(福島中央テレビ撮影)</p>	 <p>写真あり</p> <p>写真「水素爆発が起きた福島第一原発 3号機」(NHKニュースより)</p>	 <p>本紙に掲載されている NHK ニュースの写真がオンラインデータベースの記事には掲載されていない。</p>

海外の通信社から入るニュースや寄稿文など、データベース化への利用許諾が得られていないため、オンラインでは確認できない本文・画像もあります。その場合は、面名を確認し、図書館で本紙や縮刷版を利用しましょう。

オンラインデータベースの特徴

- ◇年代によって記事の表示方法が異なる（本文のみの場合もあり）
- ◇データベースに収録されているのは最終版の記事
- ◇データベース化されていない記事もある
 - ・当日分の記事（※データベースによっては、当日分も掲載されている場合がある）
 - ・データベース化の許可がとれていない記事
 - ・広告やテレビ・ラジオ面
 - ・1980年代半ば（昭和50～60年）以前の地方本社・支社・地域版

新聞は、日々刻々と変化する世界の情勢を短期間で編集し、記事にしているため、使用される語句や用語もその時々で異なる場合があります。最適な検索結果が得られるよう検索語を工夫してみましょう。

記事検索のポイント

- ◇紙面の都合上、略語が使用されていることが多い
- ◇新聞社によって専門用語や時事用語の表記が異なる場合がある
- ◇続報や誤報を考慮して検索をする

2.3 東北大学で利用できる新聞記事データベース

東北大学で利用できる新聞のオンラインデータベースは、無料のものも含めて「データベース・ツールインデックス」にまとめられていますので、こちらから利用してください。

2.4 新聞記事を探してみよう

例：聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞記事データベース）

1879年（明治12年）の創刊号から今日までの130年を超える紙面から約1300万件の記事が検索できる日本国内最大級の新聞記事データベースです。1945年～1984年の記事は紙面イメージで、2005年11月以降の記事は切り抜きイメージでの閲覧が可能です。朝日新聞社発行の『週刊朝日』や『AERA』の記事も収録されており、『知恵蔵』や『人物データベース』も検索可能です。

検索したい期間を指定
年代によって使うページが異なるので注意。1984年以前の記事を探す場合は「朝日新聞縮刷版」のタブをクリックする。

No.	発行日	朝夕刊	面名	ページ	文字数	写真図表	関連素材
00067	2008年02月22日	朝刊	3社会	037	00195文字		
00068	2008年01月22日	朝刊	スポーツ2	016	00158文字		
00069	2007年10月31日	朝刊	スポーツ1	017	00224文字		
00070	2007年04月26日	朝刊	2社会	038	00285文字		
00071	2005年07月04日	朝刊	東特集D	027	05983文字	あり	

切り抜き
イメージ

聞蔵Ⅱビジュアル
for Library
2007年4月26日

**「ユース五輪」
2010年創設**

【北京—阿久津博史】国際オリンピック委員会（IOC）は25日、当地で選手会を開き、14～18歳の選手を対象とした「ユース五輪」を推進することを承認した。7月の総会で決定する。

IOC 14～18歳対象

発案したロゲ会長は「エリート選手の競争の場というより、スポーツを通じた教育に重点を置きたい。友情や健全な肉體、社会とのかわりなりの価値を学んでほしい」と目的を語った。

夏季は10年、冬季は12年に第1回大会を開き、ともに五輪同様4年ごとに開催する。開催都市は、今後決める。

期間は1週間から10日程度。実施種目は五輪種目を基本とし夏季は3千人、冬季は1千人を超えない規模になるという。

データベースで本文や写真が掲載されていない場合には、図書館で本紙や縮刷版に記載されている記事を利用します。

本紙の購入状況はOPAC上部の「購読新聞リスト」で確認できます。保存期間は各館により異なり、専門紙などは別途購入している場合もありますので、各館のカウンターにお問い合わせください。縮刷版、マイクロフィルム、CD、DVDの所蔵はOPACで新聞名から調べることができます。

■購入新聞リストへのアクセス

購読新聞リスト

タイトル	データ ベース	本館	医学 分館	北青葉 山分館	工学 分館	農学 分館	金研 図書室
朝日新聞	聞蔵Ⅱ* asahi.com	○	○	○	○	○	○
科学新聞				○			○
河北新報	KD*	○	○	○	○	○	○
産経新聞		○					
スポーツニッポン					○		
スポーツ報知		○					
日刊スポーツ		○		○		○	
日刊工業新聞		○			○		○
日経産業新聞	日経テレコ	○			○		○

新聞の特定と蔵書検索には、「国立国会図書館サーチ」(<http://iss.ndl.go.jp/>)が有用です。様々な新聞情報を収録しているため、どんな新聞が存在するのかを探することができます。また、国内の大学図書館、公共図書館などの所蔵を機関ごとに一覧で確認することも可能です。

国立国会図書館サーチ

図書館からのお知らせ

- 【解消のお知らせ】一部ブラウザによるNDLサーチへのアクセス不具合について (2012-03-15 16:05)
- 障害追加のお知らせ(3月14日 14時00分現在) (2012-03-14 13:58)
- 国立国会図書館サーチ障害発生のお知らせ(3月14日 6時00分現在) (2012-03-14 09:00)
- システムメンテナンスのお知らせ(2012/3/14 20:00~23:00) (2012-03-08 10:12)

3. 統計資料

3.1 統計資料とは

統計資料とは、ある現象を数量的に把握するための統計データを収録した資料です。統計資料は、官公庁、民間企業など多くの機関からさまざまな種類のものが発行されており、最近ではその多くがウェブで公開されています。ここでは日本国内の統計の探し方を中心に学習します。

3.2 統計活用のメリット

統計を活用すると、数値によって客観的に物事を表現する（伝える）ことができるので、レポートの説得力を増すのに役立ちます。また、統計を表にまとめたりグラフに加工することで、物事の全体像や特徴を読み取ることもできるでしょう。そこで疑問に思ったことがレポートの問題提起や着眼点のヒントに繋がることもあります。

3.3 統計の特徴と注意点

一言に「統計」と言っても、統計の調査背景、母体、対象、地域、時期などによって様々なものがあります。自分の研究内容に適したものなのか、また信頼できる情報かどうか、常に意識して探すように心がけましょう。

調査主体・発行元	公的統計 : 国の行政機関・地方公共団体が作成する統計。ウェブで公開されているものも多い。政府の公式調査報告である「白書」にも多くの統計が掲載されている。 民間統計 : 各種業界団体や民間調査会社が作成する統計。
加工のレベル	1次統計 : データの調査機関が作成した、オリジナルの統計。 2次統計 : 1次統計を加工・編集したもの。
調査期間	短期統計 : 月単位など。短い期間で発表される。 中期統計 : 数年単位など。 長期統計 (累積統計) : 経年変化を調べるのに適している。
調査時期	現在の統計 : ウェブ等で公開されていることが多い。 過去の統計 : 冊子体での検索が必要な場合が多い。
メディア (媒体)	電子媒体 : ウェブ、データベース、CD-ROM 等。 紙媒体 : 印刷物。
エリア	国内 : 政府 (全国)、地方公共団体 (地域) 等。 海外 : 各国の政府統計局、国連、OECD、EU、ASEAN 等。



「何を調べたいか」によって
最適な「探し方」「ツール」が変わってきます！

・「統計はウソをつく」？

統計は、客観的なデータとして幅広く利用されていますが、作成者が恣意的にデータを誇張して表現していたり、悪気が無くても単純な間違いを含んでいる場合や、読み手が誤解しがちな表現がされているものもあります。

【例： 高齢者を取り巻く事故・事件の増加について－新聞の統計情報から－】

※（架空のデータ）

ケース① 見出し：「高齢者 交通死増加：前年同期比 2 倍」

よく読むと・・・ 昨年：5名、今年：10名（右図）

→ 確かに倍増しているが、「急増」とは言えない。偶然とも考えられる。
事故の原因・状況や 2011 年以前の件数等も確認が必要。



ケース② 見出し：「高齢者の万引き、20 年連続で最多更新」

→ 高齢者の数も年々増加し続けている。「犯罪に手を染める高齢者が増えている」と論じるには、高齢者人口あたりの事件数や、強盗・放火など他の犯罪の発生状況も調べる必要がある。

また、政府と民間とで行われた同種の調査では、結果が異なる場合があります。

統計に限らず、資料を利用するときは、その数値や記述だけを見るのではなく、1次統計の目的や対象、調査の方法、参考になっている資料などにも極力目を通し、恣意的な、または紛らわしい表現に惑わされないようにしましょう。同種の資料をいくつか比較検討することによって、研究対象への理解が深まることもあります。

・ 出典を明記する

入手した統計を引用・加工した場合（データをもとにグラフを作成したり、複数の統計情報を一つにまとめたりした場合）も、必ず出典を明記しましょう。どこから引用したのが曖昧な情報では信頼性に欠けます。読み手が情報源を確認できるようにするのがマナーです。

引用の方法は
第7章で学習します。



4. 統計資料の探し方

4.1 統計を探す手順

統計を探す流れとしては、まず索引やガイドブック、2次統計書で必要なオリジナルの統計（1次統計）を特定した上で、入手する方法を確認するのが効率的です。

官公庁の統計資料や白書類、どこにどのような統計があるか目星がある程度ついている場合は、ダイレクトにその作成元、研究機関等のウェブサイト（データベース）を検索してもよいでしょう。

①どのような統計があるか、どの資料に載っているかを調べる

◆索引・ガイドブック

どのような統計調査が実施されているのか、その調査結果が何に掲載されているのかがわかります。

【例】…「e-Stat」『統計情報インデックス』『白書の白書』など

◆2次統計（2次資料）

1次統計（オリジナルの統計）を加工・編集したものを2次統計と呼びます。1次統計を参照しなくても大まかな情報が入手できるという便利さがある一方、どのような加工・編集がなされているかをきちんと知った上で利用する必要があります。

また、信頼性の高いデータであれば、出典である1次統計の資料名が載っています。より詳しい情報が記載されていることもありますので、レポートや論文の参考文献として用いる場合は、1次統計を確認するようにしましょう。

【例】…『日本統計年鑑』『日本の統計』『世界の統計』など

②入手方法を確認する

おおまかに、どのようなものがあるかが掴めたら、1次資料の入手方法を考えます。

◆ウェブで入手可能か

国や自治体で行う統計調査は、ウェブ上で公開されていることが多いです。（最新の統計のみをウェブで公開している場合もあります。）自分の関心のあるテーマについて管轄している省庁・研究している機関が統計資料を公開していないか調べてみるとよいでしょう。

【例】・「e-Stat」（<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>）
政府が行っている統計の情報が集約されています。（4.2参照）

・「統計局ホームページ」（<http://www.stat.go.jp/>）
『国勢調査』や、総合的な内容の『日本統計年鑑』『日本の統計』『世界の統計』など、代表的な統計データそのものを入手できるものもあります。

◆図書館に所蔵はあるか

ウェブで入手できなくても、図書館に印刷物（冊子体）として所蔵している場合も多くあります。探すときは、OPACを使います。雑誌論文を探すときと同様に、掲載している図書や雑誌のタイトルで検索します。

※タイトルに「統計」「白書」「要覧」「データ」「資料」「月報」「年報」「報告」などの言葉が含まれることも多いので、うまく検索できないときにはこれらのワードとテーマ（分野・業界）に関するキーワードをかけあわせて検索してみましょう。

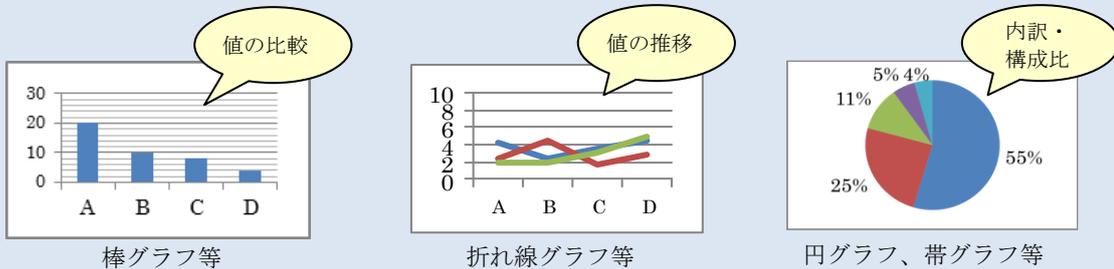
また、東北大学附属図書館本館の場合、「経済統計コーナー」や「レファレンスコーナー」に統計資料や索引・ガイドブック等が置かれているので、このエリアをブラウジングするのも効果的です。

をまとめてみましょう。

「e-Stat」などでみつけた統計表は、必ずしも、自分がレポートで使いたい形態と一致しているとは限りません（例えば、統計表では年齢別・全世代の数値が記載されているが、レポートで使いたいのは10代の数値のみ、ということもあるでしょう。また、数年分の統計表を1つにまとめて推移を表現したい、など）。必要に応じて、該当する項目について図表を作成したり、数種類の統計を組み合わせてみるなど、重要な情報を抜粋し編集することで、読み手にわかりやすく表現してみましょう。

グラフ化は情報（数値）を視覚的に表現することによって、伝えたい内容をアピールするのに適した方法です。同時に、自分がデータについて理解を深めるのにも役立ちます。強調して伝えたいポイントに合わせて、使用するグラフの種類を選びましょう。

【グラフの選び方・使い分けの例】



【統計情報利用の例】

スポーツに取り組む人の数は年々減少している。特に団体で行うスポーツ、例えば野球やバレーボールにおける減少が著しい。



統計資料から得た情報をプラスする

総務省の調査⁽¹⁾によると、1年間のうち最低1回、何らかのスポーツを行ったと回答した人の割合（スポーツ行動者率）は、過去25年間で1991年の78.0%をピークに、2011年まで低下し続けている

（図1）^競 図表に番号をつけ、本文と図表の番号を対応させる。
スポーツは野球
ボールが12.4%から3.5%と低下が著しい。

（図2）

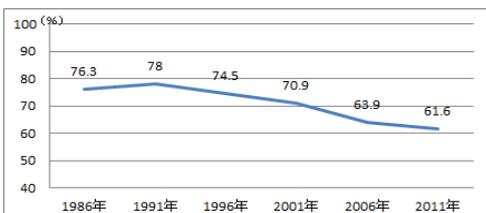


図1 スポーツの男女行動者率の推移（1986～2011年）

脚注 15歳未満を除く
「社会生活基本調査」（総務省統計局）をもとに作成

図表を使うときに気をつけること

- 図表に番号とタイトルをつける。表の場合は表の上部、図の場合は図の下部に示す。
- タイトルで、「何」についての「どのような」ことを示す図表かを端的に表す。
- 元データの引用を明示する（参考文献リストに詳細を記載）。
- 図表に脚注をつける（脚注にも出典を記載する。自分で加工・編集した場合も必要）。
- （グラフの場合）単位、基数（100%にあたる実数）を記載する。

参考文献

- 1) 高崎みどり. 大学生のための「論文」執筆の手引き. 秀和システム, 2010, 287p.
- 2) 国立国会図書館. "国内の統計を調べるには". リサーチ・ナビ. http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-102849.php, (参照 2014-2-27)

第4章 実習問題

新聞記事

問題1. フードロス（まだ食べられる食品が大量に捨てられている社会問題）に関する最近の動向・NPOによる支援の事例を集めたい。「聞蔵II」を使って、6ヶ月以内に掲載された記事を探してみましょう。また、掲載された新聞の情報も書き出してください。

使ったキーワード	
記事タイトル（見出し）	
新聞名	
発行日、朝夕刊、ページ等	

統計

問題2. 問題1のテーマについて、関連する統計資料を探したい。「政府統計の総合窓口」（e-Stat）を使って資料を探してみましょう。

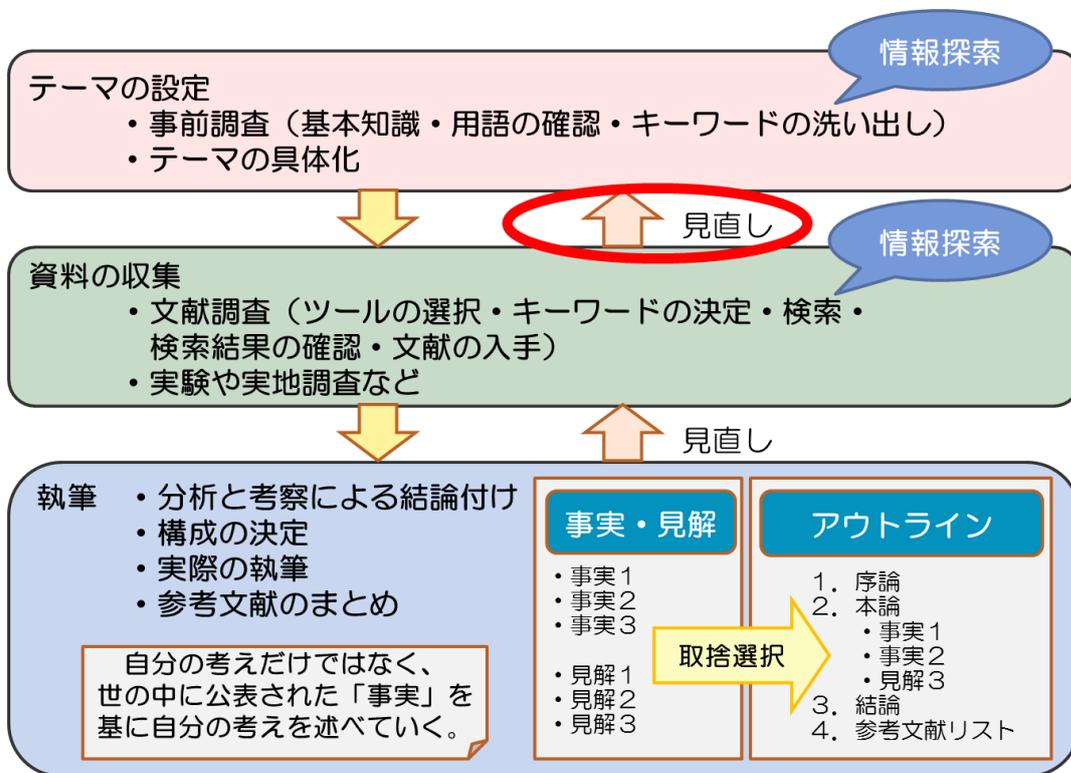
統計名	
統計を見て、新たに分かったことを自由にメモしましょう。	

第5章 自分なりの着眼点を見つけよう ～レポートの土台作り～

■ 本章の目的

みなさんはこれまでの章で、自分の興味のあるテーマについて、大まかに資料を集めて読んできました。次は、そこから具体的にテーマを絞り込み、レポートで扱う問題と着眼点を見つけていきます。

レポート作成の手順



(第1章 1.3 レポートの作成手順より)

1. レポートに必要な要素

1.1 レポートの土台

今回はレポートの土台となる「扱う問題」「問題意識」「着眼点」を考えます。まず、「扱う問題」「問題意識」「着眼点」とは何か、確認しましょう。

「扱う問題」

このレポートで論じる、解決すべき問題のこと。

例) なぜ、ベガルタ仙台は強いのか。

「問題意識」

なぜその問題に取り組む必要があるのか、その問題を解決するとどのようなメリットがあるのかということ。扱う問題と問題意識が揃って問題提起として成り立ちます。

例) ベガルタの強さの理由を解明できれば、継続的強化に役立つ。

「着眼点」

どういった側面に注目して、問題の解決に取り組むのかということ。問題解決のための書き手なりの着想や手段です。

例) ベガルタは栄養満点の牛タンをよく食べている。

2. 扱う問題と着眼点

2.1 「テーマ」から「扱う問題」へ

これまでの章では、大まかなテーマに沿って資料を集め、それを読んで興味・関心を持ったことをチェックしていきました。これはテーマを絞り込んでいき、そのレポートで扱う問題を見つけるための作業です。今の時点で扱う問題の候補が見つかった人もいれば、まだまだ見つからないという人もいます。扱う問題を見つけるのに苦労している人は以下のポイントを参考にしてみてください。

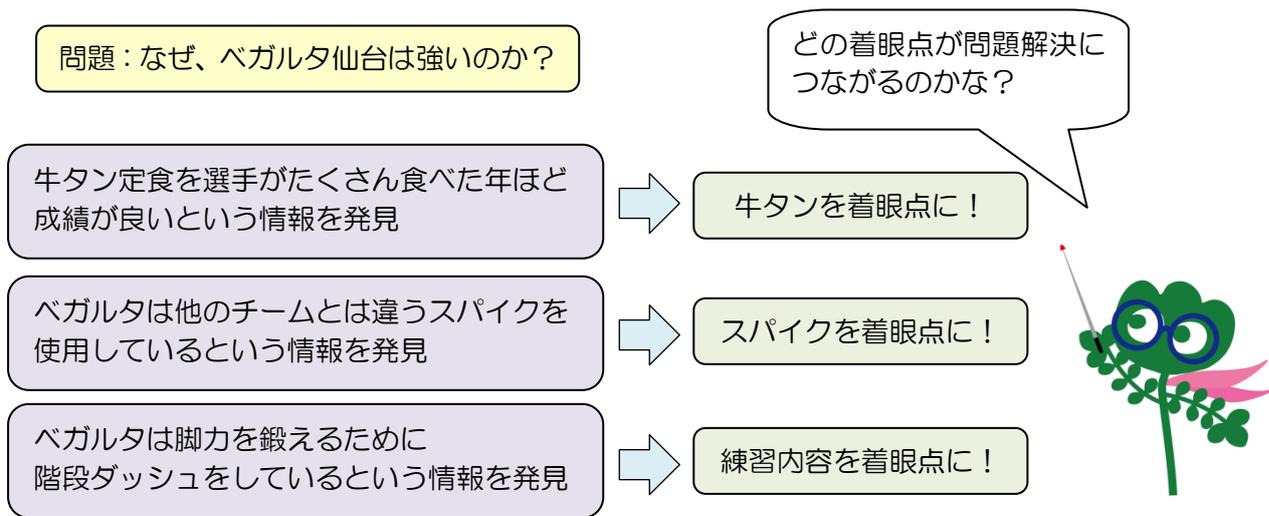
1. 最初はテーマを大きく全般的につかめる資料を読んで、それから具体的な問題について考えていくのがよいでしょう。最初から小さいテーマで検索すると文献が見つかりにくいので注意してください。
2. 研究の素材にするときには、楽しむための読書とは読み方を変えて、もっともっと小さなところを疑問に思うことがコツです。なぜ？と思う部分が増えれば、それだけ問題の候補が増えることになります。
3. 何か思いついたら、それを紙やパソコンなどに書き留めておきましょう。書き留めたことを後から眺めることで頭が整理できますし、思わぬ発見が見つかる可能性があります。

2.2 着眼点はオリジナリティ

扱う問題が見つかったら、まずは問題に対する回答の仮説を立てるための調査を行いましょう。その問題についての詳しい資料を読み、知り得た情報を整理分析していきます。そして、その中から解決の糸口になりそうな着眼点を見つけるのです。

着眼点はみなさんそれぞれのオリジナリティであり、レポートの売りとなるものです。同じ扱う問題でも、着眼点が違えば内容は大きく変わっていきます。問題解決に相応しい着眼点を見つけることがレポートを作成する上でとても大切なことです。

もちろん着眼点を見つけた時点では、まだその着眼点で本当に問題を解決できるのかどうかはわかりません。この後のステップで今の着眼点ではダメだと分かったら、また別の着眼点を見つけていくことになります。

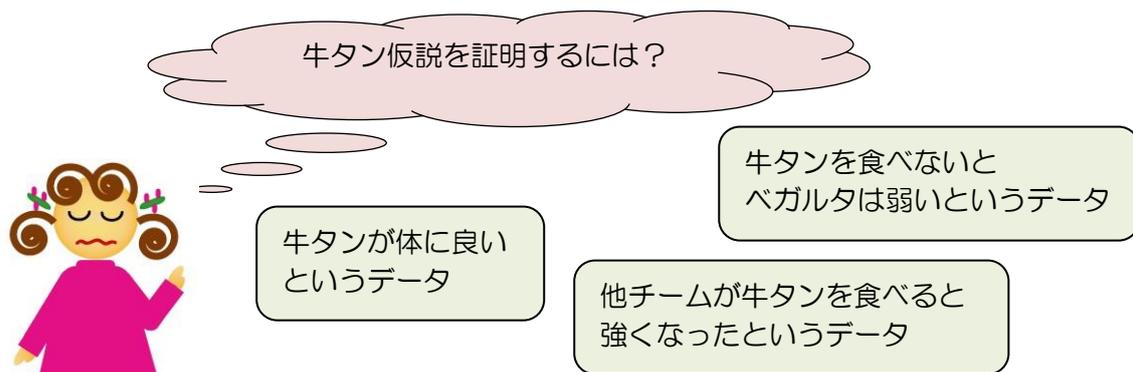


2.3 仮説を立てたら必ず検証

着眼点を見つけて回答の仮説を立てたら、次はその仮説を検証するための調査を行いましょう。物事には様々な要素が関わっているので、1つの側面から見た時は正しいと思われた仮説も、別の側面から見たら的外れなものかもしれないからです。

この段階ではただやみくもに調べるのではなく、目指す結論を支える根拠となる事実・データを得るために調べます。論理的に自分の仮説を証明するためには、どんな事実・データが必要かを意識すると、効率的に調べることができるでしょう。

必要な事実・データを得ることができれば、最終的なレポートの執筆に進むことができます。逆に自分の仮説を否定する事実・データが見つかった場合は、前のステップに戻って着眼点や扱う問題を見直さなければなりません。



2.4 扱う問題と着眼点を見つけるまで ～はぎのすけの場合～

実際に、扱う問題と着眼点を見つけるまでの流れを、図書館マスコットキャラクター「はぎのすけ」がレポートを書いた時の事例から見てみましょう（このアウトラインをもとに作成したレポートは、p.113に掲載されています）。

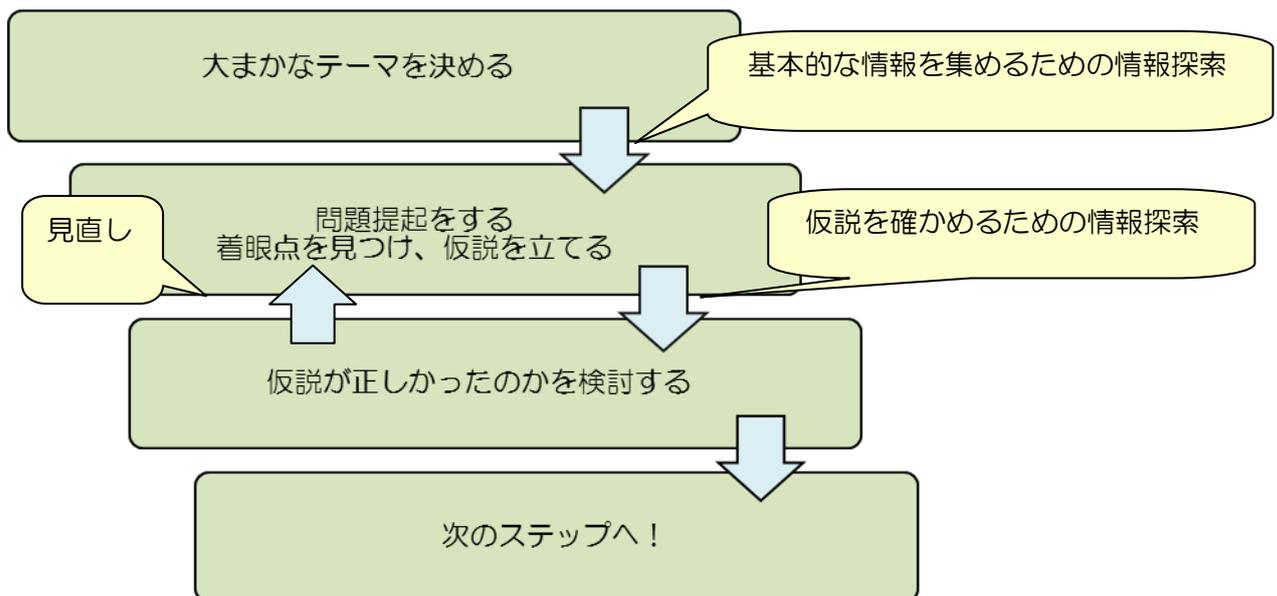
- ① スポーツと文化に関するレポートを書こうと考え、それらの要素を含みそうな相撲を大まかなテーマに設定する。
- ② 近年の相撲界の話題を探ろうと相撲に関する新聞記事を検索した結果、2011年2月

の八百長メール事件に目をつけ、なぜ八百長が存在するのだろうかと疑問に思う。

- ③ 「大相撲の八百長は許容されるべきか」を扱う問題として設定。
- ④ 調べた結果、八百長を擁護する意見では大相撲はスポーツではなく文化だという意見があることが分かる。
- ⑤ 有力な反論を見つけられないまま、とりあえず八百長は一般的に悪いこととして書いてみる。
- ⑥ 書いてみたものを先輩のはぎこさんに見せて相談したところ「根拠が弱いから、何か良い着眼点を見つけよう」というアドバイスを受ける。
- ⑦ 新田一郎氏の本で相撲は複層的なものという意見を見つける。
- ⑧ 「相撲を複層的な存在と考えれば、八百長を非難することと大相撲の文化的側面を擁護することは対立しないのではないか」という着眼点を見つける。
- ⑨ 着眼点に合わせて、扱う問題を「八百長を排すると大相撲の文化が損なわれるのか」に修正する。

2.5 これまでのまとめ

これまでの流れをまとめると、このような手順になります。



参考文献

- 1) 酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007.

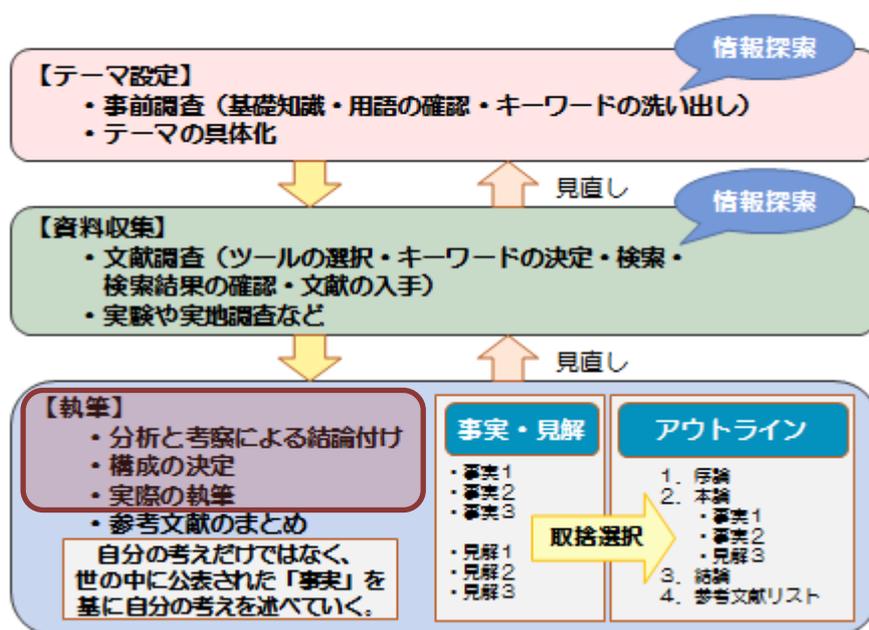
第6章 論理的なレポートを書くために

■ 本章の目的

レポートで扱う問題とそれを解決するための仮説が見えてきたら、今度は自分の意見を証明するための資料を集め、レポートのアウトラインを組み立てていくことになります。

レポートにとっては、分かりやすさや読みやすさも大切な要素です。事前にアウトラインを組み立ててから執筆に入ること、論点の整理された分かりやすいレポートになります。同時に、細かい文章表現などにも気をつけて、読みやすいレポートを目指しましょう。

レポート作成の手順



（第1章 1.3 レポートの作成手順 より）

1. アウトラインの組み立て方

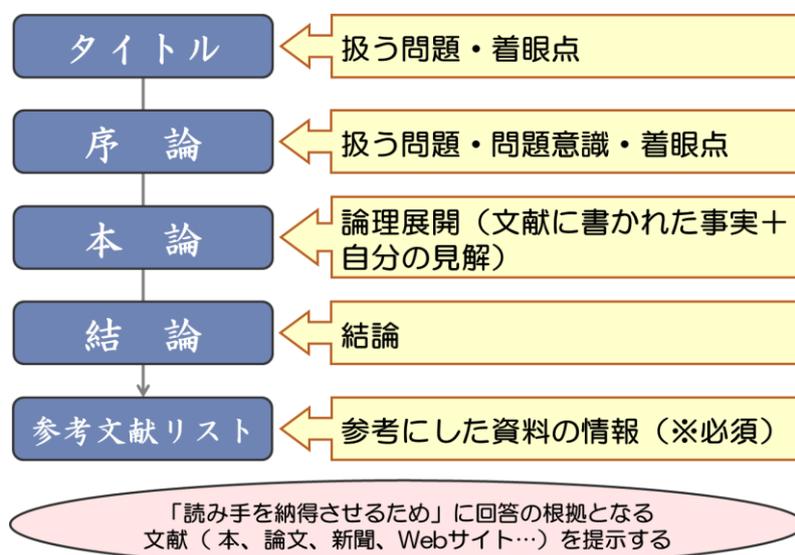
1.1 レポートの構成の再確認

前の章では、レポートで扱う問題をはっきりさせ、解決するための着眼点を探しました。そして、着眼点から導き出された仮説は、情報を集めてきちんと検証する必要があることも学びました。

レポートで扱う問題、解決のための着眼点、結論を証明するための事実・データ、これらが揃うと、いよいよ実際の執筆に進むことになります。しかし、ここでただ勢いにまかせて書いてしまうと、読み手にとって分かりにくいレポートになってしまう恐れがあります。まずはアウトラインを組み立てて、それを設計図として文章を執筆していきましょう。

第1章でも出て来ましたが、レポートの構成は次ページの図の通りです。アウトラインを組み立てる時は、それぞれの構成要素をきちんと確認してください。この章の実習問題にはアウトラインを組み立てるための表があるので、それも参考にしてください。

なお、アウトラインを組み立てるときもレポートを執筆するときも、タイトルから順に進めていく必要はありません。まず本論と結論をしっかりさせてから、序論で書くべきことやタイトルを考えた方が上手くいく場合も多いです。自分の書きやすいところから進めていくのが良いでしょう。



(第1章 1.2 レポートの構成 より)

1.2 扱う問題と結論が対応しているか

アウトラインを組み立てるときのポイントの1つは、扱う問題と結論が対応しているか確認することです。何かしらの問題に対して回答を示すのがレポートですから、結論はそのレポートで扱う問題に対する回答になっていなければなりません。

ところが、過去に提出されたレポートでは、意外とそうになっていないことが多いです。例えば、序論では扱う問題として「〇〇の原因を探る」と言っていたのに、「改善のためにこういう努力が必要だ」という結論で終わってしまうようなケースです。これでは結局何が原因なのか分からず、読み手は消化不良になってしまいます。「〇〇の原因を探る」と問題提起したのであれば、「その原因は△△である」という結論で終わらなくてははいけません。

このようになってしまう原因としては、以下のものが考えられます。

- アウトラインを用意せず、執筆しながら結論を考えてしまった。
- 明確な結論を見つけることができなかった。
- 扱う問題が「問い」の形になっていなかった。
- 扱う問題のさらに先まで、内容を欲張ってしまった。

これらへの対策として、アウトラインを組み立てる段階で、扱う問題と結論が対応しているか必ず確認するようにしましょう。きちんと対応していない場合は、正しい結論を導き出せていないと考えられますので、もう一度仮説を見直す必要があります。



1.3 結論までの論理の流れを整理する

次のポイントは本論です。本論はレポートの中心部分であり、文章の割合も一番多くなりますので、構成がとても重要になります。

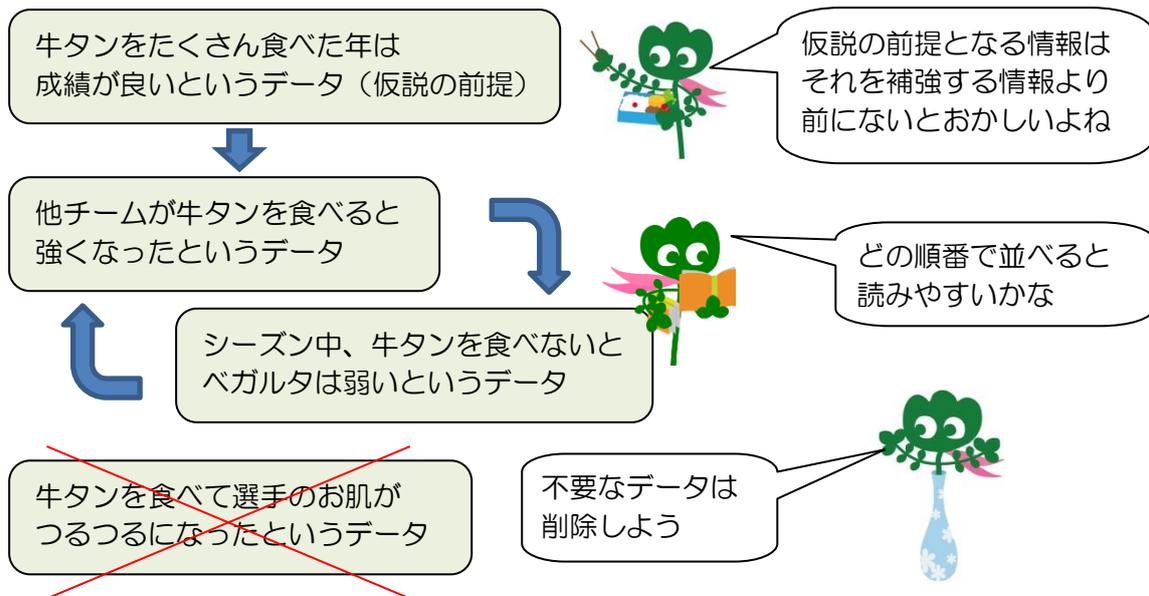
序論が「問い」で結論が「答え」と考えると、本論は「証明」に当たります。結論を論理的に証明するのが本論の役割です。レポートの説得力を高めるために、まずは結論までの論理の流れを整理してみましょう。

この作業は頭の中だけで行わず、実際に何かに書いたりして進めるのが大切です。これまでに集めた事実・データとそこから得られる情報（考察結果）を全て書き出し、どのように並べるのが良いか考えてみましょう。主な方法としては、以下のものがあります。

1. 集めた事実・データ・考察結果をリストアップしたり表形式にまとめたりして、賛成・反対などのグループに分ける。
2. 思考マップと呼ばれる形式で事実・データ・考察結果を平面上に並べ、それぞれの関係性を線で結んでみることで視覚的に捉える。
3. 事実・データ・考察結果をそれぞれ 1 枚ずつ紙に書き、それらの順番をいろいろ並べ替えながら説明する順番を考える。

このように視覚的に捉えるようにすると、明らかに論理の流れがおかしいところがあれば十分気づくことができるはずです。このテキストでは論理学の領域まで深く立ち入ることはできませんが、できる限り矛盾のない主張を組み立ててください。

また、この作業過程は、不要な事実・データを削る場でもあります。余計な情報があると、レポートで言いたいことが読み手に伝わりにくくなってしまいます。苦労して集めた事実・データであっても、結論を導くのに不要と思われるものは、思い切って削ってしましましょう。逆に、足りない情報が出てきた場合は、追加で探していくことになります。



1.4 アウトラインから実際の文章へ

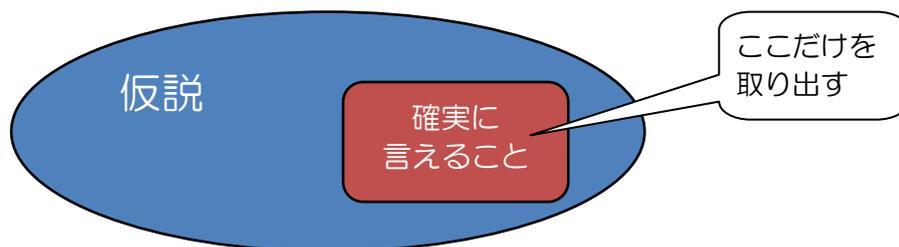
アウトラインが完成したら、それを実際の文章にしていく作業に入ります。参考文献の「酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007.」などを参考に進めていってください。

ここでも、余計な情報を増やしてしまわないように気をつけることが大切です。アウトラインの中で必要な情報だけに絞っても、それを文章化する際に膨らまし過ぎてしまっては意味がありません。必要なことを簡潔に伝えるよう心がけましょう。

同じような例として、結論でいろいろ書き過ぎてしまうというケースもあります。結論は扱う問題に対する回答を述べる部分ですから、そこに至るまでの論理展開は、全て本論の中で行うようにしてください。

それから、もう 1 つ大切なことは、頭を冷やして書くということです。レポートを書いていると、書いているうちに次々と新しいアイデアが生まれて、冷静な判断ができなくなってしまうことがあります。これを防ぐために、一度書いた原稿は時間をおいて見直すようにしてください。冷静になって見直せば、主張が「言い過ぎ」になっていた部分に気づけるはずです。

レポートや論文を書くというのは、自分の主張を小さくしていく作業です。仮説を考える段階で大きく広げていた主張の中から、事実・データに照らし合わせて確実に言えそうなことだけを取り出すのです。このことを忘れずに取り組んでいきましょう。



2. わかりやすい文章表現とは

2.1 学生のレポートでよくある問題点

ここからはレポートの内容ではなく、文章表現の方に注目していきます。基本的なことは前掲の参考文献に詳しく書かれていますので、ここでは学生のみなさんがやってしまいがちな問題点を中心に確認します。

- 適切な段落分けができていない。
- 章を分けずに何ページも続く。

こういった文章は、読み手が頭を整理しながら読み進めることができません。アウトラインの段階で用意した大きな話題を、それぞれ章として独立させること。そして、1 つの段落には 1 つの話題というルールを守ることを心がけましょう。

文章をまとめることについては、**2.2** で詳しく解説します。

- 句読点が適切に入っていない。

これも同じようなケースです。文は長々と続けずに、1 つの内容を伝えたら「。」で区切るようにしましょう。また、「、」が入らない文章は、読みにくいだけでなく修飾語の関係もわかりにくくなるので、適度に「、」を入れるようにしましょう。

- 漢字とかなのバランスが悪い。

漢字ばかりの文章も、ひらがなばかりの文章も、どちらも読み手にとっては読みにくいものです。漢字で書ける文字は漢字を基本にしつつ、適度にひらがなが混ざるようにすると良いでしょう。

- 無駄な情報を入れてしまう。
- 回りくどい言い方を多用する。

文字数を増やすためか、こういったケースもよく見られます。しかし、なるべく無駄な情報を削った文章が、読み手にとってわかりやすい文章です。無理に文章を引き延ばすことはやめましょう。なお、「自分の場合は～」といった経験談も、読み手にとっては不必要な情報となってしまうので、気をつけてください。

ただの経験談と、
きちんとした調査は別物だよ



- 前後の文脈が繋がらない場合がある
- 急な話題転換で、それまでの話題と別のものが出てくる

急に前の文と関係のない話題が出てくると、読み手が上手く理解できなくなってしまうます。自然に繋がった文章にするには、前の文の要素を次の文の話題にしていくのが基本です。段落の冒頭のように前の文を受けない場合でも、必ず段落中のどれかの文を受けた内容になるよう注意しましょう。

文章の接続については、**2.3**で詳しく説明します。

2.2 文章のまとまりの構成を意識する

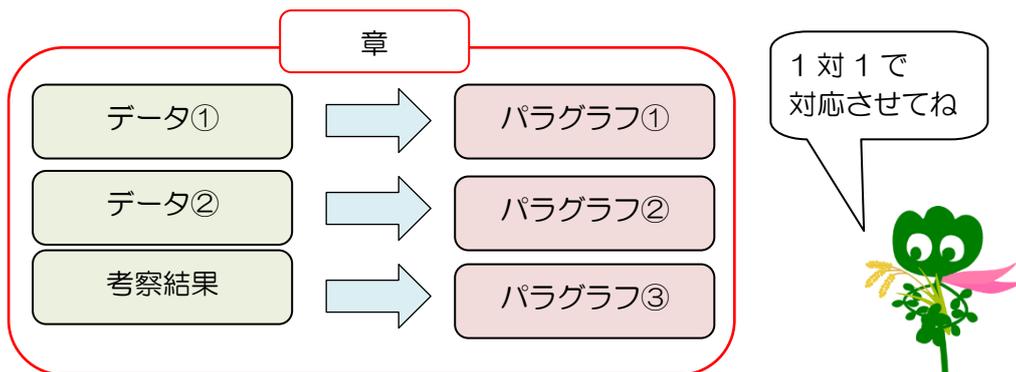
文章をわかりやすくするには、文章のまとまり——つまり段落と、その構成を意識することが効果的です。これは、一般的にはパラグラフ・ライティングと呼ばれる書き方になります。厳密に言うと段落とパラグラフは同じではありませんが、段落に一定のルールを付け加えたものがパラグラフだと考えると良いでしょう。

パラグラフに必要なルールは次の2点です。

- ① パラグラフは、1つの話題（トピック）を説明した文の集まりである。
- ② パラグラフは、原則として、1つの要約文と複数の補足情報の文で構成する。

まず①ですが、これは「1つの段落では1つの話題だけを扱う」ということです。つまり、段落をパラグラフにするためには、それぞれの事実・データ・考察結果などを、1つずつの段落に分けることが必要なのです。アウトラインを組み立てる際にこれらをきちんと分けておけば、それを1つずつ段落にするだけなので簡単に実践できるでしょう。

これはそのまま、パラグラフ・ライティングのメリットにもなります。話題が段落ごとに分かれてパラグラフになっていれば、章の内容を論理的に構築するのが簡単になり、並べ替えも容易になります。また、読み手にとっても、話題がどのような順番で並んでいるのかを見ただけで理解できるので、読みやすくなります。さらに、それぞれのパラグラフを見れば、長い話題と短い話題も一目瞭然です。それを参考に、説明の足りない話題を補足したり、不要な情報を削ったりといった調整も可能となるのです。



次に②ですが、これは「何の話をするのかを前もって知らせる」ということです。それぞれのパラグラフの冒頭には、そのパラグラフを要約した文を置きましょう。パラグラフが要約文から始まると、そのパラグラフで扱う話題がはっきりするので、内容が理解しやすくなります。この要約文のことは、トピック・センテンスと呼ばれます。

トピック・センテンスがあると、そのパラグラフがわかりやすくなるだけでなく、読み手が重要でないと感じたパラグラフは飛ばし読みすることができます。これにより、読み手はよりスムーズに文章を読むことができます。

ただし、トピック・センテンスは、その文だけで内容がわかるように具体的に書く必要があります。下記の例文を比べてみてください。

悪い例

次に、バロック時代の音楽についてみていきたいと思う。

良い例

次に、バロック時代の音楽だが、その特徴はリトルネッロ形式にある。

悪い例では、次に何の話をするのかある程度はわかりますが、そこでどのようなことを言いたいのかまではわかりません。良い例のように具体的な内容まで踏み込まないと、トピック・センテンスとして十分な効果が発揮できないので注意しましょう。

トピック・センテンスの後には、補足情報の文がいくつか続きます。補足情報は、トピック・センテンスで示した話題について、具体例を挙げたり根拠を示したりするものです。話題に説得力を持たせるために必要ですので、疎かにしないよう気をつけてください。

パラグラフ①

トピック・センテンス(要約文)。補足情報①。補足情報②。補足情報③。

パラグラフ②

トピック・センテンス(要約文)。補足情報①。補足情報②。

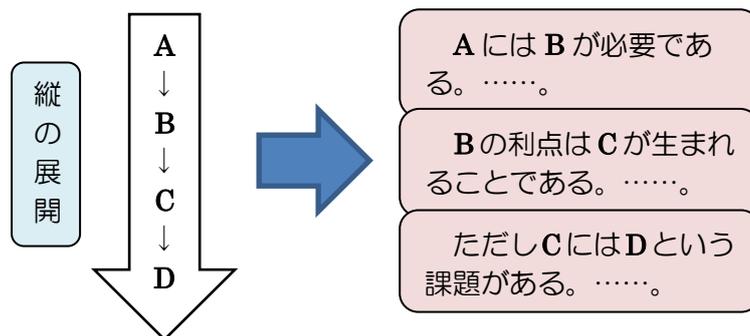
パラグラフのルールを覚えたら、今度はそれをより大きな文章のまとまりに適用しましょう。パラグラフが複数集まったものが章であり、章が複数集まったものが最終的なレポートになります。そこで、パラグラフの冒頭にトピック・センテンスを置いたように、章の冒頭のパラグラフには、章全体の内容を示すパラグラフを置くのです。そして、レポート全体でも同様に、冒頭に序論を置いてレポート全体の内容を示します。

ただし、パラグラフ・ライティングを実践するのはとても難しいことです。長く学習を続けなければ身につけることはできません。今回のテキストでは簡単な紹介しかできませんが、みなさん自身でも意識して学んでいってください。

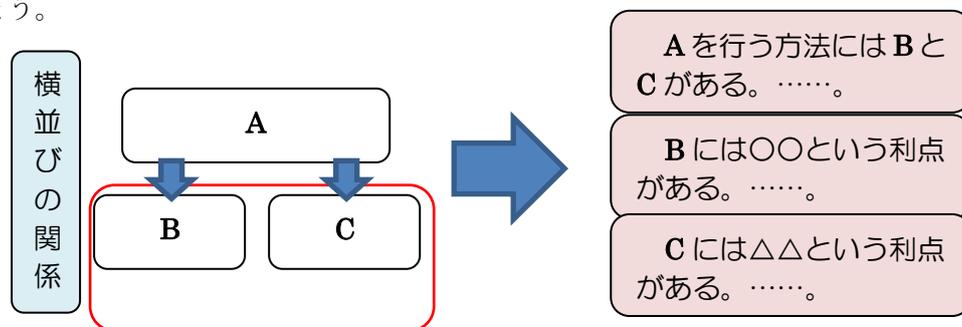
2.3 文章のまとめり同士の接続

文章のまとめり、つまりパラグラフを並べる際には、それぞれの接続関係を示すことも大切です。前のパラグラフを引き継いで縦に展開するのか、前のパラグラフと横並びの関係なのかは、読み手に誤解されないよう明確にしなければいけません。

縦に展開する場合は、前のパラグラフのトピック・センテンスに含まれているキーワードの1つを次に引き継ぐようにすると、繋がりが明確になります。また、縦に繋がるということは、パラグラフの話題が論理的な接続関係を持っている状態ですので、論理の順番で並べましょう。例えば、現状→問題→原因→対策といった順番です。



一方、横並びの関係を示す場合は、あらかじめキーワードを羅列しておき、以降のパラグラフでそのキーワードを1つずつ説明していきます。この場合は論理的な接続関係がないので、話題を自由に並べ替えることができます。そこで、基本としては重要な順に並べましょう。



また、文章を接続する場合は、接続詞の扱い方についても気を配りましょう。接続詞には読み手の解釈の方向性を誘導する効果がありますので、上手く使えば文章をよりわかりやすくできます。

例えば、下記の例文を比べてみてください。

- 国際連盟は総会での全会一致による議決を原則としていた。当時の世界情勢に的確な対応ができず、第二次世界大戦への突入を防げなかった。
- 国際連盟は総会での全会一致による議決を原則としていた。そのため、当時の世界情勢に的確な対応ができず、第二次世界大戦への突入を防げなかった。

前者は前半の文と後半の文の関係が明確ではないので、読み手によって関係があると思う人もいれば、関係がないと思う人もいるかもしれません。しかし、後者は「そのため」という接続詞を使うことによって、前半の文が原因で後半の文の事態が発生したことを、読み手に明確に伝えることができます。

接続詞には様々な種類がありますので、ここではその中から、論文やレポートでよく使われる5つの種類の接続詞を解説します。

① 逆接の接続詞

論文やレポートでは、「しかし」がよく使われます。先行研究や常識となっている見方を紹介し、それを「しかし」でいったん否定することで、「そこで」と自説を述べるきっかけとできるからです。しかし、「しかし」は便利すぎるので使いすぎてしまうこともあります。「だが」「ただし」といった他の逆接の接続詞とも使い分けましょう。

② 並列の接続詞

複数の項目を列挙するときは、「また」「そして」「さらに」といった接続詞を使います。これらは、長くて複雑な内容を整理するときに便利です。また、対立する内容を列挙するときには、「一方」や「他方」もよく使われます。

③ 例示の接続詞

抽象的な内容の文章は、「たとえば」によって具体例を挙げると、読み手にわかりやすくすることができます。

④ 言い換えの接続詞

論文やレポートで難しい専門用語などを使うときは、「つまり」や「すなわち」を使って言い換えると、理解しやすい文章になります。

⑤ まとめの接続詞

それまで述べてきた内容を踏まえて結論を述べるときは、「したがって」を使います。「このように」「こうして」「ゆえに」などもよく使われますが、「だから」「なので」のように話し言葉に近い接続詞は避けるようにしましょう。

なお、接続詞は使いすぎると文章の流れを悪くしてしまふことがあります。特に、同じ接続詞を何度も連続して使うことがないよう気をつけてください。

2.4 初歩的な文章作法のチェック

ここまで見てきた部分とは別に、学生のみなさんのレポートでは、初歩的な文章作法や体裁についてもミスが多く見られます。レポートでよくあるミスを列挙しますので、同じようなミスをしないよう気をつけてください。

- 誤字・脱字がある。(変換ミスに注意)
- 表紙をつけていない。
- 段落冒頭の字下げが多すぎる、またはバラバラ。
- 表記が統一されていない。(西暦と和暦、アラビア数字と漢数字)
- 略語を使ったり使わなかったりする。
- である調とですます調が混ざる。
- 同じ接続詞を何度も使う。
- 助詞の使い方が不適切。



字下げがおかしくなる時は
Wordなどの設定を見直そう

2.5 推敲することが大切

わかりやすい文章にするためのポイントをいくつか確認してきましたが、何よりも大切なことはきちんと推敲することです。もし気をつける部分があっていたとしても、チェックする時間が十分なければ、見落としも多くなってしまいます。提出期限ぎりぎりになって慌てないよう余裕を持って進めることが、わかりやすいレポート、そして良いレポートを書く近道なのです。

自分の書いた文章がわかりやすいかどうかを知るには、友人や先輩に読んでもらうことも有効です。レポートは他の人に読んでもらうための文章ですから、実際に読んでもらえば、どこがわかりにくいかははっきりします。逆に、自分が他の人の文章を読むことも、読み手の視点を学ぶために大切です。

「作文」という言葉にも表れているように、文は作るものです。文を構成する部品をどのように組み立てるとわかりやすくなるのか、試行錯誤を繰り返さなければなりません。みなさんもしっかりと自分の文章を見直して、より良いレポートを目指してください。

「一度書いた文章は、必ず見直すこと」
これが一番大切なことだよ



参考文献

- 1) 石黒圭. 文章は接続詞で決まる. 光文社, 2008.
- 2) 石黒圭. この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本. 日本実業出版社, 2012.
- 3) 井下千以子. 思考を鍛えるレポート・論文作成法. 慶應義塾大学出版会, 2013.
- 4) 倉島保美. 論理が伝わる世界標準の「書く技術」. 講談社, 2012.
- 5) 酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007.
- 6) 酒井聡樹. 100 ページの文章術. 共立出版, 2011.

第6章 実習問題

アウトライン

問題 1. 下記の内容のレポートについて、本論のアウトラインを考えてみましょう。

扱う問題	: 地方鉄道の存続に必要なものは何か。
問題意識	: 廃線の危機にある地方鉄道を守ることができる。
着眼点	: 和歌山電鐵の事例を中心に考える。
結論	: 地方鉄道の努力だけでなく、自治体の理解と支援が必要である。

以下に列挙した事実・データなどを、より良い本論になるように並べてみてください。回答欄には、③→⑦→②→と矢印で繋げるように記入し、大きな話題のかたまりは線で区切ります。なお、列挙した中には不必要な事実・データもあるので、それは回答に入れないよう注意してください。

- ① 地方鉄道の乗客数は年々減少している。
- ② 平成 12 年度以降、全国で 35 路線が廃線となった。
- ③ 地方鉄道の 8 割は経常収支で赤字となっている。
- ④ 和歌山電鐵は「たま駅長」などで話題づくりをしている。
- ⑤ 和歌山電鐵には地域住民を含めた運営委員会がある。
- ⑥ 和歌山電鐵に対する県の補助は、修繕費としての 2.4 億円だけである。
- ⑦ 和歌山電鐵の「いちご電車」は、集めた寄付金で製作された。
- ⑧ 経営再建の成功例と言われる和歌山電鐵でも、近年の経常収支では赤字が増えつつある。
- ⑨ 若桜鉄道では昔ながらの施設を文化遺産としてアピールしている。
- ⑩ 上下分離方式を取り入れた若桜鉄道の経常収支は安定している。
- ⑪ えちぜん鉄道は地域とのコラボレーションを大切にしている。
- ⑫ えちぜん鉄道は、一度廃線となった路線が復活したものである。
- ⑬ えちぜん鉄道に対して、県は 10 年で 39 億円の設備投資費を補助している。
- ⑭ 乗客数や収入を維持しても、古くなった設備の更新費用が負担となる。
- ⑮ 線路等の設備を自治体が保有する上下分離方式も広まっている。

回答欄 (記入例 ① → ② → | ③ → ④ → ……)

問題 2. 下記の形式に従って、レポートの構成要素のうちタイトル・序論・本論・結論の内容をまとめて、レポートのアウトラインを作成してください。

■ タイトル： _____

■ 序論

◇ 扱う問題： _____

◇ 問題意識： _____

◇ 着眼点： _____

■ 本論（結論までの論理の流れを整理しましょう。）

◇ 1 : (タイトル・見出し)
・ (論じる内容)
・
・
◇ 2 :
・
・
・
◇ 3 :
・
・
・
◇ 4 :
・
・
・

■ 結論

文章表現

問題 3. 下記の文章を、よりわかりやすい文章に書き直してください。

たま駅長やいちご電車で知られる和歌山電鐵だがそういった話題性だけでなく地元に着したとりくみにも注目すべき点があり沿線市民サポーターもメンバーにくわえた運営委員会があるので会社側と沿線市民の意思疎通向上に寄与しており駅施設のペンキ塗りなどの活動を通してじぶんたちがこの路線を支えているというマイレール意識を持てるようになっているだけでなく社員育成にも力を入れており新会社設立時に地元和歌山の若い人を中心に社員を募集したので生き生きとして活気があって現在は委託している車両や電気設備の保守管理も将来的には自分達でやっといこうと考えているのです。

ヒント：まずは、一つの情報ごとに例文を区切ってみましょう。

回答欄

第7章 集めた素材を活用しよう

～事実や意見に対する自分の意見をまとめる～

■ 本章の目的

これまで、レポートの作成方法と様々な資料の探索方法を学んできました。この章では、様々な資料から集めた事実やデータを、レポート本文に利用する方法である「引用」を学びます。レポートを書く際のルールであり、説得力を高めることにもつながりますので、正しい引用方法を身につけましょう。引用した文献の詳細情報は、リストにまとめて記述します。リストの基本的な記述方法もマスターしてください。

レポート作成の手順

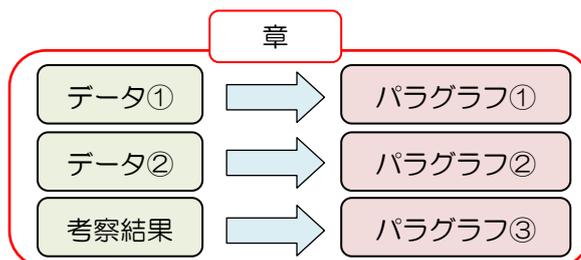


(第1章 1.3 レポートの作成手順 より)

1. 文献から集めた素材を活用しよう

1.1 レポートの論述の基本形式

第6章で学んだように、レポート中の1つの章は「事実やデータと、それに対する自分の見解や考察」で構成されています。「事実やデータ」のみを並べても、調べただけのレポートになってしまいます。反対に「自分の見解や考察」のみだと、そう述べるだけの根拠に乏しく説得力がありませんし、感想文や想いを綴っただけになってしまう危険性もあります。論理的で説得力があるレポートのために、まずは基本の形を覚えましょう。



(第6章 2.2 文章のまとまりの構成を意識する より)

1.2 素材活用のために「引用」というテクニックを覚えよう

これまで、レポートの作成方法と様々な資料の探索方法を学んできました。探した図書や雑誌論文、新聞記事、統計資料を読むことで得られた「事実やデータ」は、様々な文献から得られたいわばレポートの素材・材料です。この集めた素材を実際のレポートに記述していく際に必要になるのが、「引用」というテクニックです。自分が努力して集めた情報をきちんと読み手に評価してもらうため、正しい引用方法を身につけましょう。

2. 引用とは～信頼性と説得力を高めるために～

2.1 引用の目的と効果

「引用」とは、様々な文献から得た事実やデータ、意見などを自分の文章の中で紹介することを指します。引用は、ただやみくもに行うのではなく、自分の主張のオリジナリティをアピールする、自分の主張の根拠とする、自分の主張を補強するために行います。信頼性の高い情報を効果的に引用すれば、レポートの説得力を高める効果があるのです。

引用の目的¹⁾

- ①オリジナリティを高める
- ②自説の根拠にする
- ③自説の応援団にする
- ④自説の仮想敵にする

正しく引用することの効果

信頼性、説得力の向上

2.2 引用文献と参考文献の違い

「引用文献」や「参考文献」という言葉を聞いたことがあると思います。第3章でも参考文献リストを使った検索を学びました。分野によっては両者を区別せずに「参考文献」と呼ぶこともあります。ここで改めて整理しておきましょう。

引用文献は、レポートの本文中で言及した文献を指します。参考文献は、レポートの本文中で言及はしていないが執筆の過程全体を通じて利用した文献を指します。

この章では、引用を正しく行う技術を身につけてもらうためにも、引用文献と参考文献を区別して扱います。

引用文献と参考文献の違い

引用文献：レポートの本文中で言及した文献
参考文献：レポートの本文中で言及はしていないが、執筆の過程全体を通じて利用した文献

※両者を区別せずに「参考文献」と呼ぶこともある

3. 正しい引用とは～レポートや論文の基本ルール～

3.1 引用の条件

引用を行う時は、引用する他の資料を正確に理解し、著作権法で定められている以下の引用の条件を満たす必要があります。正しく引用を行うことは、文章を書く際の基本的なルールです。

引用した文献を示さずに、他人の文章を本文中に書くこと（いわゆるコピーレポート）は盗作・剽窃（ひょうせつ）にあたるもので、絶対に行ってははいけません。引用するときには、引用だとはっきりわかるように書き、必ず引用した文献の情報（出典）を明記してください。

引用の条件²⁾

- ①引用の必然性があること
- ②自分の文章が主で、引用が従であること
- ③自分の文章と他人の文章を括弧でくくるなどして、区別をすること
- ④引用した著作物の出典を書くこと

3.2 引用文献の示し方

引用を行った時には、引用箇所と引用文献リストに、引用した文献の情報を記述する必要があります。引用した文献の示し方には、「著者名・発行年方式」と「引用順方式」があります。

学問の分野や指導教官によってどちらの方式を採用するかが異なるので、レポートを課された時に指示があればそれに従ってください。

著者名・発行年方式

...本文での引用箇所に著者名と発行年、ページを記述し、引用文献リストには著者名・発行年順に文献を記述する

例) 酒井(2007, P. 138) は、「ある特定の文献のおかげで知り得たことなので、引用が必要である」と述べている。

<引用文献>

酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007, p. 138.

引用順方式

...本文での引用箇所（著者名か引用文の後）に引用順に番号を振り、引用文献リストにはその番号順に文献を記述する

例) 酒井¹⁾ は、「ある特定の文献のおかげで知り得たことなので、引用が必要である」と述べている。

<引用文献>

1)酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007, p. 138.

3.3 引用文の作成方法

引用の条件にもあったように、引用する時は自分の文章と他人の文章を区別して記述する必要があります。引用文の長さによって、引用文の作成方法が異なるので注意してください。引用文の作成方法も学問の分野によって異なる場合がありますが、この章では「引用順方式」での一般的な記述方法を紹介します。

また、引用するときには下記の表現がよく使われます。自分の考えなのか、他人の考えなのか区別ができるように文章表現でも工夫してみましょう。

- (例) ・ ○○ によると、 「▲▲▲▲▲▲」 である。
・ ○○ は、 「▲▲▲▲▲▲」 だと述べている。
・ ○○ は、 「▲▲▲▲▲▲」 だと指摘している。
(引用文献の著者や情報源) (引用文献の著者の考えや、事実やデータ)

(1) 引用文が短い場合

「 」を使って本文中に埋め込みます。「 」の中は引用文献の記述をそのまま書きます。

外国人力士は、単に外国人だから強いというわけではない。その点について中島隆信は次のことを指摘している。「小錦、曙、武蔵丸のハワイ出身力士に共通することは、(中略) いずれもハイスクール時代にアメリカンフットボールやバスケットボールで鍛え、しかも選抜要員に選ばれるくらいの名選手であったのだ¹⁾。このことは、…

<引用文献>

- 1)中島隆信. 大相撲の経済学. 東洋経済新報社, 2003, p. 62.
- 2)武田頼政. 大相撲改革論. 廣済堂あかつき出版事業部, 2011, p. 190.

引用文は、そのまま引用するのが大原則ですが、やむを得ず一部分を省略したい時は「(中略)」や「(・・・)」などの記号を入れます。

この問題は「唱和(ママ)50年代の終わり頃から表面化し、新聞等でも報道され始めた¹⁾」といわれ、このことは…

<引用文献>

- 1)XXXX. YYYY. AAA 出版社, 2002, p. 151.
- 2)酒井治郎. 二世紀初頭十年の大相撲：無気力相撲と不祥事・難題続出に寄せて. 2011, 文芸社, p. 245.

出典に明らかな誤字・脱字等があってもそのまま引用するのが基本です。ただし、出典のまま引用していることを示すために、横か上に小さく「(ママ)」という記号を入れます。

(2) 引用文が長い場合

引用文の前後を1行空け、さらに左側に2~4文字分空白をとり、引用文献の記述をそのまま書きます。「」は必要ありません。

引用箇所の左側を2~4文字下げ

…について、次の新聞記事を参照してみよう。

引用箇所の前後を1行空ける

国技館が蔵前から両国に移った85年当時は千代の富士の全盛期で、90年代も若乃花・貴乃花の兄弟フィーバーに沸き、90年初場所から97年夏場所初日まで、満員御礼が途切れない活況が続いた。しかし、景気悪化もあって98年ごろから残券が増え、暴力問題で朝青龍が引退に追い込まれた2010年初場所後は、一日平均で2000枚以上が売れ残った¹⁾。

引用箇所の前後を1行空ける

つまりここでは原因とされるのは、…

<引用文献>

1) 大相撲秋場所 国技館 連日の不入り 八百長、震災、不況…。読売新聞、2011-9-17, 東京夕刊, p. 13.

(3) 要約して引用する場合

引用を行う時は、必要な部分のみを正確に行うというのが大原則です。もし要約して引用する場合は、引用文献の著者の主張を歪めたり、読み手に誤解を与えたりしないようにしてください。また、どこからどこまでが引用かわかりにくくなるので注意が必要です。

大相撲における八百長について、朝日¹⁾は、相撲のスポーツとしての側面を否定し、その存在意義を揺るがす致命的な行為であると指摘している。

<引用文献>

1)朝日のぼる。YYYY. AAA 出版社, 2002, p. 151.

(4) 文献の存在を示す場合

引用文献の内容は紹介せずに、参照した文献の存在を示す場合もあります。

この問題の取り組みに関しては、中島¹⁾や武田²⁾の研究がある。…

<引用文献>

1)中島隆信. 大相撲の経済学. 東洋経済新報社, 2003, p. 62.

2)武田頼政. 大相撲改革論. 廣済堂あかつき出版事業部, 2011, p. 190.

4. 引用文献・参考文献リストの書き方

4.1 文献リスト作成のタイミング

文献リストはレポートの最後に付けますが、作成のタイミングも最後である必要はありません。テーマを絞り込んで扱う問題を見つけるとき、着眼点を探るとき、自分の仮説を証明する根拠を探るとき、それぞれの時点で参考になりそうな資料を見つけたらひとまずリスト化しておきましょう。そうすれば、何度も同じような検索をする必要がなくなります。その後、執筆の課程で結局読まなかった資料や、レポートに使わなかった資料があったらリストから取り除き体裁を整えてください。提出前には、指定された形式に合っているか、記載漏れがないかなどの最終チェックも忘れずに行いましょう。

4.2 文献リストに必要な要素と記述方法

引用文献・参考文献リストには、読み手がその文献にたどり着くのに十分な情報を書く必要があります。文献の情報がきちんと示されていれば、読み手は「これを根拠にして言っているのか」と納得することができます。また、疑問に思うことがあった場合には、その文献の内容を実際に確認することもできます。書くべき情報は文献の種類によって異なりますので、例を参考に必要な要素を漏れなく記述してください。

また、分野によって各要素の記述方法や順序にも違いがありますが、1つの文献リストの中では統一した記述にするようにしましょう。

なお、ここではSIST02と呼ばれる文献リストの書き方についての基準に準拠して、一般的な書き方を説明します。レポートや卒業論文を書く際に形式が指定されているときはその指示に従ってください。

<参考文献リストの例>

- 1) 堂本暁子, 岩槻邦男編. 温暖化に追われる生き物たち. 東京, 築地書館, 1997, 421p.
- 2) 宮本憲一. 環境問題と現代社会: 維持可能な発展と日本の経験. 環境と生態系の社会学. 岩波書店, 1996, p. 13-55.
- 3) 原沢英夫. 顕在化しつつある温暖化影響とその予測. 資源環境対策. 1998, vol. 34, no. 5, p. 448-454.
- 4) 独立行政法人国立環境研究所. 地球温暖化と健康.
<http://www.nies.go.jp/impact/index.html>, (参照 2009-12-19) .

<注意点/基本ルール>

- ・記号の半角/全角とスペースの有無について明確な決まりはありませんが、リスト中ではどちらか一方に統一してください。日本語と外国語の文献が混ざっている時は、記号とスペースを半角に揃えるのが一般的です。例では、カンマ (,) やピリオド (.) 等の記号を半角にし、 の位置に半角のスペースを入れています。
- ・2行以上になる時は、2行目以降を1~2文字分下げるのが一般的です。例では全角1文字分下げています。

<文献の種類ごとの例>

① 図書（全体を参考にした場合）

著者名. 書名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, 総ページ数, (シリーズ名).

(例) 阿部兼也. 魯迅の仙台時代. 改訂版, 仙台, 東北大学出版会, 1999, 383p.

(例) 菊池勇夫, 斎藤善之編. 交流と環境. 清文堂出版, 2012, 356p., (講座東北の歴史第4巻).

- ・著者や編者が複数いる場合、はじめの著者名の後に「ほか」を付けて記述し、その他の著者名を省略することができます。カンマ (,) で区切って全ての著者を書いてもかまいません。
- ・編者名や翻訳者、監修者には、名前の後に「編」「訳」「監修」を付けます。
- ・初版の場合、版表示は省略可能です。また、出版地も省略可能です。
- ・複数の冊子全体を参照した場合は、総ページ数の代わりに冊数を記載します。
- ・総ページ数を記載する時は、ページ数の後に「p.」を付けます。
- ・シリーズ名があるときは、シリーズ名を丸括弧 () に入れて最後に記載します。

(一部を引用・参照した場合)

著者名. “章の見出し”. 書名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, ページ数.

(例) 泉忠司. 論文&レポートの書き方. 青春出版社, 2009, p. 208.

(例) 宮本憲一. “環境問題と現代社会：維持可能な発展と日本の経験”. 環境と生態系の社会学. 岩波書店, 1996, p. 13-55.

- ・引用・参照した一部分のページ数を記載する場合は、「p.」の後にページ数を記載します。参照したページが複数ページにわたる場合は、はじめのページと終わりのページをハイフン(-)でつなぎます。
- ・1つの章や節を参照した場合は、章や節の見出しをダブルクォーテーション(“ ”)で囲んで著者名と書名の間に入れます。

① 雑誌論文

著者名. 論文タイトル. 雑誌名. 出版年, 巻数, 号数, ページ数. URL, (参照日).

(例) 田中耕一. 構造解析のための MALDI-TOFMS. 島津評論. 1997, vol. 54, no. 1, p. 9-16.

- ・巻数と号数は、まとめて 54(1) のように記述してもかまいません。その場合、巻数がなく号数のみの時は (1) のように記述します。
- ・電子ジャーナルを利用した際は、入手先の URL と参照した日付も記載してください。

③ ウェブサイト

著者名.「ウェブページの題名」. ウェブサイトの名称.URL,(参照日付).

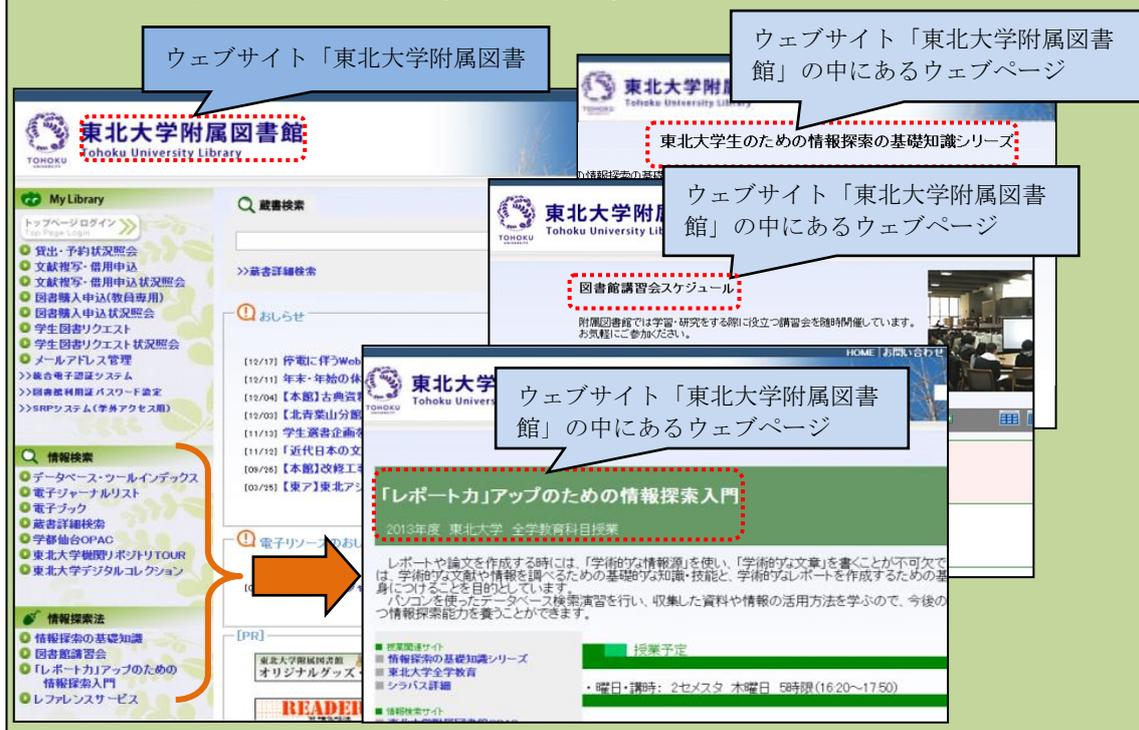
(例) 東北大学附属図書館.「東北大学生のための情報探索の基礎知識」.

<http://www.library.tohoku.ac.jp/mylibrary/tutorial/>,(参照 2013-11-4).

- ・ ウェブサイトを引用する場合は、入手先の URL や参照した日付も明記します。
- ・ ウェブサイト名が著者名と同じ場合、ウェブページ名は省略可能です。

ウェブサイトについて

- ・ ウェブサイトとウェブページの区別について、SIST02 では「ウェブページは個々のページのことを、ウェブサイトはウェブページの集合体を指す」³⁾と定義されています。
- ・ ウェブサイトの著者名は、サイト名の近くや、画面下の「Copyright© △△」という著作権表示、「このサイトについて」「著作権について」「サイトポリシー」などの項目に記載されていることが多いようです。



④ 新聞記事

著者名.「記事タイトル」.新聞名.「発行年月日」,「朝夕刊の別」,「版」,「ページ数」.

(例) 大相撲秋場所 国技館 連日の不入り 八百長、震災、不況....「読売新聞」

2011-9-17,「東京夕刊」,「p.」13.「ヨミダス歴史館」,

<https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>,(参照 2013-11-17).

- ・ 記事の執筆者名が不明な時や、朝夕刊の区別がない新聞の場合は、それらの項目は省略可能です。
- ・ 新聞記事データベースから記事を手に入れた場合は、ページ数の後にデータベース名と URL、参照日付も記入します。

⑤辞書・百科事典の項目、白書の項目・統計資料のデータ

項目の執筆者名. □ “項目名”. □ 事典名. □ 事典の編者名. □ 版表示, □ 出版者, □ 出版年, □ ページ数.

(例) “相撲”. □ 広辞苑. □ 新村出編. □ 第 6 版, □ 岩波書店, □ 2008, □ p. □ 1523.

(例) 池田雅雄, □ 向坂松彦. □ “相撲”. □ 日本大百科全書(ニッポニカ). □ 小学館. □ ジャパンナレッジ, □ <http://www.jkn21.com>, □ (参照 2013-11-17).

- ・項目の執筆者名が不明な場合は、省略可能です。また、図書と同様に出版地は省略することが多いようです。
- ・ウェブ版の辞書・百科事典の場合、サイト名と URL、参照日付を記入します。出版年やページ数などが明記されていない時は省略可能です。

(例) “第 5 章 □ 第 1 節 □ 3 出生率(合計特殊出生率)”. □ 厚生労働白書. □

厚生労働省監修. □ 平成 24 年版. □ 日経印刷, □ 2012, □ p. □ 92-93.

(例) “男女,年齢,スポーツの種類別行動者率”. □ 社会生活基本調査. □ 総務省統計局. □ 平成 23 年版, □ <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001039113&cycode=0>, □ (参照 2013-11-17).

- ・白書の項目・統計資料のデータも、辞書・百科事典の項目に準じて記述します。
- ・白書や統計資料を利用した場合は、いつの情報かということが重要なので版表示を忘れないようにしましょう。

引用文献

- 1) 石黒圭. 論文・レポートの基本：この 1 冊できちんと書ける!. 日本実業出版社, 2012, p. 197.
- 2) 藤田節子. レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方. 日外アソシエーツ, 2009, p. 129.
- 3) 科学技術振興機構. “SIST02 参照文献の書き方 2. 用語の意味”. SIST 科学技術情報流通技術基準.http://sti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/main.htm, (参照 2013-11-17) .

参考文献

- 1) 藤田節子. レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方. 日外アソシエーツ, 2009, 144p.
- 2) 科学技術振興機構. “SIST02 参照文献の書き方”. SIST 科学技術情報流通技術基準. http://sti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/main.htm, (参照 2013-11-17) .
- 3) 二通信子ほか. 留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック. 東京大学出版会, 2009, 218p.
- 4) 石井一成. ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方. ナツメ社, 2011, 215p.

第7章 実習問題

引用、参考文献

問題 1. 次の引用文について、引用の仕方として修正すべき点を指摘してください。

- ① 酒井 ㉑は以下のように指摘している。

「誰かが調査して報告したからこそ、情報として利用可能になっているのだ。ある特定の文献のおかげで知り得たことなので、引用が必要である。他の例も見えていこう。まずは引用が必要な例からだ。」

つまり、誰もが知っている自然現象や一般常識については引用の必要がなく...

(修正すべき点)

- ② 酒井 ㉑は以下のように指摘している。

誰かが調査して報告したからこそ、情報として利用可能になっているのだ。ある特定の文献のおかげで知り得たことなので、引用が必要である。他の例も見えていこう。まずは引用が必要な例からだ。つまり、誰もが知っている自然現象や一般常識については引用の必要がなく...

(修正すべき点)

問題 2. 次の引用文はレポートの中の一節です。引用文献の情報に下線を、レポート執筆者の意見に波線を引いてください。

- ① 八百長を断固として否定する考え ㉒は、大相撲をスポーツととらえることに深く関係している。
- ② 八百長を断固として否定する考えは、大相撲をスポーツととらえることに深く関係している ㉒。

問題 3. 次の一文は、石黒圭さんが『論文・レポートの基本：この1冊できちんと書ける!』という本の中で引用の問題点について指摘した一節です。この一文を使って、引用文を作ってください。

「論文を読んでいると困るのは、どこまでが他者の引用で、どこからが書き手本人の主張なのかがわからなくなることです。」



<引用文献>

- 1) 酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007, p. 138.
- 2) はぎのすけ. 八百長を排すると大相撲の文化が損なわれるのか—大相撲の複層的構造から考える—. (全学教育授業 『レポートカアップ』 のための情報検索入門) サンプルレポート)
- 3) 石黒圭. 論文・レポートの基本:この1冊できちんと書ける!. 日本実業出版社, 2012, p. 199.

第8章 よいよいレポートを目指して

～客観的に見直そう～

■本章の目的

ここまでレポートの作成方法と様々な資料の探索方法を学んできました。この章では説得力があり、わかりやすいレポートを書くためのチェックポイントを学びます。

1. レポートを提出する前に

1.1 客観的にチェックしてみよう

レポートを書き上げたら、必ず全体を見直して内容や構成、参考文献の記載方法などをチェックしましょう。タイトルや序論には入れるべき要素があり、参考文献についても記載すべき項目が決まっています。必要な項目が含まれているか、わかりやすい流れになっているか、文章の体裁は整っているか、確認しましょう。

また、他人に自分のレポートを読んでもらうというのも1つのチェック方法です。自分では見逃しがちな点を指摘してもらえたり、自分のレポート内容を説明することで、改めて自分の考えを整理できたりするメリットがあります。

1.2 レポートの評価ポイント

提出期限や提出方法、文字数などの指定された事項をきちんと守ることが必要最低限のマナーでありルールです。これらがきちんと守られていて、初めてレポートが評価されます。レポート本文の評価は、誤字・脱字がないか、項目立てを行っているか等の形式に関するポイント、結論が明示されているか、論理が飛躍していないか等の内容に関するポイントをもとに行われます。

執筆中や提出前の見直しを行う際には、これらの評価ポイントを意識しましょう。

レポートの評価ポイント

- 字数制限
 - 誤字・脱字
 - 立論の妥当性：学術的・社会的な問いを設定しているか
 - タイトルの妥当性
 - 項目立て：序論・本論・結論などの項目立て、小項目の設定
 - 論理性：結論に至る過程の論理が一貫しているか、論理が飛躍していないか
 - 文章表現：わかりやすい文章になっているか
 - 引用の妥当性
 - 結論が明示されているか
 - 引用文献・参考文献リストが指示された形式で正しく記載されているか
- 等

レポート作成 チェックリスト

提出前にチェックしましょう！

- 指示されたレポートの形式を満たしていますか？
- 指示された字数制限を守っていますか？
- 誤字脱字はありませんか？
- 引用文献・参考文献は正確に記載されていますか？

～レポートとは～

■レポートの要件

- 何らかの、学術的・社会的問題を扱っており、それに対する回答を示していること

↓

「問い」

↓

「問い」に対する「自分の主張」と「主張に至る論証」

- ×自分の思いや考えをただ綴るものではない (ex.感想文、作文、随筆)
- ×自分が満足するためのものではない (⇒読み手を満足させるためのもの)
- ×お役立ち情報ではない (ex.調べたことを書くだけ)

■学術的・社会的問題とは

- その解決に、学術的・社会的な意義がある
- 多くの読者が興味・関心を持ってくれること

■レポートの構成と書くべき事

- タイトル： 扱う問題
 - 着眼点
- 序論： 何を前にして (前提となる事実・先行研究の紹介、執筆動機)
 - 扱う問題 (どういう問題に取り組むのか)
 - 問題意識 (どうして取り組むのか、その問題を解決するとどんな良いことがあるか)
 - 着眼点と着眼理由 (解決の糸口)
 - 何をやるのか (取り組んだ問題を解決するためにやったこと)
- 本論： 文献に基づく客観的事実
 - 自分の見解 (主張) を論証・考察する
- 結論： 「問い」に対する回答 (×まとめ ×感想 ×考察)
- 引用・参考文献リスト

～説得力のある主張とは～

■説得力のある主張とは

- そう主張する理由 (根拠) を述べている
- 客観的な事実に基づいて理由を述べている
- 理由が論理的である
- 他の主張に比べ、その主張の方が確からしい

～わかりやすい文章とは～

■文章の基本的な構成要素

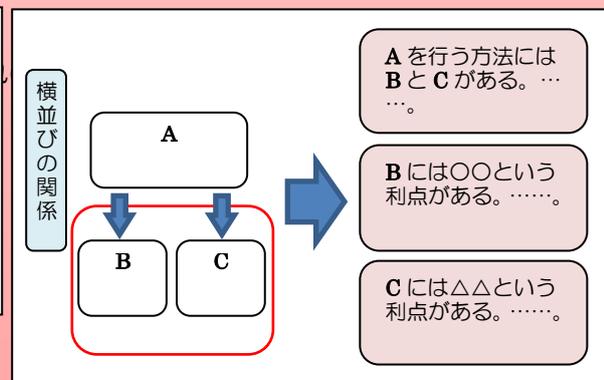
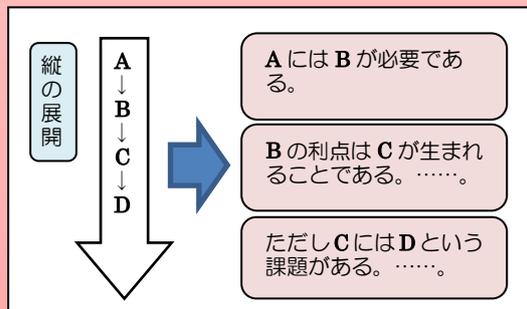
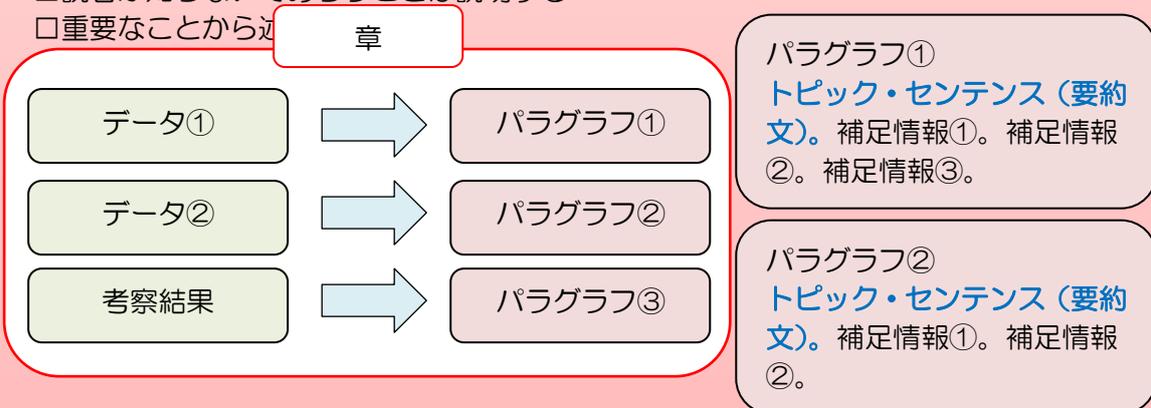
- 前もって説明しておきたいこと（前の章や段落にある時は不要）
- 扱う話題
- 論の組み立て：回答を導く論理。
「説明=回答」になる場合、論の組み立ては不要なこともある
- 扱う話題に対する回答：説明がそのまま結論となる時もある
(ex. 扱う話題が「〇〇とは何か」の場合、回答はその説明)
- 回答を受けての補足：必要な時のみ書く

■わかりやすい文にする技術

- 1つの文で1つのことだけを言う
- 語と語との修飾関係を明確にする

■文章全体としてわかりやすくするコツ

- 無駄な情報を削る
- 1つの章では1つの大きな話題、1つの段落では1つの話題のみ扱う
- 何の話をするのかを前もって知らせる（見出しをつける、冒頭で扱う話題を明示する）
- 読者が知らないであろうことは説明する
- 重要なことから



～引用について～

- 引用文献と参考文献の違い（両者を区別せず「参考文献」と呼ぶ場合もある）
 - 引用文献：レポートの本文中で言及した文献
 - 参考文献：本文で言及はしていないが、執筆の過程全体を通じて利用した文献

- 正しく引用するために
 - 自分の文章と引用文とを区別する（×剽窃）
 - 引用した文献（＝出典）を明示する

- 引用文献の示し方
 - 次のいずれかの形式で引用

著者名・発行年方式

…本文中での引用箇所（著者名か引用文の後）に引用順に番号を振り、引用文献リストにはその番号順に文献を記述する

例) 酒井(2007,P.138) は、「ある特定の文献のおかげで知り得たことなので、引用が必要である」と述べている。

<引用文献>

酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007, p. 138.

引用順方式

…本文中での引用箇所（著者名か引用文の後）に引用順に番号を振り、引用文献リストにはその番号順に文献を記述する

例) 酒井¹⁾ は、「ある特定の文献のおかげで知り得たことなので、引用が必要である」と述べている。

<引用文献>

1)酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007, p. 138.

- 引用文の作成方法
 - 次のいずれかの形式で引用
 - 「 」を用いて本文中に埋め込む
 - 引用文の前後を 1 行空け、さらに左側に 2～4 文字分空白をとり、引用文献の記述をそのまま記述する

～参考文献リストの書き方～

■指定された形式に従い、文献リストを記述する。

下記は SISTO2 の例。(□はスペースを示す)

http://sti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/main.htm

□図書（全体を参考にした場合）

著者名.□書名.□版表示.□出版地.□出版者.□出版年.□総ページ数.□(シリーズ名).

□図書（一部を引用・参照した場合）

著者名.□”章の見出し”.□書名.□版表示.□出版地.□出版者.□出版年.□ページ数.

□雑誌論文

著者名.□論文タイトル.□雑誌名.□出版年.□巻数.□号数.□ページ数.□URL.□(参照日).

□ウェブサイト

著者名.□“ウェブページの題名”.□ウェブサイトの名称.□URL.□(参照日付).

□新聞記事

著者名.□記事タイトル.□新聞名.□発行年月日.□朝夕刊の別.□版.□ページ数.

□辞書・百科事典の項目

項目の執筆者名.□“項目名”.□事典名.□事典の編者名.□版表示.□出版者.□出版年.□ページ数.

～図表の注のつけ方～

□図表に番号とタイトルをつける。表の場合は表の上部、図の場合は図の下部に示す

□元データの引用を明示（参考文献リストに詳細を記載）

□図表に脚注をつける（脚注にも出典を記載）

□（グラフの場合）単位、基数（100%にあたる実数）を記載

総務省の調査⁽¹⁾によると、1年間のうち最低1回、何らかのスポーツを行ったと回答した人の割合（スポーツ行動者率）は、過去25年間で1991年の78.0%をピークに、2011年まで低下し続けている（図1）。

...

図表に番号をつけ、本文と図の番号を対応させる。

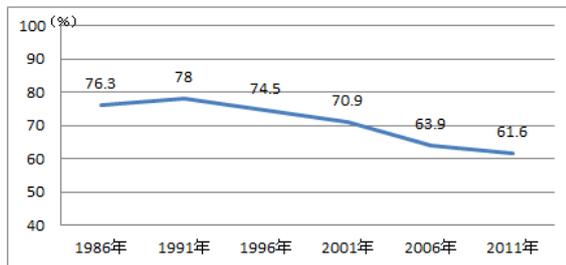


図1 スポーツの男女行動者率の推移（1986～2011年）
15歳未満を除く

社会生活基本調査⁽¹⁾（総務省統計局）をもとに作成

【脚注】出典を明示する。

※自分で加工・編集した場合も必要

参考文献

1) 酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007, 225p.

※第1章実習問題の解答はありません。

第2章 実習問題 (解答例)

※解答は2013年9月時点のものです。

例題

例題1. 次の資料について、東北大図書館本館内の配架場所と請求記号を調べる。

樋口という著者が執筆した「憲法」という書名の図書で、東北大学内に所蔵があるもののうち、最新版のもの

解答. 本館内の配架場所：本館2F学閲 等
請求記号：AZ-213/0615 等

例題2. 次の資料の配架場所と資料番号を調べる。

高瀬博文. カーボンナノチューブを用いたポリマーコンポジット. 粉体工学会誌. 2004, vol. 41, no. 11, p. 822-828.

解答. 配架場所：工学分館3F和雑誌 等
資料番号：03055002455 等

図書

問題1. 生殖医療または生命倫理に関する図書を集めたい。OPAC の学内検索と学外検索の結果を比較する。それぞれ何件ヒットするか。

解答. 学内検索：例：313(複合語分解時 403) 件
学外検索：例：365(複合語分解時 500) 件

問題2. 次の資料を検索し、東北大学内の配架場所と請求記号を調べる。

P. W. Atkins, R. S. Friedman, *Molecular quantum mechanics*, 3rd. Ed., New york, Oxford Univ. Press, 1997, p. 262.

解答. 配架場所：北青葉山分館1階図書
請求記号：PA47/165

問題3. グローバル企業に関する図書を幅広く探したい。どのような検索方法が効果的か。

検索方法 (どのように検索したか)	キーワード (検索で用いた語)	ヒット件数
例：検索条件=全ての項目から 論理演算子=OR	例：グローバル企業 多国籍企業	例：202
例：検索条件=全ての項目から 倫理演算子=OR	グローバル企業 世界企業 (企業提携, 企業系列...)	504
例：検索結果→図書詳細画面で 分類をクリック (検索条件=標準分類)	335.5 (分類)	660

様々な調べ方があるので、1例としてこの2つを紹介します。

雑誌

問題4. 次の資料は東北大学で所蔵しているか。また他大学で所蔵しており、かつ継続して購入している館はどこか。

雑誌『大学の図書館』の7巻5号

解答. 東北大学所蔵： あり or なし

所蔵している大学：

東工大小金井, 阪市大, 松山大図, 大正大,
フェリス, 広文大, 淑徳女子, 青学相模原,
九女大, 横市大など。
末尾に[+]のマークがあり、
7や7(1-5)等という記載があるもの

問題5. 次の資料は東北大学で所蔵しているか。所蔵していない場合は、学外の所蔵館を1つ挙げよ。また、この文献の雑誌名は何か。電子ジャーナルの閲覧は可能か。

K. Barnham, J. L. Marques, J. Hassard and P. O' Brien, Quantum-dot concentrator and thermodynamic model for the global redshift. *Appl. Phys. Lett.*, **76** 9 (2000), pp. 1197-1199.

解答.

東北大学所蔵： あり or なし

所蔵している大学： _____

雑誌名： Applied Physics letters

電子ジャーナル： 閲覧可能

第3章 実習問題（解答例）

雑誌論文

問題 1. CiNii Articles の検索でヒットした次の資料について、下記項目を調べて下さい。

入手方法については、入手出来る方法が確認できればよいので。電子ジャーナルで入手出来る場合は冊子体の所在を確認する必要はありません。

著者名	三宮 基裕, 井上 孝徳, 川崎 順子
論文タイトル	中山間地域に居住する高齢者の地域生活と QOL 評価の関係：高齢者の QOL 向上に向けた福祉のまちづくりに関する研究
雑誌名	九州保健福祉大学研究紀要
出版年	2011
巻号数・ページ	Vol. 12, p.31-38
入手方法	電子ジャーナル 有 無 学内所蔵（冊子）有・無（所在： ） 他大学所蔵 有・無 複写依頼をする 図書館で相談する

問題 2. CiNii Articles で以下の論文を探して、下記項目を調べて下さい。

1995 年よりも前に書かれた神戸市長田区のまちづくりに関する論文

著者名	今野 裕昭
論文タイトル	都市の住民運動と住民組織--神戸市長田区真野地区の「まちづくり」運動
雑誌名	東北大学教育学部研究年報
出版年	1986
巻号数・ページ	No. 34, p. 51-106
入手方法	電子ジャーナル <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 学内所蔵 (冊子) <input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 (所在 :) 他大学所蔵 <input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 複写依頼をする 図書館で相談する

問題 3. CiNii Articles で以下の論文を探して、下記項目を調べて下さい。

塩卓悟氏の書いた「宋代における肉食の普及状況」という論文

著者名	塩卓悟
論文タイトル	宋代における肉食の普及状況--南宋期・江南の事例を中心に
雑誌名	集刊東洋学
出版年	1998
巻号数・ページ	No. 79, p. 69-86
入手方法	電子ジャーナル <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無 学内所蔵 (冊子) <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 (所在 : 本館 2 号館等) 他大学所蔵 <input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 複写依頼をする 図書館で相談する

第4章 実習問題（解答例）

新聞記事

問題1. フードロス（まだ食べられる食品が大量に捨てられている社会問題）に関する最近の動向・NPOによる支援の事例を集めたい。「聞蔵II」を使って、6ヶ月以内に掲載された記事を探してみましょう。また、掲載された新聞の情報も書き出してください。

（解答例）

使ったキーワード	「フードロス」、「食品ロス」、「食品、廃棄、NPO」 など
記事タイトル（見出し）	消費期限迫る食品、廃棄より提供を 北九州にも「フードバンク」
新聞名	朝日新聞
発行日、朝夕刊、ページ等	2014年1月16日、朝刊、北九・1地方（※福岡県北九州地域面）、25ページ

※2014年2月24日現在のヒット数：

「食品、廃棄」→53件、「食品、ロス」→45件、「食品、廃棄、支援」→11件、
「食品、廃棄、NPO」→7件、「食品ロス」→4件、「食品ロス、NPO」→0件、「フードロス」→0件

※類義語、上位語、下位語など、様々な言葉で検索してみるのがコツ。また、記事にある言葉を使って再検索すると、関連記事が見つかることも多い。（例：記事中に表れた言葉「フードバンク」で再検索すると15件ヒットする）

統計

問題2. 問題1のテーマについて、関連する統計資料を探したい。「政府統計の総合窓口」（e-Stat）を使って資料を探してみましょう。

解答例

統計名	食品ロス統計調査 備考： 農水省：食品ロス統計調査、食品循環資源の再生利用等の実態調査 食品ロスの現状（推計値）等資料もあり 消費者庁：「食べもののムダをなくそうプロジェクト」サイトに農水省統計へのリンクあり。その他、様々な事例報告・関連情報あり。
統計を見て、新たに分かったことを自由にメモしましょう。	

第6章 実習問題（解答例）

アウトライン

問題 1. 下記の内容のレポートについて、本論のアウトラインを考えてみましょう。

扱う問題	: 地方鉄道の存続に必要なものは何か。
問題意識	: 廃線の危機にある地方鉄道を守ることができる。
着眼点	: 和歌山電鐵の事例を中心に考える。
結論	: 地方鉄道の努力だけでなく、自治体の理解と支援が必要である。

以下に列挙した事実・データなどを、より良い本論になるように並べてみてください。回答欄には、③→⑦→②→と矢印で繋げるように記入し、大きな話題のかたまりは線で区切ります。なお、列挙した中には不必要な事実・データもあるので、それは回答に入れないよう注意してください。

- ① 地方鉄道の乗客数は年々減少している。
- ② 平成 12 年度以降、全国で 35 路線が廃線となった。
- ③ 地方鉄道の 8 割は経常収支で赤字となっている。
- ④ 和歌山電鐵は「たま駅長」などで話題づくりをしている。
- ⑤ 和歌山電鐵には地域住民を含めた運営委員会がある。
- ⑥ 和歌山電鐵に対する県の補助は、修繕費としての 2.4 億円だけである。
- ⑦ 和歌山電鐵の「いちご電車」は、集めた寄付金で製作された。
- ⑧ 経営再建の成功例と言われる和歌山電鐵でも、近年の経常収支では赤字が増えつつある。
- ⑨ 若桜鉄道では昔ながらの施設を文化遺産としてアピールしている。
- ⑩ 上下分離方式を取り入れた若桜鉄道の経常収支は安定している。
- ⑪ えちぜん鉄道は地域とのコラボレーションを大切にしている。
- ⑫ えちぜん鉄道は、一度廃線となった路線が復活したものである。
- ⑬ えちぜん鉄道に対して、県は 10 年で 39 億円の設備投資費を補助している。
- ⑭ 乗客数や収入を維持しても、古くなった設備の更新費用が負担となる。
- ⑮ 線路等の設備を自治体が保有する上下分離方式も広まっている。

回答欄 (記入例 ① → ② → | ③ → ④ → ……)

回答例 ① → ③ → ② → | ④ → ⑦ → ⑤ → | ⑧ → ⑭ → | ⑥ → ⑬ → ⑮
→ ⑩

最初の章 (①、③、②) で地方鉄道の現状を示し、次の章 (④、⑦、⑤) で和歌山電鐵の事例を紹介します。その次 (⑧、⑭) でそんな和歌山電鐵でも苦しい状況とその原因を示し、最後に (⑥、⑬、⑮、⑩) その解決策となりそうな事例を紹介しています。

ただしこれはあくまで一例ですので、自分なりにいろいろ考えてみてください。

問題 2. 下記の形式に従って、レポートの構成要素のうちタイトル・序論・本論・結論の内容をまとめて、レポートのアウトラインを作成してください。

■ タイトル：八百長を排すると大相撲の文化が損なわれるのか ー大相撲の複層的構造から考えるー

■ 序論

◇ 扱う問題：八百長を排すると大相撲の文化が損なわれてしまうのか。

◇ 問題意識：八百長を排した上でスポーツとしての良さを高め発展できる。

◇ 着眼点：大相撲が複層的構造を持つという観点から考える。

■ 本論（結論までの論理の流れを整理しましょう。）

◇1：(タイトル・見出し) <u>八百長はスポーツの存在理由を脅かす</u>
・(論じる内容) <u>スポーツの目的は勝利の追求である。</u>
・ <u>八百長はその目的を損ね、存在理由を脅かすものである。</u>
・ <u>大相撲はスポーツとみなすことができるので、八百長はその存在を脅かす。</u>
◇2： <u>八百長を擁護する思考</u>
・ <u>メディア上では八百長を擁護する意見も見られた。</u>
・ <u>そこには大相撲は文化的なものであるという考えがある。</u>
・ <u>勝利を追求するスポーツの面だけが重視されると、文化的要素が損なわれるおそれがある。</u>
◇3： <u>大相撲のスポーツ的要素</u>
・ <u>大相撲ではただ勝つことが良いこととされるわけではない。</u>
・ <u>「相撲の型」に則った、より安定的・絶対的な強さを証明することが求められている。</u>
・ <u>大相撲のスポーツ的要素は、単なる勝利追求にとどまるものではない。</u>
◇4： <u>大相撲の複層的構造</u>
・ <u>大相撲を4層の複層的構造を持つものとする考えがある。</u>
・ <u>八百長擁護派の危惧は、勝敗を決する第二層が強調されることである。</u>
・ <u>八百長を排することは、「相撲の型」などの第三層の方を涵養することに繋がる。</u>

■ 結論

大相撲は文化的要素もスポーツ的要素も複層的に含んだ存在であり、八百長を排して勝負の質を高めることは、大相撲の文化を損ねることにはならない。

文章表現

問題 3. 下記の文章を、よりわかりやすい文章に書き直してください。

たま駅長やいちご電車で知られる和歌山電鐵だがそういった話題性だけでなく地元に着したとりくみにも注目すべき点があり沿線市民サポーターもメンバーにくわえた運営委員会があるので会社側と沿線市民の意思疎通向上に寄与しており駅施設のペンキ塗りなどの活動を通してじぶんたちがこの路線を支えているというマイレール意識を持てるようになっていくだけでなく社員育成にも力を入れており新会社設立時に地元和歌山の若い人を中心に社員を募集したので生き生きとして活気があって現在は委託している車両や電気設備の保守管理も将来的には自分達でやっというと考えているのです。

ヒント：まずは、一つの情報ごとに例文を区切ってみましょう。

回答欄

回答例

たま駅長やいちご電車で知られる和歌山電鐵だが、そういった話題性だけでなく、地元に着した取り組みにも注目すべき点がある。例えば、沿線市民サポーターもメンバーに加えた運営委員会の存在が挙げられる。この委員会によって会社側と沿線市民の意思疎通が向上しているのだ。さらに、委員会では駅施設のペンキ塗りなども行っているのだ、それらの活動を通して、自分たちがこの路線を支えているというマイレール意識を持てるようになっていく。

また、社員育成に力を入れている点にも注目できる。新会社設立時に地元和歌山の若い人を中心に社員を募集したことにより、生き生きとして活気がある会社になっているのだ。そして、現在は委託している車両や電気設備の保守管理も、将来的には自分たちで行おうと考えているのである。

第7章 実習問題（解答例）

引用、参考文献

問題 1. 次の引用文について、引用の仕方として修正すべき点を指摘してください。

- ① 酒井 2)は以下のように指摘している。

「誰かが調査して報告したからこそ、情報として利用可能になっているのだ。ある特定の文献のおかげで知り得たことなので、引用が必要である。他の例も見えていこう。まずは引用が必要な例からだ。」

つまり、誰もが知っている自然現象や一般常識については引用の必要がなく...

(修正すべき点)

引用文が長く、引用文の前後や左側に空白をとっているので、「」は必要ない。

- ② 酒井 2)は以下のように指摘している。

誰かが調査して報告したからこそ、情報として利用可能になっているのだ。ある特定の文献のおかげで知り得たことなので、引用が必要である。他の例も見えていこう。まずは引用が必要な例からだ。つまり、誰もが知っている自然現象や一般常識については引用の必要がなく...

(修正すべき点)

引用文の前後を1行空け、左側を2~4文字空けて、引用文だとはっきりわかるようにする必要がある。

問題 2. 次の引用文はレポートの中の一節です。引用文献の情報に下線を、レポート執筆者の意見に波線を引いてください。

- ① 八百長を断固として否定する考え 2)は、大相撲をスポーツととらえることに深く関係している。
- ② 八百長を断固として否定する考えは、大相撲をスポーツととらえることに深く関係している 2)。

※引用を示す番号を振る場所によって、どこまでが引用箇所なのかが変わったり、わかりにくくなったりしてしまいます。特に要約して引用する場合は、引用箇所のすぐ後に引用を示す番号を入れるなど、注意深く引用してください。

問題 3. 次の一文は、石黒圭さんが『論文・レポートの基本：この1冊できちんと書ける!』という本の中で引用の問題点について指摘した一節です。この一文を使って、引用文を作ってください。

「論文を読んでいると困るのは、どこまでが他者の引用で、どこからが書き手本人の主張なのかがわからなくなることです。」



(例) 石黒によれば、引用の問題点は、「どこまでが他者の引用で、どこからが書き手本人の主張なのかがわからなくなること」³⁾であるという。

(例) 引用の問題点について石黒は、「論文を読んでいると困るのは、どこまでが他者の引用で、どこからが書き手本人の主張なのかがわからなくなること」³⁾であると述べている。

※引用文の後は、「～と指摘している」「～と述べている」などの表現を使って、他者の意見と自分の意見を区別しましょう。

<引用文献>

- 1) 酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007, p. 138.
- 2) はぎのすけ. 八百長を排すると大相撲の文化が損なわれるのか—大相撲の複層的構造から考える—. (全学教育授業「『レポートカアップ』のための情報検索入門」サンプルレポート)
- 3) 石黒圭. 論文・レポートの基本:この1冊できちんと書ける!. 日本実業出版社, 2012, p. 199.

2013 年度 全学教育科目授業
「レポート力」アップのための情報探索入門
最終レポート

八百長を排すると大相撲の文化が損なわれるのか
扱う問題

—大相撲の複層的構造から考える—
着眼点

提出日 2014 年 1 月 30 日
担当教員 柳澤輝行 先生 他

文学部 1 年 B3LB●●●●●
氏名 はぎのすけ

1.はじめに

2011年2月に、大相撲の取り組みにおける白星の売買、あるいは取引（以下、八百長）が行われていたことを示唆する新聞報道があった¹。勝敗を競うスポーツの存在にとって、八百長は致命的な行為である。当然この大きなスキャンダルへの批判が高まったが、例えばスポーツライター玉木正之によるウェブサイトの記事²のように、八百長を擁護する、あるいは八百長を問うこと自体が「ナンセンス」という声も少なくなかった。

文献の存在を示す引用方法

八百長擁護論の多くは総じて、大相撲はいわゆるスポーツではないとし、大相撲界全体が文化的見世物なのだとする。大相撲世界の文化を楽しむ人々にとっては、時に八百長が行われるとしても、それは目をつぶるべきものであったり、義理人情として味わうべきものであったりする。八百長問題について改革を断行することは、スポーツとしての要素のみが重んじられ、大相撲の文化としての重みを致命的に損ないかねないという論調である。

一方で、大相撲は個人優勝制度や、先進的といえるビデオ判定を取り入れており、勝利を追求することを大前提として競技するスポーツの体を成している。スポーツに八百長は許容できないものであり、八百長を容認するような場合は、大相撲のスポーツとしての面は死ぬことになる。

何を前にして

扱う問題

果たして、大相撲が文化であることとスポーツであることは両立せず、八百長を排すると大相撲の文化が損なわれてしまうのだろうか。もし八百長を排しても文化的側面が損なわれないことを証明できたとすれば、大相撲は八百長を排した上でスポーツとしての良さを高め、より豊かな存在として発展していくことができる。

問題意識

着眼点

八百長を排すると大相撲の文化が損なわれるという意見は、大相撲のスポーツ的要素を、勝敗だけを追求するものとして一面的にとらえることによって生じている。しかし大相撲が複層的構造を持ち、大相撲のスポーツ的要素もまた複層的であるとすると、たとえ八百長を排しても、大相撲の文化的側面が損なわれることはないだろう。

本レポートでは、現在の大相撲を構成する要素を改めて確認することで、八百長を否定することは、大相撲の文化としての良さを否定することではないということを明らかにしていきたい。

何をやるのか

論理展開

2.どのような点で対立するのか

2.1 八百長はスポーツの存在理由を脅かす

はじめに、一般的なスポーツと八百長の関係について考えてみたい。

川谷によれば、「『強さ』が試合の勝敗によって決定されるという思想こそが、スポーツの根本的な思想」³である。その場合、「競技そのものは、勝利ではなく勝敗の決定という価値を目的として持つ」⁴ため、スポーツでは「強さの比較という競技そのものの目的が、競技者に対して、勝利の追求を目的として課する」⁵と述べている。川谷が述べる競技の目的を揺るがす八百長は、スポーツの存在理由に致命的なダメージを与えるものであるといえるだろう。

引用文が短い時の引用方法

では、大相撲はスポーツと言えるのだろうか。中世には勅進相撲といわれ、神社仏閣への寄進を募る目的で競技が行われた大相撲も、今日ではプロスポーツとして発展を遂げている。長らく個人の成績に対する顕彰制度は存在しなかったが、現代の大相撲は公式に個人優勝制度を確立しており、先進的にビデオ判定を導入して勝敗の決定に厳密を期している。大相撲における試合（取組）は勝敗を明らかにするために行われ、力士は勝利を追求するという体制が確立しており、十分にスポーツの体をなしているとみなすことができる。

2.2 八百長を擁護する思考

上記のように大相撲はスポーツとしての体裁を整えている。とすれば八百長はやはり存在してはならないものなのであるが、テレビや新聞といった大メディアにおいてさえ、八百長を擁護する、あるいは消極的に許容する意見が散見された。そうした意見は、どのような理由から可能になるのだろうか。

そこには中島隆信の述べるように、独特の慣習や伝統まで含めて大相撲の世界全体が「文化遺産のようなもの」⁶だとする考えがある。中島は、大相撲を他のスポーツから差別化し、個人主義的な競争をある程度に制限することは合理的であるとしている⁷。それは、八百長対策を含めた大相撲界の構造改革について、それを断行することによって公正な勝負というスポーツの面だけが重視され、大相撲の文化的部分が今後軽んじられてしまうことを嫌う考えである⁸。

要約して
引用する
方法



2.2は、問いに対して引用で答えている印象を、読者にもたれてしまう。引用を行っても良いが、必ず自分の考察を述べるようにしよう。

2.3 大相撲のスポーツ的要素

八百長をあってはならないこととする考えは、大相撲をスポーツとして見ることにより生じる。しかし勝利の追求というスポーツの側面がある一方で、「立ち会いの変化やはたき込みなどが減り、土俵際での逆転など面白い相撲」⁹というように、ただ勝つことが良いこととされないのも大相撲である。不意打ちのような形の取り口は、例え勝利しても批判されがちなのが大相撲の特徴だ。そうした特徴は、大相撲のスポーツ的要素が、勝利の追求だけでは表せないことを示唆している。

ただ勝つことが良いこととされない場合に、よく引き合いに出されるのは「相撲の型」や「いい相撲」というものである。不意打ちや奇襲のような戦法は確かに時には有効である。しかし長いスパンで見てもより多く勝利するには、しっかりした相撲の技術が必要とされるだろう。「相撲の型」や「いい相撲」は、長い歴史の中で淘汰・蓄積されてきた、相撲の技術体系を表現することであると考えられる。よって大相撲の試合においては、一刻の勝利で証明されるその場限りの強さよりも、相撲の技術体系の表現を通じて、より安定的・絶対的な強さを証明することが求められているのだといえる。

この点から、大相撲のスポーツ的要素は決して単なる勝利追求にとどまらず、より洗練された強さの表現に重要性があると考えられる。

3.大相撲の複層的構造

3.1 相撲4層という視点

2.2の中島の考え方によると、八百長を批判する側と擁護する側は、大相撲はスポーツなのか文化なのか、という問題を孕んで対立しているように見える。しかし大相撲のスポーツ的要素が、必ずしも中島が主張するような単なる勝利追求ではないのは2.3で考察したとおりである。さらに新田一郎は「相撲とは何か」という問いに対して、要約すると以下の4つの層の重なりとして説明している¹⁰。

- ・第一層：「相撲」の語源「すまふ」（争う、抵抗する）に由来する、原義としての「力くらべ」「格闘」そのもの
- ・第二層：現代の「相撲」の競技ルールを遵守する範囲で展開される競技
- ・第三層：「相撲の型」という技術体系の实践、技術的な意味での相撲らしさの表現
- ・第四層：格闘競技としての要素以外の、「相撲」を装飾するさまざまな文化装置

要約して引用する方法

もう少し詳しく説明をすると、第一層は「(平安時代の年中行事である)相撲節以前、各地でそれぞれに行われていたであろう『相撲』は、この第一層の意味において、『相撲』として括ることができる¹¹とされる。

また第二層は

長文の引用方法

『土俵』という競技場で、裸体にマワシを締めた徒手空拳で、『土俵外に体の一部がつく』か『足の裏以外の体の一部が土につく』ことによって勝敗を決し、(略)、一定の「禁じ手」を用いることを禁止する。こうした極めて単純なルールのもとに展開される競技が、第二層の『相撲』の意味である¹²

とされる。アマチュアで開催する世界相撲選手権などがそれにあたると言える。これは各国の格闘競技者（普段は相撲とは別の競技をしている）が相撲のいたって簡単なルールに基づいて試合を行うものであり、「土俵上で展開された光景に対し、相撲ファンの多くは『これが相撲か?』という驚愕と疑念を覚えたであろう¹³という相撲である。2.1でみた、勝敗を明らかにするスポーツの試合の目的や、勝利の追求という原理は、純粹にそれを表現すればするほど、この層に関係が深いといえる。

第三層は

ルールには明示されていないが、実際に力士たちの土俵上の競技形態を律している、『相撲の型』と呼ばれる技術体系であり、いわば技術的な意味での『相撲らしさ』を表現した層である。例えば、立合いは低い体勢から踏みこんで当たり合うとか、上手

を浅く引き差し手をかえすのが『四つ相撲の型』だとか、引いたり叩いたりせず前へ出て勝つのが『いい相撲』だとかいうのがそれである¹⁴

とされる。

またそれは、「第二層の上での長年にわたる試行錯誤と淘汰の結果、一定の合理性を持った技術体系として構築されたもの」¹⁵である。2.3で確認した大相撲のスポーツ的要素は、この層に強く表れているといえるだろう。

最後に第四層は

格闘競技としての要素以外の、『相撲』を装飾するさまざまな文化装置である。たとえば四本柱であるとか、力士や行司・呼出しの装束であるとか、太鼓・拍子木の音色などによって表現される、『相撲情緒』である¹⁶

とされる。

以上のように、大相撲を複層的なものとしてとらえれば、スポーツである要素も文化である要素も、どちらも欠かせないものとして大相撲を構成していることがわかる。八百長の是非を問うことは、大相撲はスポーツか文化か二者択一を迫ることと同じではない。



3.1 は、主文に対し、引用文（網掛け部分）の割合が多いので注意が必要。自分の考察が「主」であり、引用は「従」となるようにしよう。

3.2 大相撲がスポーツであることと文化であることは排他的問題ではない

擁護派は文化装置としての大相撲を重視しており、2.1で確認したスポーツの目的を大相撲が追求しようとすることによって、勝敗に関係のない部分が今後蔑ろにされることを危惧するのである。しかし大相撲はそのようなスポーツを指向するのだろうか。仮に、勝敗の決定や勝利の追求という原理のみを純粹に目指す相撲があったとして、それは第二層の相撲として表れることになる。この層にとどまる相撲は相撲に見えないものであり、決して大相撲ではない。2.3で考察した、大相撲が指向するスポーツとしての要素は、第三層にこそあるのだといえる。

つまり八百長を排除することは、大相撲の第三層を涵養するという方向を目指すのであって、それは第二層の、とても相撲とは思えない競技に陥ることとはまったく別の問題である。文化装置を保守することは、もともと八百長の是非とは関係がない。

論
理
展
開

結
論

4. おわりに

八百長の是非を問うことは、大相撲がスポーツか文化かを排他的に問うことと混同されがちである。しかし大相撲とは自ずと、文化的要素もスポーツ的要素も複層的に含んだ存

在である。一方では八百長を排して勝負の質を高め、相撲の技術を磨いていき、一方では文化装置としての部分を保護・継承していくことは、決して対立したベクトルではないのである。技術的な相撲らしさの追求と、文化的な相撲らしさの両方があっての大相撲であり、両者のバランスを取りながら発展していくことは、十分に可能なことではないだろうか。

実績ある力士出身者のみで構成される、いわば身内である日本相撲協会も「対八百長で増員」¹⁷など、八百長根絶への動きを見せている。今後はそうした動きとともに、文化装置部分の継承も大切にすることが、大相撲発展のために一層重要であると考えられる。

【引用文献リスト】

- 1 「八百長相撲」疑いメール 元春日錦ら4人の携帯 勝ち星充買か。読売新聞。2011-2-2, 夕刊, p.11. ヨミダス歴史館, <https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>, (参照 2013-11-13).
- 2 玉木正之. "大相撲、「八百長」でなぜ悪い?". Camerata di Tamaki. http://www.tamakimasayuki.com/sport/bn_170.htm, (参照 2013-11-13).



Web上の情報を引用する場合は、内容の吟味はもちろんのこと、そのサイトが信頼できるものかどうか、可能な範囲で確認しよう。

- 3 川谷茂樹. "スポーツマンシップについて(2)". スポーツ倫理学講義. ナカニシヤ出版, 2005, p.54.
- 4 川谷茂樹. "スポーツマンシップについて(2)". スポーツ倫理学講義. ナカニシヤ出版, 2005, p.62.
- 5 川谷茂樹. "スポーツマンシップについて(2)". スポーツ倫理学講義. ナカニシヤ出版, 2005, p.63.
- 6 中島隆信. "力士は会社人間". 大相撲の経済学. 東洋経済新報社, 2003, p.18.
- 7 中島隆信. "力士は会社人間". 大相撲の経済学. 東洋経済新報社, 2003, p.7-21.
- 8 中島隆信. "角界の構造改革". 大相撲の経済学. 東洋経済新報社, 2003, p.169-187.
- 9 川島幹之. スポーツ小咄:絶妙な取り組み解説に三賞. 朝日新聞. 2006年1月25日, 朝刊, 茨城全県版, p.30. 聞蔵II ビジュアル, <http://database.asahi.com/library2/>, (参照 2013-11-13).
- 10 新田一郎. 相撲の歴史. 講談社, 2010, p.309-319.
- 11 新田一郎. 相撲の歴史. 講談社, 2010, p.309. (引用文の丸括弧内はレポート執筆者による補筆)
- 12 新田一郎. 相撲の歴史. 講談社, 2010, p.313-314.
- 13 新田一郎. 相撲の歴史. 講談社, 2010, p.310.
- 14 新田一郎. 相撲の歴史. 講談社, 2010, p.310.
- 15 新田一郎. 相撲の歴史. 講談社, 2010, p.310.
- 16 新田一郎. 相撲の歴史. 講談社, 2010, p.310.
- 17 監査委員、土俵正せるか。朝日新聞。2011年5月11日, 朝刊, p.3.

-- 【参考文献リスト】 -----

- 竹内誠. 相撲の歴史. 財団法人日本相撲協会相撲教習所, 1993, 62p.
熊谷宗吉. ハッケヨイ残った. 東京新聞出版局, 1994, 226p.